

杉並区 河川の生物

——河川生物調査報告書——

昭和58年3月

杉並区環境部公害課

はじめに

近年、都市化のすすむなかで、都市と自然の共存を目ざし、緑豊かな都市環境を創造してゆくことが求められています。そのため、残された自然の保護や失われた自然の回復をはかることが大きな課題となっています。また、区内の河川については、豪雨時に洪水災害が発生しており、早急な対策が望まれています。この面からも区内に残された自然とのふれあいの場を確保し、調和のとれた対策が必要かと思われます。

こうした状況の中で、杉並区では、従来行われていた河川の理化学的な面からの調査に併行して、生物相からのアプローチとして生物調査をこころみました。

生物調査は、河川に生息する生物の種類と量を観察することによって水質状況を把握しようとするもので、底生物調査と付着藻類の調査が一般的です。今回の調査は、この両項目に加えて、魚類調査、動植物プランクトンの調査、植生調査、野鳥調査を加えました。このことにより、より一層、自然の様子が明らかになったのではないかと存じます。

私たちの行なった調査が河川への親しみを増すことに寄与し、自然の保護と回復の一助となれば望外の喜びとするところです。

最後に、植生調査と野鳥調査でご協力を賜った小原一正氏、小島進氏、竹下信雄氏に厚くお礼申し上げます。

昭和58年3月 杉並区環境部公害課

杉並区 河川の生物 目次

1. 河川生物の生息状況と水質	
(1) 生物調査結果による水質判定	2
(2) 調査項目などの概要	4
(3) 出現生物	4
(4) まとめ(生物調査から見た河川整備のあり方)	6
2. 魚 類	
(1) 調査結果の概要	9
(2) 調査方法など	9
(3) 調査結果	10
3. 底生生物	
(1) 調査結果の概要	28
(2) 調査方法など	28
(3) 調査結果	29
4. 植 物	
(1) 善福寺川と神田川を歩いて(小原一正)	34
(2) 善福寺川・神田川の川岸植生(小島進)	43
(3) 妙正寺川・善福寺川、神田川の水中共生	51
5. 野 鳥(竹下信雄)	
(1) 調査年月	70
(2) 調査方法	70
(3) 調査結果	70
(4) 考察	76
付記	77
6. 付着藻類と動植物プランクトン	
(1) 調査結果の概要	78
(2) 調査方法など	78
(3) 調査結果	79
7. 生物イラストと生物写真など	85

1 河川生物の生息状況と水質

杉並区公害課では、昭和57年度に河川生物調査を実施しました。本書は、その報告書として起稿したものです。調査は、魚類、底生生物、付着藻類、動植物プランクトン、植物、野鳥の各項目について行ないました。この章では、生物調査の全般についての解説と、調査結果の概要などを述べ、調査結果の詳細は次章以下に記載してあります。

(1) 生物調査結果による水質判定

ア 生物学的水質判定の意義

河川を流れている水の性質は、日々によって、また時間によって変化しています。昼間家庭や工場から排水が流れ出しているときと、そうでない時は水質が違いますし、晴天の続いた後と雨の後とはやはり違います。

このように水質は変動していますので、溶存酸素量とか生物化学的酸素要求量とかいった理化学的試験では、水質の平均的な様相をつかもうとすると、何度も数多く測定をくりかえし、そこから平均値を出してゆかねばなりません。

ところが生物相から水質を判定する場合は、ただ1回の調査によっても、その平均的な水質を知ることができます。例えば、かなり強い毒物が河川に流入したとしますと、生物は死滅してしまいますから、毒物が流れてから相当の期日が経過しても、もとの生物相にはもどりません。つまり、生物相には、その河川の履歴が反映しているので、ただ1回の調査でも、総合的、平均的なものと言えるのです。

しかし、生物学的水質判定には、化学分析のように明確な数字がでてこないという欠点

があります。そこで、生物調査では、下に述べるように、大雑把な階級を設けておき、水質がどの階級に属するかというように表現します。

水質調査の目的は、緑豊かな水辺の環境を保全し、あるいは創造してゆくというところにあります。生物調査は、こうした目的に合致した水質調査方法として意義があります。

イ 水質汚濁階級の分類

水質汚濁階級を、強腐水性水域 (ps)
 α 中腐水性水域 (αm)、 β 中腐水性水域 (βm)、腐水性水域 (os) の4つに分類しました。

(ア) 強腐水性水域 (ps)

DO (溶存酸素量) が皆無または極少で、BOD (生物化学的酸素要求量) も 10 ppm 以上と多いきわめてきたない水域です。

動物では、アメーバ類などの原生動物のほかには、イトミミズ、赤色ユスリカなど汚濁に特に強い種が出現するのみで、貝類や魚類などは特殊なものに限られます。

高等植物は出現しません。

(イ) α 中腐水性水域 (αm)

溶存酸素は、全然ないか、あってもきわめてわずかで、かなりきたない水域です。

動物では、まだマイクロなものが大多数を占めます。ヒメモノアラガイ、サカマキガイ、などの貝類のほか、ミズムシ、アメリカザリガニ、なども出現し、魚類では、コイ、フナ、ドジョウなどが生息します。クロモ、エビモ、ヤナギモなどの高等植物も出現します。

(ウ) β 中腐水性水域 (βm)

溶存酸素はかなり多く、BODは、2.5～5 ppmで、ややきれいな水域です。

動物では、コガタシマトビケラやヒメカゲロウなどの昆虫類のほか、モノアラガイ、カワナなどの貝類も出現し、魚類は種類、個体数ともに多くなります。クロモ、エビモ、カナダモなどの藻も多くなります。

(エ) 貧腐水性水域 (αs)

溶存酸素は多く、BODが2.5 ppm以下ときれいな水域です。

動物では、ナガレトビケラ、ヨコエビなど多くの種が出現します。魚類では、イワナなど清水性の種が生息します。

植物では、バイカモ、セキシウモなどが生育し、着生藻類が多くなります。

ウ 調査結果の評価方法

水質階級を判定する方法として様々なものが提唱され、また使用されていて、現在のところ1つの判定法で的確に判断できません。

本調査では、比較的用いられることの多い biotic index による方法を主に採用し、これに優占的に出現した種名などを考慮して判定しました。

biotic index は、汚濁非耐忍性種の種数をAとし、耐忍性種の種数をBとしたとき、 $2A+B$ をもって、biotic index とし、

この数値によって水質階級を判定しようとするものです。ただし、この方法は、肉眼的に見つけることのできる底生生物について開発された方法で、他の調査項目に適用するには、やや困難があり、また、河床の状況などによって出現種数が変化するので、この点も考慮しなければなりません。

エ 水質階級の判定結果

妙正寺川の杉並区内全域および、神田川の最上流部の久我山付近より上流では、もっとも汚濁した水域とされる強腐水性水域と判定されました。久我山地区をのぞいた神田川全域と善福寺川全域は、かなりきれいとされる α 中腐水性水域と判定されました。

オ 理化学的試験結果との比較

杉並区公害課で年4回、河川水質の調査を行っていますが、その結果をみると、下記のように、生物学的な水質判定によるよりも良い結果となっています。これは、生息生物が降雨時の急激な流量増加や下水のオーバーフローによる水質変化に耐えられず、汚濁に強い生物種のみが残存し、これが再び個体数を増加させるということが起こったためではないかと推察されます。

なお、理化学的試験結果の詳細は、公害課発行の「杉並区河川水質分析データ集」または「公害レポート」に掲載してあるので、本稿では省略しました。

(ア) 妙正寺川の水質

DOは、3 ppmを超え、多いときには10 ppmくらいになります。BODは、最近3～4年では10 ppmを超えることはほとんどなく、

3～8 ppm 程度です。この程度の水質は、 α 中腐水性水域のものとされ、今回の調査結果よりも良い値です。

(イ) 善福寺川の水質

DOは、昼間では10 ppmを超えており、BODは、5 ppmを超えることは稀です。この程度の水質は、 β 中腐水性水域の水質であり、今回の調査結果よりも良い値です。

(ロ) 神田川の水質

上流部の久我山付近では、DOが、5～10 ppmで、BODは10 ppm以上です。それより下流では、DOが昼間で10 ppmを超えており、BODは5 ppm以下です。いずれも、今回実施した生物学的水質判定の結果よりも良好な値です。

(2) 調査項目などの概要

調査した項目は、魚類、底生生物、付着藻類、動植物プランクトン、及び周辺環境調査として河川沿いの植物と野鳥を調査しました。それぞれの項目の詳細は、次章以下に個別に記載しました。また調査地点などを7頁の地図上に記載しました。

ア 魚類

昭和57年10月19日～21日にかけて、合計12地点で調査しました。

イ 底生生物

昭和57年5月25日と10月20日の2回、合計10地点、のべ20地点で調査しました。

ウ 付着藻類

昭和57年10月21日に、合計9地点で調査しました。

エ 動植物プランクトン

昭和57年10月21日に、合計3地点で調査しました。

オ 植生調査

陸上植生については、昭和57年の春と秋の2回、善福寺川と神田川の流域全域について踏査しました。水中の植生については、昭和57年6月～7月に、妙正寺川、善福寺川、神田川の全域を調査しました。

カ 野鳥

昭和57年8月と昭和58年1月に、妙正寺川、善福寺川、神田川の全域を踏査しました。

(3) 出現生物

ア 出現種数

魚類	12種
底生生物	3種
善福寺川	20種
神田川	15種
付着藻類	13種
善福寺川	22種
神田川	16種
動物プランクトン	17種
植物プランクトン	43種
植物	295種
善福寺川沿い	295種
神田川沿い	242種
水中の高等植物	4種
野鳥	20種

イ 出現種名（詳細は次章以降参照）

(7) 魚類

コイ、ギンブナ、キンブナ、ヒブナ、キンギョ、モツゴ、タナゴ、ウグイ、ヨシノボリ、オオクチバス、カダヤシ、ドジョウの12種が見つかりました。

コイ、フナ、ドジョウは、汚濁に強い種で多数が確認されたが、さらに、モツゴ、ヨシノボリなどの小型の魚種もかなり多数が生息しており、カワセミなどの魚食性の野鳥の餌となっている可能性があります。

(f) 底生生物

ミズミズ、エラミズ、イトミズ、シマイシビル、ハバヒロビル、モノアラガイ、サカマキガイ、ドブシジミ、ミズムシ、ホシチウバエ、セスジユスリカ、ヒメナグユスリカなどが出現しました。以上はいずれも汚濁耐忍性種です。

汚濁非耐忍性種としては、善福寺上池と下池の流路で採取されたカワニナとマシジミの2種だけでした。

なお、カワニナは、ホタルの幼虫が寄生することで有名であり、善福寺上池と下池の流路では、条件が整えば、ホタルの生息の可能性にあります。

(7) 附着藻類

藍藻類では、ピロウドラソウ、ユレモなどが、緑藻類では、イカダモ、キヌミドロなどが、珪藻類では、マガリケイソウ、クサビケイソウ、フネケイソウ、ハリケイソウなどが出現しました。

(7) 植物プランクトン

附着藻類で出現した種がほとんどで、その他に、チャツツケイソウ、オオバンケイソウ

が見られました。

(7) 動物プランクトン

コナヒゲムシが優占的に出現し、他には、ミドリムシ、カラヒゲムシ、ウロコカマリ、ゾウリムシ、ツリガネムシ、ワムシなどが見られました。

(7) 植物

全調査地点のなかで8割以上の地点で観察されたものを常在度V、6割以上のものをIV、4割以上のものをIII、2割以上のものをII、2割以下のものをI、ごくわずかしかな存在しないものを+、として分類しました。ここでは、常在度IV以上のものを記載します。

- a 善福寺川流域・常在度V在来種 1種
カタバミ
- b 善福寺川流域・常在度V帰化植物 2種
セイヨウタンポポ、ノゲシ
- c 神田川流域・常在度V在来種 1種
エノコログサ
- d 神田川流域・常在度V帰化植物 2種
オオアレチノギク、セイヨウタンポポ
- e 善福寺川流域・常在度IV在来種 3種
ヨモギ、メヒシバ、オヒシバ
- f 善福寺川流域・常在度IV帰化植物 2種
コヒルガオ、ハルジオン
- g 神田川流域・常在度IV在来種 6種
ヨモギ、メヒシバ、カタバミ、アキノエノコログサ、オヒシバ、ツユクサ
- h 神田川流域・常在度IV帰化植物 3種
イヌムギ、ケアリタソウ、ノゲシ

なお、第4章には、常在度別植物名一覧のほか、流域沿いの代表地点を選んで、情景とともに植生を紹介してあります。

(甲) 野鳥

出現した種(20種)は、以下の通りです。

カルガモ、マガモ、コガモ、キジバト、ドバト、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、カワラヒワ、モズ、アオジ、オナガ。

なお、第5章では、それぞれの種ごとに解説を加えてあります。

(4) まとめ(生物調査から見た河川整備のあり方)

善福寺川の水質は、都区内の中小河川のなかで最良のものです。神田川も、最上流部の家庭雑排水の流れ込む久我山地区をのぞいては、かなり上質の水質といえます。

しかし、今回の生物調査から得られた水質の状況は、溶存酸素量や生物化学的酸素要求量などの理化学的試験結果の示す水質階級よりも1ランク低い水質階級で、かなりきたないとされるものでした。

これは、生息生物が、降雨時の急激な流量増加や下水のオーバーフローなど、水位・流速の激しい変動や水質の変動による生活条件の変動を強いられ、結果的にその変動に耐えられる生物以外に生息できない状況を生みだしているためではないかと考えられます。

このように、善福寺川や神田川の水中の生態系は、脆弱な構造を持っています。ですから、私たちの努力によって、生態系を保護することが必要です。

また、近年、区内に於ても豪雨によって洪

水が発生し、早急な対策が望まれています。治水対策としても、自然とのふれあいの場を残した調和のある河川環境が必要と思われる。

ア 河川の流量の確保

生物の生息条件として、水温・水質の安定と、水量が必要です。透水性舗装などによって地下水のかん養を計ることが望まれます。

イ 急激な降雨流出の改善

雨水貯留や透水性舗装が望まれます。治水対策としても望まれています。

ウ 河道形態の改善

河床については悪質な底質を玉石、栗石と置換して変化を与え、また護岸については、瀬と淵の代替となるものを作ったり、善福寺川で設置している魚巣ブロックを拡大したりすることが必要です。護岸の緑化も必要です。

エ 河川沿いの公園等の整備

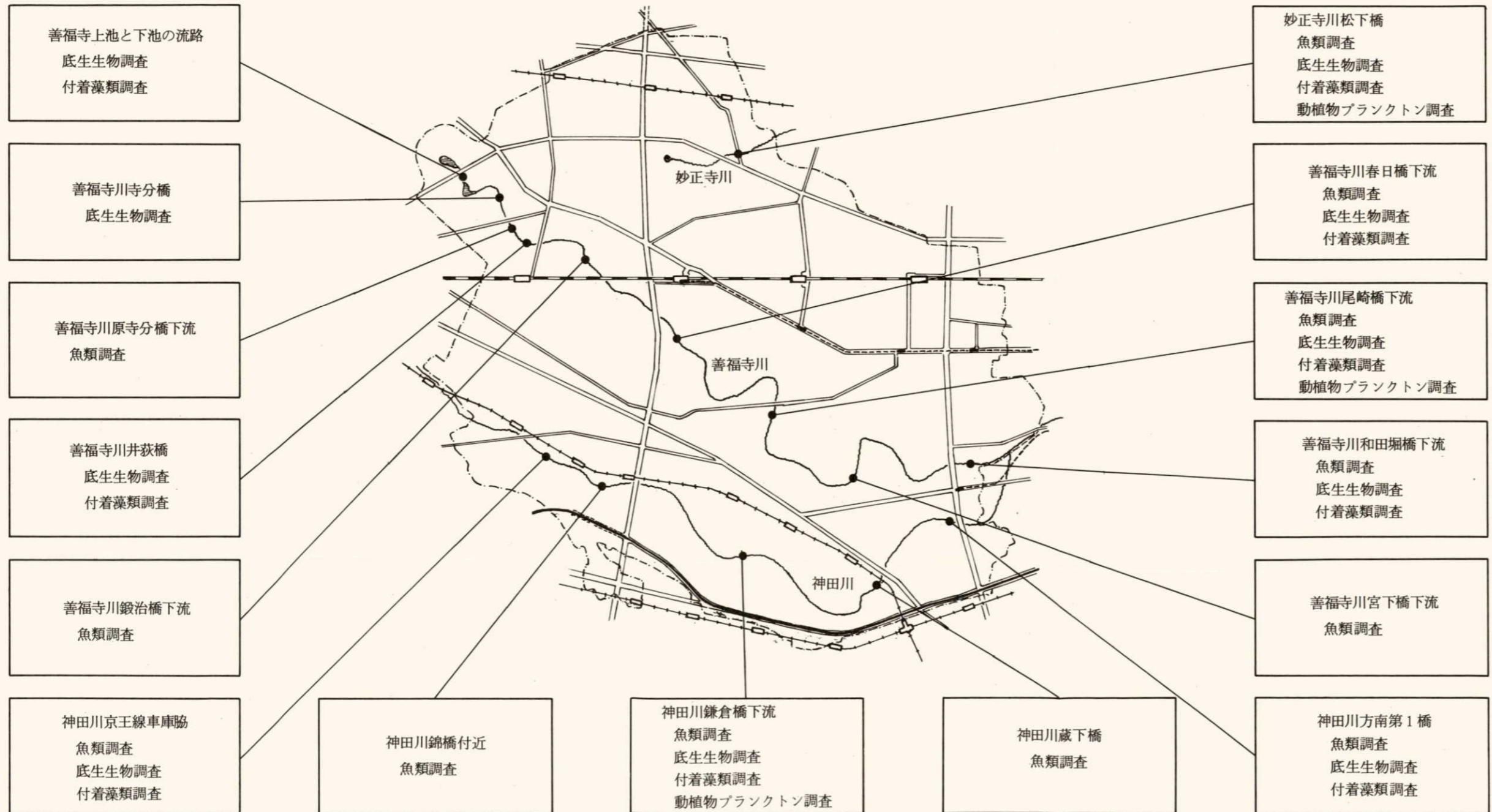
河川と公園を一体化させることにより、親水機能を増進し、緑化によるバランスのある生態系の確保を計ることが必要です。

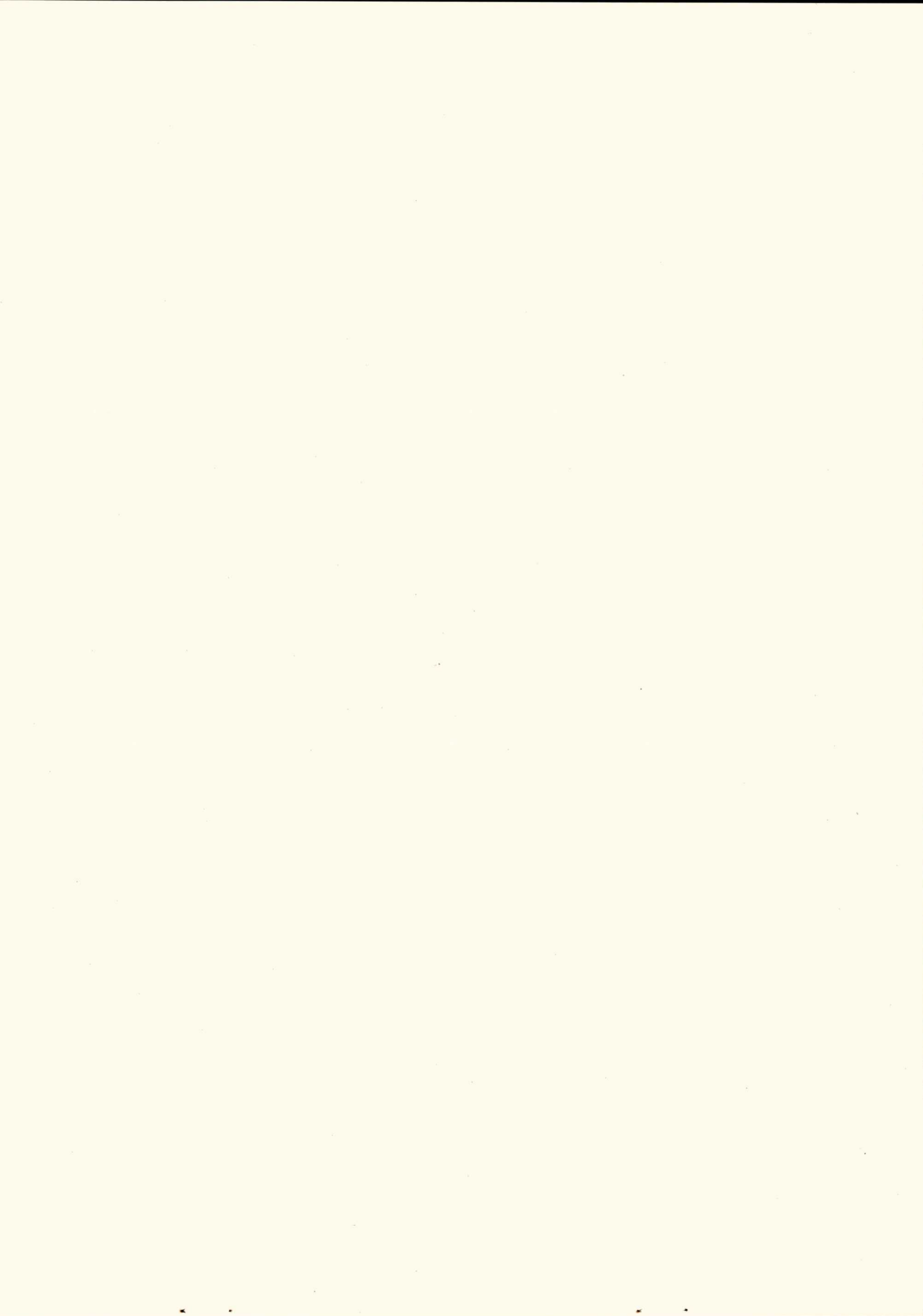
オ 啓蒙活動

住民と行政が一体となって浄化運動をすすめるなど、社会全体として河川を再認識することが望まれます。

生物調査調査地点図

★植生調査と野鳥調査は河川流域全体を調査しました。





2 魚 類

(1) 調査結果の概要

コイ、フナ、モツゴなど多数の魚類の生息が確認された。出現種は、コイ、ギンブナ、キンブナ、ヒブナ、キンギョ、モツゴ、タナゴ、ウグイ、ヨシノボリ、オオクチバス、カダヤシ、ドジョウの12種であった。以下、河川ごとに魚類の生息状況をのべる。

ア 妙正寺川の魚類

魚類は生息していない。

イ 善福寺川の魚類

コイ、ギンブナ、ドジョウ、モツゴ、ヨシノボリ、が生息し、他に、オオクチバス、キンブナ、ヒブナ、カダヤシ、キンギョ、ウグイが見られた。また死魚ながら、体長が、25.3 cm、体高1 cmのウナギを発見した。

優占種は、上流部の原寺分橋～宿橋と、和田の伎成会横の和田堀橋下流ではコイであり、中央線近くの鍛冶橋下流と善福寺川緑地横の尾崎橋下流ではギンブナである。

魚類以外に、アメリカザリガニ、スジエビ、ウシガエル、イシガメがいた。

アメリカザリガニは、河床が土のところではかなり多くみられる。スジエビは、水の汚濁している所では見られない生物である。イシガメは、井荻橋で底生生物調査中に発見した。

ウ 神田川の魚類

ギンブナ、モツゴ、コイ、ドジョウ、ヨシノボリが生息し、他に、ヒブナ、タナゴが見られた。また、フナとコイの混合種と思われるフナコイがいた。

優占種は、井ノ頭線車庫脇と高井戸都営住宅内の錦橋付近ではギンブナで、浜田山の鎌倉橋下流ではコイ、井ノ頭通りと交差するすこし上流の蔵下橋と環状七号線近くの方南第1橋付近ではモツゴである。

魚類以外ではアメリカザリガニが生息している。

(2) 調査方法など

ア 調査年月日

昭和57年10月19日～10月21日

イ 調査機関

環境管理センター(株)に委託した。

ウ 調査方法

地点の一区間をネットで仕切り、その区間内の遊泳生物を投網、さし網等で、できるだけ捕獲し、種ごとに容器に移し、計数を行う。

種の同定、計数に際し、魚の全長、体長、重量、体高を測定し、健康状態のチェック等を行なう。調査の終わったサンプルは放流する。

なお、現地で同定できなかった種は、持ち帰り同定する。

エ 調査地点

妙正寺川 1 地点、善福寺川 6 地点、神田川
5 地点で合計 12 地点で調査を行なった。

(ア) 妙正寺川

松下橋付近(下井草 1・3 丁目)

(イ) 善福寺川

原寺分橋下流(西荻北 4・5 丁目)

鍛冶橋下流(上荻 3・西荻北 1 丁目)

春日橋下流(荻窪 2 丁目)

尾崎橋下流(成田東 2・成田西 2 丁目)

宮下橋下流(大宮 1 丁目)

和田堀橋下流(和田 2・方南 2 丁目)

(ウ) 神田川

井の頭線車庫脇(久我山 2 丁目)

錦橋付近(高井戸西 1 丁目)

鎌倉橋下流(浜田山 1・下高井戸 4 丁目)

蔵下橋付近(永福 1 丁目)

方南第 1 橋付近(和泉 4 丁目)

(3) 調査結果

ア 妙正寺川の調査結果

魚類は全く発見できなかった。

イ 善福寺川の調査結果

p. 11 ~ p. 19 に掲載

ウ 神田川の調査結果

p. 19 ~ p. 27 に掲載



1. 善福寺川鍛冶橋下流 魚類調査風景

a 妙正寺川、松下橋、魚類は全く発見できなかった。

b 善福寺川、原寺分橋下流、魚類等調査結果

生	物	名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考	
Cyprinus	carpio	コイ	1230	45.0cm	38.5cm	12.5cm		
"	"	"	530	28.0	24.0	8.0		
"	"	"	230	23.0	19.5	6.5		
		(小計)	1990				3尾	
		(平均)	663	32.0	27.3	9.0		
Cyprinus	carpio	ヒゴイ	1310	38.0	32.7	10.6		
"	"	"	880	35.0	30.0	10.0	皮膚病	
"	"	"	580	31.0	26.5	8.7		
"	"	"	130	19.0	16.2	5.3	尾ぐされ病	
		(小計)	2900				4尾	
		(平均)	725	30.8	26.4	8.7		
Cyprinus	carpio	色ゴイ	3590	57.0	52.0	15.0	黄松葉 皮膚出血	
"	"	"	2980	53.0	44.5	14.6	白鯉 皮膚病	
"	"	"	2780	52.0	45.0	13.8	白ドイツ 皮膚病	
"	"	"	2300	48.0	42.0	12.7	白鯉 皮膚病	
"	"	"	2230	48.0	42.0	12.5	白写	
"	"	"	2100	48.0	42.0	12.5	紅白 皮膚出血	
"	"	"	1630	45.0	40.0	12.0	三色	
"	"	"	1520	46.0	40.0	11.7	白鯉 皮膚病	
"	"	"	1250	41.0	36.0	10.9	白鯉	
"	"	"	700	31.0	27.0	8.5	三色	
"	"	"	700	31.0	27.0	8.2	山吹	
		(小計)	21780				11尾	
		(平均)	1980	45.5	39.8	12.0		
		(Cyprinus 計)	22670				18尾	
Carassius	gibelio	langsdorfi	ギンプナ	320	25.0	21.0	8.0	
"	"	"	"	290	23.0	19.0	7.3	
"	"	"	"	280	23.0	19.0	7.3	
"	"	"	"	270	26.0	21.0	7.8	
"	"	"	"	130	18.0	15.0	6.0	
		(小計)	1290				5尾	
		(平均)	258	23.0	19.0	7.3		

生 物 名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Micropterus salmoides</i> オオクチバス	60♂	18.5cm	38.5cm	4.5cm	1尾

魚 類 合 計 28020♂ 24尾

c 善福寺川 鍛冶橋下流 魚類等調査結果

生 物 名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Carassius gibelio langsdorfi</i> ギンブナ	340♂	25.5cm	20.5cm	7.3cm	
"	285	25.0	20.6	7.0	
"	260	23.5	20.0	6.5	
"	200	23.0	18.5	6.5	
"	135	21.0	17.5	6.0	
"	120	18.0	15.0	5.1	
"	115	18.5	15.0	5.0	
"	110	19.0	16.0	5.3	
"	100	18.0	14.8	5.0	
"	100	16.5	13.0	4.5	
"	85	16.5	13.5	4.8	
"	70	15.5	13.0	4.0	
(小計)	1920				12尾
(平均)	160	20.0	16.5	5.6	
<i>Carassius sp.</i> フナ	120	22.0	15.0	4.7	ヒレ長 鉄魚?
<i>Carassius carassius buergeri</i> ギンブナ	205	24.0	19.5	6.0	
<i>Cyprinus carpio</i> コイ	70	15.5	13.5	4.1	ヒゴイ
<i>Leuciscus hakonensis</i> ウグイ	50	19.0	16.3	2.7	
<i>Cobitis anguillicaudatus</i> ドジョウ	40	18.3	16.0	2.1	
"	35	19.0	16.5	2.3	抱卵
"	25	18.0	15.5	1.8	
"	15	16.0	14.0	1.5	リング付
(小計)	115				4尾
(平均)	29	17.8	15.5	1.9	
<i>Cambarus clarkii</i> アメリカザリガニ	45	10.0		2.7	
"	45	11.0		3.0	
"	30	10.0		2.5	

生 物 名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
アメリカザリガニ (小計)	20♂				3匹
(平均)	40	10.0cm		2.7cm	
Leander paucidens スジエビ	1 >	4.5			
魚 類 合 計	2480				20尾
そ の 他 合 計	120				4匹

d 善福寺川 春日橋下流 魚類等調査結果

Cyprinus carpio	色ゴイ	約 50 cm			五色、魚影のみ	
Cobitis anguillicaudatus	ドジョウ	40♂	20.5cm	17.5cm	2.5cm	
Phinogobius brunneus	ヨシノボリ	3	5.5	4.5	1.0	
Gambusia affinis	カダヤシ	1 >	3.3	2.5	0.8	
Anguilla japonica	ウナギ	15	25.3		1.0	死骸
Cambarus clarkii	アメリカザリガニ	35	10.0			
"	"	7	2.0			
"	"	5	1.5			
	(小計)	47				3匹
	(平均)	16	4.5			
Rana catesbeiana	ウシガエル	12	10.5	4.0	2.0	× 3匹(幼生)
魚 類 合 計		51				3尾(死骸等除く)
そ の 他 合 計		83				6匹

e 善福寺川 尾崎橋下流 魚類等調査結果

生 物 名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考	
Carassius gibelio langsdorfi	ギンブナ	245♂	22.5cm	19.0cm	7.0cm	
"	"	200	22.5	18.5	6.8	
"	"	135	19.5	16.0	5.8	
"	"	130	19.5	16.5	5.3	
"	"	100	17.5	15.0	4.9	
"	"	80	17.0	14.0	4.4	
"	"	65	14.8	12.5	4.5	

生 物 名			体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
Carassius gibelio	langsdorfi	ギンブナ	55♂	14.5cm	12.0cm	4.0cm	
"	"	"	50	13.5	11.5	4.0	
"	"	"	18	10.0	8.5	3.0	
"	"	"	18	9.0	7.5	2.7	
"	"	"	15	9.5	7.0	2.7	
"	"	"	15	9.3	7.5	2.7	
"	"	"	11	9.5	7.6	2.7	
"	"	"	10	9.0	7.4	2.5	
"	"	"	10	8.5	6.6	2.5	
"	"	"	8	7.3	5.7	2.0	
"	"	"	6	6.5	5.2	1.7	× 7尾
		(小計)	1297				29尾
		(平均)	44.7	11.3	9.4	3.3	
Carassius carassius	buergeri	キンブナ	125	17.3	14.5	5.5	
"	"	"	110	17.0	14.5	5.4	
"	"	"	100	17.5	14.3	5.0	
		(小計)	335				3尾
		(平均)	112	17.3	14.4	5.3	
Carassius sp.		フナ	200	24.5	17.5	6.8	ヒレ長 鉄魚?
Carassius sp.		ヒブナ	190	23.5	17.0	7.2	
Carassius auratus		キンギョ	135	18.0	15.0	6.0	
"	"	"	50	12.8	11.0	4.5	
"	"	"	10	7.8	6.0	2.2	
		(小計)	195				3尾
		(平均)	65	12.9	10.7	4.2	
		(Carassius計)	2217				37尾
Cyprinus carpio		色コイ	220	22.0	18.5	7.4	山吹
"	"	"	45	13.0	10.7	4.2	山吹
"	"	"	35	13.5	11.0	3.5	山吹
"	"	"	15	10.5	8.5	2.8	白山吹
		(小計)	315				4尾
		(平均)	78.8	14.8	12.2	4.5	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	8♂	8.2cm	6.8cm	1.7cm	
"	"	5	7.0	5.8	1.3	
"	"	3	6.0	5.0	1.2	
"	"	2	5.4	4.2	0.9	
	(小計)					4尾
	(平均)	4.5	6.7	5.5	1.3	
<i>Phinogobius brunneus</i>	ヨシノボリ	2	5.5	4.6	1.0	
<i>Cobitis anguillicaudatus</i>	ドジョウ	30	19.7	16.5	2.0	
"	"	22	16.3	14.0	1.8	
"	"	20	16.0	13.5	2.0	
"	"	20	15.0	12.8	1.8	
"	"	18	14.0	12.2	1.7	
"	"	15	12.7	11.0	1.5	
"	"	12	14.0	12.0	1.8	
"	"	12	13.2	11.3	1.6	
"	"	10	13.1	10.2	1.5	
"	"	10	12.0	10.0	1.5	
"	"	10	11.0	9.5	1.2	
"	"	5	10.6	9.2	1.2	
	(小計)	184				12尾
	(平均)	15.3	14.0	11.9	1.6	
<i>Cambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	26	12.0	9.2	2.0	
"	"	10	13.0	11.5	1.5	
"	"	5	11.4	9.5	1.4	
"	"	5	10.7	9.2	1.2	
"	"	1>	2.0	1.5	0.5	
	(小計)	46				5匹
	(平均)	9.2	9.8	8.2	1.3	
魚 類 合 計		2736				58尾
そ の 他 合 計		46				5匹

f 善福寺川 宮下橋下流 魚類等調査結果

生 物 名	体 重	全 長	体 長	体 高	健康状態等備考	
Cyprinus carpio	コイ	50♂	14.4cm	12.3cm	4.0cm	
"	"	46	15.0	12.3	3.7	
"	"	20	16.0	13.0	4.8	ヤセ型
	(小計)	116				3尾
	(平均)	38.7	15.2	12.5	4.2	
Cyprinus carpio	ヒゴイ	140	21.0	17.0	5.5	
"	"	90	19.0	15.5	4.4	
"	"	70	16.5	14.0	4.5	
"	"	70	16.0	13.0	4.5	
"	"	25	12.3	10.0	3.2	
	(小計)	395				5尾
	(平均)	79	17.0	13.9	4.4	
Cyprinus carpio	色ゴイ	15	10.0	8.0	2.6	白ドイツ
	(Cyprinus 計)	526				9尾
Carassius gibelio langsdorfi	ギンブナ	90	16.5	13.7	4.5	
"	"	20	10.0	8.2	3.0	
"	"	7	7.2	5.6	2.0	イカリムシ寄生
"	"	4	6.5	5.3	1.9	
	(小計)	121				4尾
	(平均)	30.3	10.1	8.2	2.9	
Carassius sp.	ヒブナ	10	8.4	7.0	2.5	
Pseudorasbora parva	モツゴ	1>	4.0	3.4	0.6	×6尾
"	"	1>	2.7	2.2	0.3	
	(平均)	1>	3.8	3.2	0.6	7尾
Phinogobius brunneus	ヨシノボリ	1>	3.0	2.5	0.5	
"	"	1>	4.0	3.4	0.6	
	(平均)	1>	3.5	3.0	0.6	2尾
Cobitis anguillicaudatus	ドジョウ	32	18.0	16.0	2.2	
"	"	15	14.0	12.0	1.5	
"	"	12	12.0	10.3	1.6	
"	"	11	12.5	10.7	1.6	
"	"	10	10.5	9.0	1.2	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Cobitis anguillicaudatus</i>	ドジョウ	8♂	12.0cm	10.3cm	1.3cm	
"	"	7	10.7	9.3	1.3	
	(小計)	95				7尾
	(平均)	13.6	12.8	11.1	1.5	
<i>Cambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	10	6.5		1.8	
"	"	8	4.0			
"	"		3.0			× 5匹
"	"		2.0			× 6匹
"	"		1.0			× 3匹
	(小計)	18				16匹
	(平均)	1.1	2.5			
魚 類 合 計		742				30尾
そ の 他 合 計		18				16匹

g 善福寺川 和田堀橋下流 魚類等調査結果

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	6500♂	64.0cm	54.0cm	19.0cm	
"	"	3900	62.0	54.0	16.0	
"	"	3700	59.0	51.0	16.0	
"	"	3300	58.0	50.0	15.0	
"	"	3250	55.0	48.0	16.5	
"	"	3000	55.0	47.0	16.0	
"	"	3000	55.0	47.0	15.0	
"	"	2850	54.0	46.0	15.0	
"	"	2770	54.0	47.0	15.0	
"	"	2700	54.0	45.0	14.0	
"	"	2500	52.0	44.0	15.0	
"	"	2400	50.0	42.0	14.0	
"	"	2300	51.0	42.0	14.0	
"	"	2100	53.0	44.5	13.0	
"	"	1650	47.0	40.0	13.0	
"	"	1500	45.0	38.0	12.0	

生 物 名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考	
Cyprinus carpio	1300♂	43.0cm	37.0cm	12.0cm		
"	"	1260	38.0	33.0	12.0	
"	"	1250	40.0	35.0	12.0	
"	"	540	29.0	25.0	9.0	
"	"	90	17.0	14.5	5.0	
"	"	90	16.5	14.5	5.0	
"	"	85	16.0	13.5	5.0	
"	"	55	14.5	12.0	4.5	
"	"	35	13.0	10.5	3.5	
"	"	約 50				× 6 尾
"	"	約 40				× 8 尾
"	"	約 30				× 4 尾
	(小計)	52125	4			25尾+ 18尾
	(平均)	2085	43.8	36.2	12.3	
Cyprinus carpio	ヒゴイ	2600	54.0	46.0	13.0	
"	"	2400	52.0	45.0	14.0	
"	"	2350	54.0	46.0	14.0	
"	"	1600	41.0	34.5	13.5	
"	"	1320	40.5	34.5	12.5	
	(小計)	10270				5尾
	(平均)	2054	48.3	41.2	13.4	
Cyprinus carpio	色ゴイ	5000	64.0	50.0	17.0	白スミ
"	"	2850	55.0	46.5	14.5	緋スミ
"	"	2250	56.0	47.0	13.0	緋セグロ
"	"	1350	42.5	37.0	12.0	緋スミ
	(小計)	11450				4尾
	(平均)	2862	54.4	45.1	14.1	
	(Cyprinus 計)	73845				34尾+ 18尾
Carassius gibelio langsdorfi	ギンブナ	55	14.5	11.5	4.0	× 2尾
	(小計)	110				2尾

生物名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Pseudorasbora parva</i>	5♂	8.4cm	7.0cm	2.0cm	× 7尾
"	3	6.0	5.3	2.1	
(小計)	38				8尾
魚類合計	73993				44尾 + 18尾

h 神田川 井の頭線車庫脇 魚類等調査結果

生物名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考	
<i>Carassius gibelio langsdorfi</i> ギンブナ	30♀	11.3cm	9.3cm	3.5cm		
"	20	10.2	8.5	3.2		
"	20	10.0	8.2	3.0		
"	15	9.8	8.0	3.0		
"	15	9.0	7.5	2.8		
"	10	9.0	7.3	2.8		
"	10	8.5	7.0	2.7		
"	10	8.0	6.4	2.3		
"	8	7.5	6.2	2.3	× 2尾	
"	5	7.0	5.5	2.0		
"	5	6.3	5.2	1.8		
"	2	5.3	4.3	1.5		
(小計)	155				13尾	
(平均)	12	8.4	6.8	2.5		
<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	2	6.5	5.3	1.3	
"	"	1	5.5	4.5	1.2	
"	"	1	5.1	4.2	0.9	× 2尾
"	"	1 >	2.1	1.8	0.3	× 5尾
(小計)	約 7				9尾	
(平均)	0.8	3.6	3.0	0.6		
<i>Carassius sp.</i>	ヒブナ	50	14.0	11.0	0.4	
魚類合計	212				23尾	

i 神田川 錦橋 魚類等調査結果

生 物 名				体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
Carassius	gibelio	langsdnrfi	ギンブナ	75♂	15.0cm	12.5cm	5.0cm	
"	"	"	"	35	12.5	10.5	4.0	
"	"	"	"	35	12.0	10.0	4.0	× 2尾
"	"	"	"	30	12.0	10.0	4.0	× 2尾
"	"	"	"	30	11.5	9.5	4.0	
"	"	"	"	25	11.0	9.0	3.7	
"	"	"	"	25	10.5	9.0	3.5	
"	"	"	"	20	11.5	9.0	3.0	
"	"	"	"	20	11.0	9.0	3.5	× 4尾
"	"	"	"	20	10.0	8.3	3.2	
"	"	"	"	15	10.5	8.4	3.0	
"	"	"	"	15	10.0	8.0	3.0	
"	"	"	"	15	10.0	7.8	3.0	
"	"	"	"	10	9.5	8.0	3.0	
"	"	"	"	10	9.5	7.5	2.5	
"	"	"	"	10	9.5	7.0	3.0	
"	"	"	"	10	8.5	7.0	2.5	
"	"	"	"	10	8.5	6.7	2.5	× 2尾
"	"	"	"	10	8.0	6.5	2.3	
"	"	"	"	10	7.5	6.0	2.2	
"	"	"	"	10	7.5	6.0	2.0	皮膚病
"	"	"	"	5	7.5	6.2	2.0	
"	"	"	"	5	7.5	6.0	2.1	
"	"	"	"	5	7.3	6.0	2.0	
"	"	"	"	5	7.0	5.5	2.0	
"	"	"	"	5	6.7	5.5	2.0	
"	"	"	"	5	6.5	5.4	2.0	
			(小計)	605				33尾
			(平均)	18.3	9.8	8.0	3.0	
Phodeus	moriokae		タナゴ	1>	3.3	2.7	1.0	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
Phinogobius brunneus	ヨシノボリ	2♂	5.3cm	4.4cm	1.0cm	
"	"	1	4.5	3.8	0.6	
"	"	1	4.3	3.5	0.5	
"	"	1	4.0	3.4	0.5	× 3尾
"	"	1	3.7	3.2	0.5	
"	"	1	3.5	3.0	0.4	× 3尾
"	"	1 >	2.7	2.2	0.3	
	(小計)	11				11尾
	(平均)	1	3.9	3.0	0.5	
Pseudorasbora parva	モツゴ	7	8.5	7.0	1.7	
"	"	7	8.0	6.7	1.6	
"	"	7	8.0	6.5	1.5	
"	"	6	7.5	6.0	1.5	
"	"	6	7.2	6.0	1.5	
"	"	5	7.0	5.8	1.5	
"	"	5	7.0	5.7	1.4	× 2尾
"	"	4	6.8	5.7	1.5	
"	"	3	6.5	5.5	1.3	
"	"	4	6.0	5.0	1.2	
"	"	3	5.5	4.6	1.1	× 2尾
"	"	3	5.5	4.5	1.0	
"	"	3	5.0	4.1	1.0	
"	"	1	4.0	3.5	0.7	
"	"	1 >	2.5	2.2	0.5	× 8尾
	(小計)	72				24尾
	(平均)	3	5.0	4.4	1.0	
Cobitis anguillicaudatus	ドジョウ	20	16.5	14.2	1.9	
"	"	20	15.5	13.5	1.9	
"	"	15	15.0	13.2	1.6	
"	"	15	14.5	12.5	1.8	
"	"	10	14.5	12.3	1.7	
"	"	10	13.6	11.7	1.8	
"	"	10	13.5	11.5	1.7	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
Cobitis anguillicaudatus	ドジョウ	10♂	11.0cm	9.5cm	1.5cm	
"	"	10	11.0	9.7	1.2	
"	"	8	10.9	9.5	1.3	
"	"	5	10.5	9.4	1.2	
"	"	5	10.5	9.0	1.2	× 2尾
"	"	5	10.0	9.0	1.1	
"	"	5	10.0	8.5	1.0	
"	"	5	9.0	7.7	1.0	
"	"	5	8.5	7.5	1.0	
"	"	5	8.4	7.2	1.0	× 3尾
"	"	5	8.4	7.2	0.8	
"	"	3	7.5	6.4	0.8	
	(小計)	186				22尾
	(平均)	8.5	11.2	9.7	1.3	
Cambarus clarkii	アメリカザリガニ	20	10.0		2.5	
魚 類 合 計		874				91尾
そ の 他 合 計		20				1匹

j 神田川 鎌倉橋 魚類等調査結果

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
Cyprinus carpio	コイ	2100♂	47.0cm	40.0cm	14.0cm	
"	"	850	36.0	31.0	11.0	
"	"	108	17.0	14.5	5.0	
"	"	90	17.0	14.5	5.0	
"	"	70	16.0	13.6	4.8	
"	"	70	15.5	13.2	4.6	
"	"	70	14.5	12.5	4.5	
"	"	60	15.0	12.5	4.5	
"	"	50	15.0	12.5	4.5	
"	"	50	14.5	12.5	4.5	
"	"	50	14.0	12.0	4.2	

生 物 名	体重	全長	体長	体高	健康状態等備考	
Cyprinus carpio	40♂	13.5cm	11.5 cm	4.0cm		
"	38	12.3	10.5	3.7		
	(小計)	3646			13尾	
	(平均)	280	19.0	16.2	5.7	
Cyprinus carpio	ヒゴイ	1980	48.0	42.0	13.0	
"	"	1960	49.0	42.0	13.5	
"	"	1800	48.0	42.0	13.0	
"	"	100	18.5	16.0	5.3	
"	"	55	15.0	12.5	4.3	× 2尾
"	"	50	14.5	12.5	4.0	
"	"	45	14.5	12.5	4.0	× 2尾
"	"	40	15.5	12.0	4.5	
	(小計)	6130				10尾
	(平均)	613	25.3	21.7	7.0	
Cyprinus carpio	色ゴイ	65	17.0	14.5	5.0	白鯉
"	"	45	15.0	12.5	4.5	白鯉
	(小計)	110				2尾
	(平均)	55	16.0	13.5	4.8	
Cyprinus sp.	フナコイ	660	31.5	26.0	10.5	皮膚病
"	"	70	15.0	12.5	5.0	
	(小計)	730				2尾
	(平均)	365	23.3	19.3	7.8	
	(Cyprinus 計)	10616				27尾
Carassius gibelio langsdorfi	ギンブナ	42	13.0	10.5	4.0	
"	"	32	11.5	9.3	3.5	
"	"	21	10.0	8.2	3.0	
"	"	20	10.5	8.5	3.0	
"	"	13	8.5	7.0	2.7	
"	"	11	8.5	6.8	2.5	
"	"	8	7.5	6.1	2.3	
"	"	6	7.5	6.0	2.2	
"	"	3	6.5	5.3	1.9	
	(小計)	56				9尾

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
	ギンブナ (平均)	17.3♂	9.3 cm	7.5 cm	2.8 cm	
<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	20	8.5	7.2	2.0	
"	"	15	7.5	6.3	1.8	
"	"	10	9.3	7.8	2.0	
"	"	8	8.5	7.2	1.7	× 4尾
"	"	7	9.6	8.0	2.0	
"	"	7	8.0	6.8	1.9	× 2尾
"	"	6	8.5	7.0	1.0	
"	"	6	7.2	6.0	1.7	
"	"	5	8.0	6.7	1.8	× 3尾
"	"	5	7.3	6.0	1.7	
"	"	3	6.9	5.8	1.6	
"	"	3	6.5	5.5	1.3	
"	"	2	5.5	4.6	1.3	
	(小計)	138				19尾
	(平均)	7.2	7.9	6.3	1.8	
<i>Cobitis anguillicaudatus</i>	ドジョウ	30	18.0	15.5	1.9	
"	"	28	18.0	15.5	1.8	
"	"	20	16.5	14.3	1.6	
	(小計)	78				3尾
	(平均)	26	17.5	15.1	1.8	
魚 類 合 計		10988				58尾

k 神田川 蔵下橋付近 魚類等調査結果

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	185♂	22.0 cm	18.3 cm	5.9 cm	
"	"	125	18.0	16.0	5.3	
"	"	110	18.0	15.5	5.0	
"	"	110	18.0	15.0	5.0	
"	"	100	17.5	14.5	5.0	
"	"	85	16.0	13.5	4.5	
"	"	80	16.5	13.5	4.6	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	80♂	15.3cm	12.5cm	4.5cm	
"	"	65	14.5	12.5	4.3	
"	"	65	14.0	11.5	4.2	
	(小計)	1005				10尾
	(平均)	100	17.0	14.3	4.8	
<i>Carassius gibelio langsdorfi</i>	ギンブナ	40	12.0	10.0	3.6	
"	"	18	10.0	8.0	3.2	
"	"	5	6.0	4.7	1.6	
	(小計)	63				3尾
	(平均)	21	9.3	7.6	2.8	
<i>Carassius sp.</i>	ヒブナ	35	12.0	10.0	3.5	
"	"	33	11.0	9.5	3.5	イカリムシ寄生
	(小計)	68				2尾
	(平均)	34	11.5	9.8	3.5	
<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	10	8.7	7.2	1.8	
"	"	7	7.0	5.8	1.5	
"	"	6	5.5	4.7	1.1	
"	"	5	6.0	5.0	1.2	
"	"	5	5.5	4.5	1.2	
"	"	1	3.3	2.9	0.5	× 20尾
	(小計)	53				25尾
	(平均)	2	3.9	3.4	0.7	
<i>Cobitis anguillicaudatus</i>	ドジョウ	20	16.0	14.0	1.8	
"	"	10	12.5	10.5	1.5	
"	"	10	11.5	9.8	1.3	
"	"	10	10.5	9.0	1.1	
"	"	8	9.4	8.0	1.0	
"	"	8	8.5	7.3	0.9	
"	"	8	8.2	7.2	0.9	
"	"	8	8.0	6.9	0.8	
"	"	7	7.7	6.7	0.7	
"	"	5	8.3	7.2	0.5	
"	"	5	8.0	7.0	0.5	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Cobitis anguillicaudatus</i>	ドジョウ	5♀	7.0cm	6.2cm	0.5cm	
	(小計)	104				12尾
	(平均)	8.7	9.6	8.3	1.0	
魚 類 合 計		1293				52尾

1 神田川 方南第一橋付近 魚類等調査結果

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	92♀	17.0cm	14.0cm	5.0cm	
<i>Carassius gibelio largsdorfi</i>	ギンブナ	20	10.0	8.2	3.0	
"	"	13	9.5	8.0	2.9	
"	"	10	8.0	6.5	2.5	イカリムシ寄生
"	"	9	7.5	6.0	2.3	
"	"	9	6.7	5.4	2.0	
"	"	8	7.0	5.7	2.0	
"	"	8	6.8	5.4	2.0	
"	"	8	6.5	5.3	2.0	
"	"	5	5.3	4.2	1.6	
	(小計)	90				9尾
	(平均)	10	7.5	6.1	2.3	
<i>Carassius sp.</i>	ヒブナ	10	7.5	6.0	2.4	
<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	9	7.5	6.3	1.5	
"	"	8	6.5	5.5	1.3	
"	"	7	6.5	5.3	1.2	
"	"	7	6.5	5.2	1.2	× 2尾
"	"	7	6.4	5.3	1.2	× 2尾
"	"	7	5.5	4.5	1.0	
"	"	6	5.5	4.5	1.0	× 2尾
"	"	3	6.3	5.3	1.1	
"	"	2	6.0	5.0	1.2	
"	"	2	5.8	4.8	1.1	
"	"	1	5.3	4.2	1.0	
"	"	1	3.8	3.2	0.8	

生 物 名		体重	全長	体長	体高	健康状態等備考
<i>Pseudorasbora parva</i>	モツゴ	1♂	3.4cm	2.3cm	0.7cm	× 3尾
"	"	1>	2.4	2.0	0.5	× 4尾
	(小計)	83				22尾
	(平均)	3.8	5.0	4.0	0.9	
<i>Cobitis anguillicaudatus</i>	ドジョウ	24	16.5	14.3	1.7	
"	"	20	15.0	13.2	1.6	
"	"	11	14.0	12.2	1.6	
"	"	9	11.5	9.8	1.4	× 2尾
"	"	7	8.9	7.7	1.1	
"	"	5	8.5	7.4	1.0	
"	"	4	7.8	6.8	0.9	
"	"	1	5.5	4.7	0.7	
	(小計)	90				9尾
	(平均)	10	11.0	9.5	1.3	
魚 類 合 計		365				42尾

3 底 生 生 物

(1) 調査結果の概要

おもな出現生物は、ミズミミズ、エラミミズ、イトミミズ、シマイシビル、ハバヒロビル、モノアラガイ、サカマキガイ、ドブシジミ、ミズムシ、ホシチヨウバエ、セスジユスリカ、ヒメナガユスリカなどである。これらは、いずれも汚濁耐忍性種である。

汚濁非耐忍性種としては、善福寺上池と下池の流路で採取されたカワニナとマシジミだけである。優占種は、ミミズ類、ユスリカ類である。

出現種数は、妙正寺川・春3種・秋3種、善福寺川・春20種・秋20種、神田川・春10種・秋15種であった。

底生生物から見た水質の状況は、松下橋がきわめてきたないとされる強腐水性水域であり、善福寺川と神田川では、かなりきたないとされる α 中腐水性水域である。

また、善福寺上池と下池の流路では、カワニナとマシジミが生息しているものの、出現種数が、春6・秋8であり、 α 中腐水性水域と判断される。

なお、カワニナは、ホタルの幼虫が寄生することで有名であり、善福寺上池と下池の流路では、条件が整えば、ホタル生息の可能性がある。

(2) 調査方法など

ア 調査月日

昭和57年5月25日と昭和57年10月20日の2回調査した。

イ 調査機関

環境管理センター(株)に委託した。

ウ 調査方法

河床が石礫の瀬の部分で、地点を代表する場所を選定し、サーバネット(25×25 cm²の金属方形枠に60メッシュのサラシ網を付けたもの)によりコドラート(25×25 cm²)内の底生生物を採取し、10%ホルマリン液で固定した。サンプルは1地点につき2コドラートとした。

サンプルは持ち帰った後、分析フルイ(MESH 42・0.35mm)を用いて泥等を洗い流した後、肉眼で認められる底生生物をすべてピンセット等で拾い出し、実体顕微鏡及び生物顕微鏡で鏡検し、種の同定と個体数の計数を行なった。

また、定性的な調査として、生物用チトリ型金属網等で周辺のサンプリングを行ない、特徴的な種や貴重種については、採取、記録し、必要に応じて種の同定を行なった。

エ 調査地点

妙正寺川1地点、善福寺川5地点、神田川3地点、及び善福寺上池と下池の流路1地点

の合計 10 地点で調査した。

(ア) 妙正寺川

松下橋付近(下井草1・3丁目)

(後載の一覧表では、M-1と表示)

(イ) 善福寺川

寺分橋付近(善福寺1丁目)

(後載の一覧表では、Z-2と表示)

井荻橋付近(西荻北3・5丁目)

(後載の一覧表では、Z-4と表示)

春日橋下流(荻窪2丁目)

(後載の一覧表では、Z-6と表示)

尾崎橋下流(成田東2・成田西2丁目)

(後載の一覧表では、Z-7と表示)

和田堀橋下流(和田2・方南2丁目)

(後載の一覧表では、Z-9と表示)

(ウ) 神田川

井の頭線車庫脇(久我山2丁目)

(後載の一覧表では、K-1と表示)

鎌倉橋下流(浜田山1・下高井戸4丁目)

(後載の一覧表では、K-3と表示)

方南第一橋付近(和泉4丁目)

(後載の一覧表では、K-5と表示)

(エ) その他の地点

善福寺上池と下池の流路(善福寺2丁目)

(後載の一覧表では、Z-1と表示)

オ 底生生物から判定された水質階級

汚濁非耐忍性の種数をAとし、耐忍性種の種数をBとしたとき、 $2A+B$ をもって、biotic index とする。この数値を使って水質階級を判定する。

結果を下表に示す。

(3) 調査結果

p. 30 ~ p. 33に記載

2A+B	階 級	
> 20	きれい。貧腐水性水域	os
11 ~ 19	ややきれい。β中腐水性水域	βm
6 ~ 10	かなりきたない。α中腐水性水域	αm
0 ~ 5	きわめてきたない。強腐水性水域	ps

地点名 地点コード 調査日	善福寺 上池 ~下池	妙正寺川	善 福 寺 川					神 田 川		
	松下橋	寺分橋	井荻橋	春日橋	尾崎橋	和 田 堀 橋	車庫脇	鎌倉橋	方 南 第 1 橋	
	Z-1	M-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5
57. 5. 25	αm	ps	ps	βm	ps	αm	αm	ps	ps	αm
57. 10. 20	αm	ps	βm	βm	αm	αm	αm	αm	αm	αm

底生生物の個体数。(25×25 cm×2検体)

昭和57年10月20日

分類	生物名	河川名	採集地点	耐忍性	妙正寺川			善福寺川				神田川		
					M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5
袋形動物	Gordiidae	ハリガネムシ科										3	2	
環形動物	Nais sp.	ミズミズズの1種	B							2				10
	Limnodrilus sp.	ユリミズズの1種	B											2
	Branchiura sowerbyi	エラミズズ	B	42		3				1				
	Tubifex sp.	イトミズズの1種	B	3544	102	1581	55	226	186	1		800	721	53
	Haplotaxis sp.	ナガミズズの1種	B				9							
	Pheretima sp.	フトミズズの1種	B				2							
	Erpobdella lineata	シマイシビル	B		1	98	43	7	9	29		11	24	4
	Glossiphonia weberi lata	ハバヒロビル	B					4	2	5			1	4
軟体動物	Sinotaia quadrata histrica	ヒメタニシ	B		823									
	Semisulcoospira libertina	カワニナ	A		35									
	Radix auricularia japonicus	モノアラガイ	B					4				1	2	
	Physa acuta	サカマキガイ	B			20	12	72		1			3	1
	Corbicula leana	マシジミ	B		72									
	Sphaerium lucustre japonicum	ドブシジミ	B			1		1						
	Gyraulus chinensis	ヒラマキミズマイマイ	B											3
	Ferrissina nipponica	カワコザラ	B										4	1
節足動物	Asellus hilgendorfi	ミズムシ	B			24	30	6	1	1		44	4	11
水生昆虫														
蜉蝣目	Baëtis sp.	コカゲロウの1種	B			2	3							
毛翅目	Hydropsychoodes brevilineata	コガタシマトビケラ	B			1								
双翅目	Psychoda alternata	ホシチヨウバエ	B			1	2					1		2
	Chironomus yoshimatsui	セスジユスリカ	B	266	9	12	82	11	14	2		1013	48	55
	Chironomus sp.	ユスリカの1種	B			1	14	2	68	1			328	128
	Pentaneura sp.	ヒメナガユスリカの1種	B				33	33	177	4				10

分類	生物名	河川名	善福寺川							神田川		
		採集地点	M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5
		耐忍性										
	個体数		3852	1042	1744	285	366	458	46	1873	1137	284
	種類数		3	6	11	11	10	8	9	7	10	13
	Biotic index (生物指数)		3	7	11	11	10	8	9	6	9	13
	水質階級		ps	α_m	β_m	β_m	α_m	α_m	α_m	α_m	α_m	β_m
その他	ミミズ類の卵塊		4		1							
	シマイシビルの卵塊			1	1	10	2	3	3	3	2	8
	オオケチヨウバエの蛹										1	1
	セスジユスリカの蛹		5		3	8	6	5		25		22
	セスジユスリカの亜成虫				1					18	16	5
	ユスリカの蛹					5	1	12			8	
	ユスリカの亜成虫							1				
	ヒメナガユスリカの蛹							9				
	ホシチヨウバエの蛹				1					1		2
	巻貝類の卵塊						1					

底生生物の個体数。(25×25 cm×2検体)

昭和57年5月25日

分類	生物名	河川名 採集地点	耐索性	妙正寺川			善福寺川			神田川			
				M-1	Z-1	Z-2	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5
袋形動物	Gordiidae	ハリガネムシ科									1		
環形動物	Nais sp.	ミズミミズの1種	B						1380				
	Limnodrilus sp.	ユリミミズの1種	B						168				
	Branchiura sowerbyi	エラミミズ	B	22								2	
	Tubifex sp.	イトミミズの1種	B	2232	444	2328	49	85	17	264	216	356	844
	Haplotaxis sp.	ナガミミズの1種	B				8						
	Pheretima sp.	フトミミズの1種	B				1						
	Erpobdella lineata	シマイシビル	B		9	1	76	21	66	41	14	4	11
	Glossiphonia weberi lata	ハバヒロビル	B						32				2
	Helobdella stagnalis	ヌマビル	B				1						
軟体動物	Sinotaia quadrata histrica	ヒメタニシ	B		207								
	Semisulcospira libertina	カワニナ	A		82								
	Radix auricularia japonicus	モノアラガイ	B				13						
	Physa acuta	サカマキガイ	B				5			8			1
	Corbicula leana	マシジミ	B		85								
	Sphaerium lucustre japonicum	ドブシジミ	B			2				1			
	Asellus hilgendorffii	ミズムシ	B				326	23	49	16	12	34	97
水生昆虫													
双翅目	Psychoda alternata	ホシチヨウバエ	B				1				3		
	Chironomus sp.	ユスリカの1種	B		12				904	88			
	Chironomus yoshimatsui	セスジユスリカ	B	90		320	332	83			400	1885	1017
	Pentaneura sp.	ヒメナガユスリカの1種	B	12		6	16	26	120	24		72	128
		個体数		2334	861	2657	828	238	2736	442	646	2351	2102
		種類数		3	7	5	11	5	8	7	6	5	8
		Biotic index (生物指数)		3	8	5	11	5	8	7	5	5	8
		水質階級		ps	αm	ps	βm	ps	αm	αm	ps	ps	αm

4. 植 物

(1) 善福寺川と神田川を歩いて

小原 一正

ア. 善福寺池の植生

江戸時代は、“命の水”として住民に親しまれ、猪はじめ多くの獣も水を飲みにきたといわれる善福寺池。昭和57年に行なわれた、杉並区の緑被率調査によれば、この地区の緑被率は、34.26%で区内2位である。上池、下池の2つの池に分かれ、池の周辺には種々の樹木が茂っている。

昭和初期に比べれば、見た目にも失われたものが多い。なかでも池畔に亭々とそびえた杉林、我物顔にはびこったヨシアオギ、池底まで見えた澄んだ水、今はもうない。スギヤオギや清い水に関連する植物も昔のものになってしまった。

現在は都市公園化し、池の周辺に植えられた木々がすくすくと育ち、新しい条件に生き残った植物とある程度一体化している。造られた明治神宮の森には、広さからいっても、木の種類や数から見ても匹敵しないが、ポートの浮かぶ公園として風情があり、親しみのもてる意義ある憩いの場である。

善福寺バス停のある上池の入口には、高さ10mを越す5本のユリノキがあり、初夏には緑黄色のチューリップに似たみごとな花を咲かせる。まわりには樹令50~60年のソメイヨシノザクラが10本あり、池のまわりにも10数本のサクラが散在し、ヤマザクラも混り、な

かには幹が折れ空洞がのぞいたものもあり趣をそえる。

初夏の頃、上池の北側でも、鮮やかな新緑の中で木々がつぎつぎに花を咲かせる。木の花といえば、ウメとサクラとモモで、春を知る都会人にとっては珍しくもあり、楽しくもあり、育ちざかりの古里さえ忍ばれる香が漂う。トチノキの綿帽子をかぶせたような白い花、傷ついた2本の木のマロニエの淡桃色の花、目立たないがラクウショウの細い黄色の花、2本しかないセンダンの紫色の小粒の花。先住権を誇るのように、枝を四方に張り雄姿を示すイヌザクラ、古木に似ずゴマ粒を房状に並べたような小ぶりの白い花。公園事務所の隣りの空地の隅に植えられたハクウンボクの白布で覆いつくしたような花、独特の匂いのあるシイノキの花、エゴノキの花、クヌギの花等。イチョウの下のベンチに腰かけ、遠くで鳴くウシガエルの声が静寂な池面を流れてくるのに聞きいっていると、イチョウの2億6千万年の悠久の世界に比べ、栄枯盛衰わずか100年の人間生活のわびしさ。木の精たちの深遠さを想う複雑な気持ちになる。

東側斜面は、シイ、カシ、モウソウチク、ケヤキ、クヌギの高木を主体とした、昔の屋敷林が残り、これらの木の間に育ったわずかの杉も、不思議に林より高くなった部分だけ梢が枯れている。低木にムラサキシキブ、カエデが育ち、なぜかヒサカキだけは、侵入禁止の生垣になるほど茂っている。下草には、

ジャノヒゲ、アオスゲ、ミズヒキ、ヤマウド、ツルウメモドキが散在する程度である。それでも日当りの良い空地では、オオバコ、イノコズチ、ハキダメギク、イスタデ、アオビユ、アリタソウ、カキドオシ、カタバミ、オヒシバ、ツユクサ、メナモミ、ヒメジョオン、タンポポ、イヌビユ、ハコベ、ノコンギク、オオバジャノヒゲ、ヨウシュヤマゴボウ等が所せましと繁茂している。トコロ、ヤマノイモ、カナムグラ、ヤブカラシ等でマント群落の始まった所もある。

西側斜面は、イヌザクラ、サワラ、アカマツ、クヌギ、ハルニレ、エゴノキ、スギ等が混生し、なかでも目通り1m近いイヌザクラが王者の風格をそなえ君臨している。低木にムラサキシキブ、ニワトコ、エゴノキ(幼木)、アオキ、ヒサカキ、ウシコロシが散在し、

幹まわり80cmもあるこまたのヤマグワがあり、道路上まで枝を伸ばしている。下草は稀れでネザサ、ジャノヒゲ、オモト、シュロ(幼木)がわずかに生えている。日当りの良い所では、サツキ、ツツジの根元に、ハキダメギク、キツネノマゴ、カタバミ、イスタデ、センダングサ、コナスビ、イヌビエ、アオスゲ、セイヨウタンポポ、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン、ヘビイチゴ、ハコベ、ツユクサ、イヌワラビ、スイカズラ等が一面に茂っている。

池の中央に稀少価値を残してスイレンがあり、北側に吹きだまりのように、氣息奄奄とフトイ、コガマ、ヨシ、ミクリがある。水の汚濁のせい、水面にも、水底にも藻らしい水草は1本も見あたらない。

下池の埋立地には、エンジュ、トチノキ、トウカエデが植樹され、すくすくと育ち、ハ



2. 善福寺上池

キダメギク、イノコズチが生育を始めている。下池の水の汚染もひどいが、マコモ、ヨシが池の三分の一を占め、ミクリがわずかに生え、スイレンが残り半分を占めている。周辺に珍しく幹まわり1m近いコマユミの大木がある。コブシも2、3本ある。この2種は相当の年数を経ていると思われる。

11月の月上旬、上池入口の西側に、区内では残り少なくなったドングリが足の踏み場もないほど落ちている。幹まわり1m近いクヌギが12,3本茂り、黄褐色に紅葉し、低木のアオキ、ガマズミの赤い実と、ムラサキシキブの紫色の実がともにみごとである。

イ. カタクリの残り久我山

井ノ頭線の久我山駅で下車、神田川沿いに約300m下ると、南側が崖地となり、川岸は5mぐらゐの高さにコンクリートで固めてある。ここに久我山雑木林の一部が残っている。崖上の台地は大蔵省のグラウンドで出入も自由にできなく、川の両側にある遊歩道も、ここだけは北側だけとなっているので、足を踏み込むこともできない陸の孤島となっている。

昭和49年の春、杉並自然友の会員が、ここでカタクリの自生を発見した。その頃、都は河川改修工事でコンクリート壁を作る予定であった。早速、友の会会長西沢二郎氏を中心に、昭和50年4月15日、杉並区長宛自生地の保護要望書を提出した。区環境課でも都知事宛に、保護要望書を提出したが、河川改修工事は実施された。

要望書を提出する時点で、自然友の会では再三調査し、確認した珍しい野草として次のようなものをあげた。ゼンマイ、コウヤワラ

ビ、ミゾシダ、ヒトリシズカ、ヤブマオ、ミズヒキ、ニリンソウ、イチリンソウ、イチヤクソウ、アキカラマツ、クサノオウ、ムラサキケマン、タケニグサ、チダケサシ、キンミズヒキ、ヌスビトハギ、イカリソウ、タチツボスミレ、カタクリ、キツネノカミソリ、ヤブジラミ、ワニグチソウ、ヤマトリカブト、ヤブレガサ、ウラシマソウ、イヌシヨウマ、木では、コブシ、カシ、シイ、クヌギ、クリ、エゴノキ、タケ等である。国有林で人が入れず、50年以上昔の多摩丘陵に見られるクヌギの下草群落が見られる。(杉並区立済美研究所発行、杉並の生物環境 昭和52年2月15日より)

改修工事は施行され、立入禁止区域だし、調査の方法もないまま、これらの植物は絶滅したと信じていたが、たまたま斜面の一部にカタクリが残っているとの話を聞き、昭和57年4月10日、管理者の許可を得て、小島進氏、区公害課長らと同行し、カタクリを探ることになった。

厳重な金網のあるグラウンドの門を入る、さすが大蔵省と設備の立派さに驚く。人の好きなような管理人夫妻に迎えられ、近くまで案内して貰う。グラウンドの北側が崖となり、崖上には、ヤマザクラ、モウソウチク、イヌザクラ、コブシ、ハルニレ、アオカシ、ミズキ、ナラ、クヌギ、エノキ、ケヤキ、サワラがあり、急な崖には、アオキ、ニワトコ、コウゾ、ヤマクワ、ノイバラ、サンショウ、ネザサが茂り相当な藪になっている。細枝につかまってやっと下りる。崖下は狭い平地になっているが、雑草が生えているので、それらしい物はなかなか見つからない。腐った柵があり、

それを飛び越した所にやっと待望のカタクリの花が見つかる。

15.6本ずつの2つの群落に大別され、柵をはみだして1本になっている物もあり、一枚葉で花をつけていない物もあり、全体で50本ぐらいである。一枚葉だけの物があるのを見ると少しずつでもふえていることは分かるが、立入困難な場所にかかわらず、2,3日前に掘り取った穴があり、穴のまわりに茎だけのもの、球根が切られたもの、一枚葉のもの、が捨てられている。心ない人によって掘り取られたことは確実で、穴の数からみて20本はくだるまい。捨てられた物は無駄とは思いが、再生したら元の場所に戻すつもりで、12,3本拾って持ち帰り、鉢植えにして活性剤を施す。

まわりの草むらには、ヤブレガサ、キツネノカミソリ、イチリンソウ、イヌシヨウマ、ホトトギス、ヤマユリ、ヤマトリカブト等珍しいものが混生し、カタクリとともに今も残っている。壊れてしまったとはいえ、その当時区で作った柵が役立ったのであろう。改修時の工事人の細かい配慮と、区当局の対策が、気むずかしい野草にも通じたことの成果である。川を隔てた北側の遊歩道から、この意義ある植物群落が、誰れにでもたやすく見える方策はないものだろうか。生物の生命は一瞬に終えることはできる。しかし、その担い手だけにはなりたくない。

久我山の川を隔てた反対側は、京王電車の車庫になっている。その間

に遊歩道があり、ツツジ、アベリアが盛んに植えられている。数年後にはみごとな道路となるだろう。可憐な雑草の花を愛し、不思議な野草の種子に興味を持ち、少しでも自然に親しみを抱く人には、車庫の1m足らずの土手は格好の観察場所である。

初夏には、ノイバラ、ミチヤナギ、カタバミ、クワモドキ、イタドリ、イヌビエ、ハルノノゲシ、クズ、オオバコ、イヌキクイモ、ホソムギ、アキノノゲシ、オオイヌタデ、イヌノフグリ、クサイ、ヤマブドウ、アレチノギク、イヌムギ、カモジグサ、アリタソウ、センダングサ、コヒルガオ、シロツメクサ、セイヨウタンポポ、ハルジョオン、ヒメジョオン等のそれぞれ特徴のある茎や葉が伸び、なかには花や実を持ったものがある。秋には、



3. 久我山雑木林、カタクリ

エノコログサ、ヨモギ、メガルカヤ、ススキ、メヒシバ、オヒシバ、ノコンギク、ヤブマメ、イヌタデ、オナモミ、ヌカキビ、カヤツリグサ等、千差万別の花や実がたけなわである。

ウ. オランダカラシ (Water Cress) の生える善福寺川

オランダカラシは明治の初期にヨーロッパから日本に入ってきた多年草の植物で、白色のひげ根を出して清流に繁茂する。普通西洋料理にそえて若い生の葉を食用にするもので、クレソンとも言っている。繁殖力が強く現在では日本全土に帰化、野生化して生育している。五日市の区立秋川研修所下の秋川の岸にも大繁茂していたが、秋川の砂利をさらったために今では極くわずかになった。

昭和57年5月6日、善福寺池と善福寺川の植物が人にどれだけ荒らされているか調査に行った。山下橋の北崖上流5m位の所にオランダカラシが一株あり、10本ぐらいの茎を出して生えているのを見つけた時は驚いて小さな胸が震えた。何処かの家で利用した残りが流れに入り、水草かごみにかからまっているうち、根が出て伸びはじめたものと思われる。清流にあるオランダカラシが善福寺川で育つことは、水がきれいになった実証ともなる。

一月たった6月4日に小島進氏と岸辺の植生調査をした時、前より幾らか伸び花軸らしいものが出始めていたが、花は見られなかった。9月17日、2人で秋の植生調査をした時、楽しみにしていたら、もうなくなっていてがっかりした。9月12日の台風による大水で流されたか、その時さかんに川床を浚っていたので、他のゴミや水草と一緒に捨て去られた

のか、無念である。我々の無知、無意識の行動が自然破壊に繋がるかと思うと恐ろしくなる。

ホテイアオイの茂った1エーカー(4047m²)の池が、225人分の下水処理後の水の栄養塩類を除去すると言われている。また、金魚鉢のカナダモが水中の窒素酸化物を吸収し、養分としていることもわかっている。何処かで大段的に、善福寺川を使い、オランダカラシを利用して水質の変化を調べる研究こそ、今日的課題ではないだろうか。

善福寺川は河川工事も徹底し、河床も毎年定期的に浚われるので、水草は絶えてしまいそうであるが、ヤナギモ、エビモ、オオカナダモ等が井荻小学校の付近からわずかに生えはじめ、下流に行くほど見た目には水もきれいになり、臭気も少くなり、水量も増えるので勢いよく伸び、量も多くなる。桃二小学校付近では、夏になると水面に水草の花が、細かい白い花を紙吹雪でもまいたように一面に咲きほこる。

サジオモダカも初夏になると、水面上に葉と茎を出してくる。八幡西橋付近から寺分橋の間に多く、はじめは1、2本見える程度であるがだんだん数を増し多い所では50本、200本ぐらいの群落になる。不思議なことに関根橋を過ぎるとほとんど見られなくなる。水中の藻類がふえるためだろうか。これも秋の川浚いまでで後はもう見られない。したがって、花をつけたのは見たことがない。

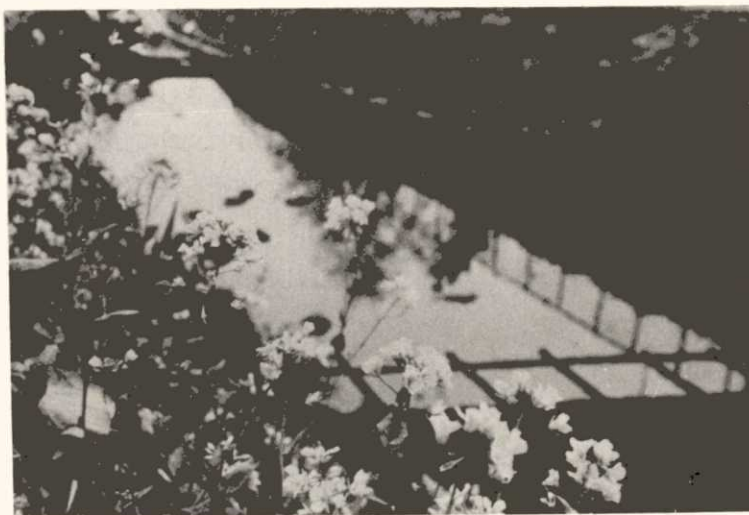
なお、川岸に近く土の堆積した所には、陸生の植物、タネツケバナ、スズメノカタビラ、ギンギシ、ウマノアシガタ、スズメノテッポウ、オオケタデ、オオイヌタデ、アカザ、ア

メリカセンダングサ、イヌタデ、イヌビエ、イヌガラシ、ナズナ等が生育している。なかには、根は水中にあり茎と葉が水面にでた挺水植物の形をとるものもある。

エ. 遅しく野草の生きる善福寺川公園

神田川、善福寺川沿いの遊歩道は、どこを歩いても固くて荒く冷たいコンクリートで、水と土の繋がりを断ち、水と人の縁を厳しく切った切断機の上を歩いているようであるが、善福寺川の松溪橋付近から、善福寺公園にかけては、30cm前後の黒い切り石で古風に畳まれている。橋の竣工年月日から推定して10数年は経過し石の表面も荒々しさが取れ、青苔さえ生え暖味が伝わってくる。

木枯らしの吹く11月に石垣の斜面にルビーを散りばめたような赤い実が輝いている。石と石のわずかな隙間に根をおろしたクコの果実である。寒い風と黒い石の上に手を触れると瞬間に体ごとほじけそうな鮮紅色の実は、神秘的な美しさを惜しげもなく漂わせている。



4. 善福寺川尾崎橋付近

あるものは石の表面すれすれに、或るものは1mぐらいの高さに、10粒ぐらいあり、100粒にもなるものもある。

春には一直線に伸びた新芽に浅みどりの若葉が、初夏にはくっきりとした5弁の紫色の花がさぞ美しいだろう。クコ茶やクコ飯や、果実酒に薬用としても使われるクコが、かくもたくさん金網に囲まれて生い繁っているのは見ものである。善福寺川クコ自生地としていつまでも残したいものである。

クコだけでなくここは野草の宝庫である。遊歩道沿いにもたくさんの種類の野草や木が茂り、別表の調査書の通り緑被度も優れている。石と石とのわずかの隙間にもやや矮小化し匍匐化して遅しい生命力を発揮している。野草に関心のある人は見る価値がじゅう分にある自然の雑草園である。

栽培種から種子がこぼれて成育を始めたと思われるトマト、ムシトリナデシコ、オシロイバナ、ハナニラ、オランダイチョ、シソ、カスミソウ、ケイトウ、タチアオイ、セイヨウアサガオ、カラシナ、等が目立っている。

木性のものには、ヤマグワ、コウゾ、エノキ、ネズミモチ、等が生えているが、木が大きくなるにつれて石垣を壊すおそれもある。

野草では、ヒメシバ、オヒシバ、エノコログサ、カモジグ

サ、イヌムギ、スズメノカタビラ、イチゴツナギ、コウライシバ、イヌビエ、ススキ、ヒメモロコシ、ノビル、ツルボ、カヤツリグサ、ハマスゲ、カタバミ、ハコベ、ギシギシ、タチイヌノフグリ、シロザ、アカザ、ヤエムグラ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、イタドリ、ツメクサ、ヘビイチゴ、オオバコ、イヌホウズキ、コヒルガオ、ナズナ、ポントクタデ、イスタデ、オオイスタデ、ヒメムカシヨモギ、アレチノギク、ヒメジョオン、ハルノノゲシ、ハキダメギク、ヨモギ、ハハコグサ、セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ、ホウキギク、ヨメナ、ノコンギク、ヤブタビラコ、センダングサ、ケアリタソウ、タネツケバナ、イヌガラシ、カラスノエンドウ、クズ、イノコズチ、ヨウシュヤマゴボウ、ノブドウ、ヤブカラシ、ナワシロイチゴ、等で、路傍200種と言うが、石壁上50種はくだるまいと思われる野草が、古色豊かな石畳を覆いつくすのも時間の問題だろう。

5月中旬、川では数羽のひなを連れたコガモが泳いでいる。野草も茂り小鳥も巣立ちできる楽園にならないものだろうか。

オ. 善福寺川の岸で

善福寺池から堰を越して流れ落ちる水は、ふだんは一滴もない。川底までまる見えで、コンクリートで固められた川の構造がよくわかる。八幡西橋を過ぎるとわずかに水が溜り、へドロ状の泥が川床を埋めている。この泥の中にサジオモダカが生育し、条件が良いのか茎も葉もよく繁っている。下流の関根橋との間に、数100本が群生したり、点在したりしている。

井萩橋付近で、川底から大量の水が盛り上って湧出しているのがわかり、この辺りから水草のヤナギモが生え始める。遊歩道の植物も少く、春はカタバミ、オニタビラコ、セイヨウタンポポ、ヒメジョオン、ハルジョオン、イヌガラシ、タネツケバナ、ナズナ等が点在し、秋はエノコログサ、イスタデ、イヌビエが加わるだけである。荻窪中学の万年堀沿いにアジュガ(セイヨウジュウニヒトエ)が約60mにわたって植えられているのは美事である。

下流に行くにつれて、野草の種類も本数も多くなり、原寺分橋あたりから緑が多くなる。中田橋から本村橋の間は急に減少する。遊歩道に沿って空地の残っている所は、空地の広さに応じて遊歩道の野草も多い。緑の少ない所でも注意深く見ると、ノミノツヅリ、ニワゼキショウが可憐な花をつけ、ヒメカナリー(クサヨシ)が変わった穂をつけている。

環八を過ぎ桃二小学校の堀沿いに、数本のシラハタザクラが植えられている。これは桃二の校樹とも言われた親株のシラハタザクラが、校舎改築のため切り取られる運命にいたったので、職員が苦心に苦心を重ね、実生から育てた物で、花の中に立派に白旗が1本立っている。サクラの名所もだんだん少なくなっていく今日、川沿いにあるサクラが、清い水に花びらを散らし、流れる新しい名所ができないものだろうか。

春日橋を過ぎ、石畳の間に生える植物を見る辺りからまた野草や木がふえる。善福寺川公園を中心に、春、秋と言わず、一年を通じて野生植物の宝庫であり、よい観察場所である。



5. 桃井第二小学校横、シラハタザクラ

善福寺川公園を過ぎると、河川工事後、相当な年数を経過していることと、川の周辺に公園や空地が多いため、多年生の野草が多く、株も張り、茎も成長し、一応安定した植生である。その間に一年生の植物がはいる、種類も増え、帰化植物も数多く見られ、変わった植物が観察される。

大成橋付近から高千穂学園のため、遊歩道も片面だけとなる。学園側の崖には、年数を経た多くの樹木がうっ蒼としている。川越しに見ただけでも、サクラ、ミズキ、オニグルミ、ケヤキ、エゴノキ、アカメガシワ、アカマツ、クリ、ニレ、クサギ、シロダモ、コゴメウツギ、ネズミモチ、ムラサキシキブで樹林相をつくり、ツタ、ノブドウ、フジ、クズ、ヤマノイモ等のつる草がからみ合っている。

大宮公園は戦前、杉の大木がそびえ、自然

林に近い形で樹木や野草が繁っていたが、現在は杉は1本もなく明るい日射しを受け、樹木も少なくなり、手入れの行き届いたツツジ公園に変わった。北側の斜面にわずかの樹木が残り、川の水も湧水で一層清く、和田堀公園と共にホテルの名勝地とならないものかと思う。

善福寺川も終りに近い工業実習所の塀ぎわに、今まで何処にも見なかったカラスノゴマが、環七の騒音をよそに、10本近く黄色の小さな花を咲かせている。いつまでも残って欲しい。

カ. 神田川遊歩道

京王井ノ頭線三鷹台駅で下車し神田川に近くと慣れない者には、川の悪臭が相当鼻につく。この付近はまだ下水道が完備していないので、川がその役目を負わされている。黒い水が流れるような流れないようなはっきりしない状態で澱んでいる。したがって水中植物もなく久我山橋近くでやっとヤナギモを少し見かけ、池袋橋付近から水もややきれいになるのでオオカナダモ、コカナダモ、エビモが多くなり始める。

遊歩道は人通りも少なく、空地も見られるので、ススキ、セイヨウタンポポ、シロツメクサ、セイタカアワダチソウ、ヨメナ、メドハギ、等の多年草が相当に茂り、その間に風で種子の散るキク科の植物イネ科の植物が相当に入り、種類も緑も豊富である。

久我山橋を渡り清水橋を過ぎると、カタクリ等のある久我山のため道は京王車庫側の片

側通行となる。カタクリも身近に接することができないのが残念である。方策を講ずるとすれば川越しに垣間見ることができるようになることである。

京王車庫の土手に、善福寺川でも神田川でも捜し当てなかったメダルカヤが、ただ1株生えている。形や花や葉や色は別として、今まで生き残っているのか、新しくはいつきたのか、西武線拜島駅の構内に5,6本見かけるところから交通機関と関連があるのか、これからどうなるのか、1本の野草にも不可解な問題が幾つも残る。できれば生き残って土手いっぱい繁殖し、太田道灌の時代の武蔵野を再現して欲しいものである。

柳橋から高井戸橋付近にかけて野草は減少し、悪臭は残るが、川の水も流れに揉まれてか澄み、水草もわずかに増えてくる。遊歩道の両側に人の手が加わり野草も雑草として抜かれ、ほんのわずかな土にも花の種子が蒔かれ育てられていて、住む人々の心が花に伝わり、見る人の心も和んでくる。ペコニヤ、マリーゴールド、サルビヤ、アサガオ、ヒマワリ、コスモス、キク、カンナ等がきれいである。鉢植えの種子がこぼれたのか、ハカタカラクサ、ムラサキオモト、アイスランドポピー、アオイ、エゾギク、ハウセンカ等の野生化したものもある。

高井戸橋を過ぎると、遊歩道の両側はコンクリートのブロックを入れる工事中で、土が掘り返され野草もほとんどない。ただ工事の終わった所は、ツツジ、アベリアが植えつけられている。

池袋橋、乙女橋付近から急にコヒルガオが増え、ヒルガオも所により混じり合い、淡桃

色の金網となり、緑のカーテンとなる。アスファルトとコンクリートの少しの隙間にも根を下している。杉並区でも少なくなった唯一のヒルガオ街道と言っても過言でない。

下流になると限られた植物だけになり、群落化しつつある。環七に近づくにつれ住宅が川に接近し、空地も少く植物も減る。

両川を通じてギシギシの種類、エノコログサの種類、ヨモギ、イタドリが目立ち、ススキ、ジュズダマ、チガヤが予想外に少い。さらに帰化植物の種類が増えていることに驚く。山野性の植物は稀少化しつつある。昭和48年の調査と比べ、今回はフキ、ゴヨウアケビ、ツルニガナ、タカトウダイ、カスマグサ、ツルアリドウシ、ハウチャクソウ、ウラシマンソウは、調査時期が違い、遊歩道周辺に限定したためか見られなかった。

(2) 善福寺川・神田川の川岸植生

小島 進

ア. 調査の方法

(ア) 調査時期

昭和57年6月と9月の2回調査した。

(イ) 調査区

橋と橋の間を単位として、上流から順次に調査区を設定した。これは距離に長短があるが、わかりやすい。善福寺川は、美濃山橋から神田川合流点までを70調査区に、神田川は、三鷹台駅から中野富士見町駅までを55調査区に設定した。(P.47とP.50に一覧表掲載)

(ウ) 現地調査

調査区に現存している植物の種名と夫々の群度を5段階に分けて記録し、植栽、帰化等を注記する。

調査区全体の緑被度を総合判定して6段階に評価した。

(エ) 緑被度判定の規準

V 川岸が雑木林又はそれに近い状態。

IV 川岸に低木や高い草が茂っている。

III じゅうたん状に草が生えている。

II 線状に草や植栽がある。

I 点々と草などがある。

+ 舗装の割れ目などに貧弱な草やコケがある。

一般にVの種類は少ないが、群落の大半を優占する。IVはそれに準じ、IIIやIIは休眠期のものや優占種に随伴する種類が多い。Iや+は種類は多いが、偶然的なものが多く、定着した植生とはいえない。

イ. 植生表(P.52～P.69に掲載)

(ク) 出現頻度

1種の植生が現存した調査区の数

(イ) 出現率

出現頻度を調査区数で割った百分率

(ウ) 常在度

V 出現率 80%以上

IV 出現率 60%以上

III 出現率 40%以上

II 出現率 20%以上

I 出現率 20%未満

+ 出現頻度1、群度合計1のもの。(特に偶然的なもの)

(エ) 群度合計

1種の植生の調査区毎の群度の合計であるが、春秋2回記録した場合は、その高い方を集計した。この数値は常在度と共に、その種の勢力判定の参考にすることができる。

(イ) 種名の順位

常在度の高い順に並べてある。

(ウ) 摘要

帰 … 帰化植物

栽 … 植栽植物

木 … 木本

水 … 水生植物

(注) 帰化植物には3つの条件がある。

a. 人為的な原因で日本に持ち込まれたもの。

b. 自生状態になっているもの。

c. 主として明治以降のもの。それ以前にも帰化植物があるわけだが、来歴が不明なので帰化植物とはいわない。

(イ) 帰化率

帰化植物数を自然植生数(出現種数から植栽種数を引いた数)で割った百分率。一般に不安定な植生地ほど帰化率が高い。

ウ. 善福寺川流域植生調査結果

(P.52 ~ P.57 と P.64 ~ P.69 に表を掲載)

(ア) 常在度別植生 (総数 295 種)

a. 常在度 V 3 種

セイヨウタンポポ (婦)、ノゲシ (婦)、
カタバミ

b. 常在度 IV 5 種

ヨモギ、メヒシバ、コヒルガオ (婦)、
オヒシバ、ハルジョオン (婦)

c. 常在度 III 15 種

在来種 10 種

カモツグサ、ギンギン、スギナ、ヤブカラ
シ、エノコログサ、コメヒシバ、ヒナタイノ
コズチ、ツユクサ、イヌビユ、イヌガラシ、

婦化植物 5 種

アレチギンギン、オオアレチノギク、ヒメ
ジョオン、ブタクサ、イヌムギ、

d. 常在度 II 31 種

在来種 15 種

スズメノカタビラ、アズマネザサ、オオバ
コ、クコ、イタドリ、イヌビエ、アキノエノ
コログサ、カナムグラ、ナワシロイチゴ、ド
クダミ、ヘクソカズラ、ナズナ、ウシハコベ、
イヌタデ、オニタビラコ、

婦化植物 15 種

ホソムギ、ハキダメギク、ナガハギンギン、
オシロイバナ、オオイヌタデ、イヌキクイモ、
ホナガイヌビユ、ムラサキカタバミ、ヨウシ
ユヤマゴボウ、メマツヨイグサ、アレチマツ
ヨイグサ、ヒメモロコシ、ミドリハコベ、シ
ロザ、ケアリタソウ

植栽植物 1 種

ツツジ

e. 常在度 I 150 種

在来種 80 種

ハコベ、ヤエムグラ、タチツボスミレ、ス
ズメノテッポウ、ケイトウ、ツタ、キュウリ
グサ、ツメクサ、カラスノエンドウ、アキノ
ノゲシ、ゲンノショウコ、エノキグサ、アキ
ノハハコグサ、シソ、サジオモダカ、チドメ
グサ、エビモ、ヤナギモ、メノマンネングサ、
ヤマノイモ、クワクサ、イヌワラビ、コゴメ
ガヤツリ、シバ、ニワトコ、スマレ、タケニ
グサ、ハハコグサ、スベリヒユ、カラスウリ、
アキメヒシバ、ニワホコリ、アカメガシワ、
リュウノヒゲ、エノキ、ノコンギク、アオジ
ソ、マルバスマレ、コモチマンネングサ、チ
カラシバ、オニドコロ、ノブドウ、ネズミモ
チ、ハマスゲ、イチゴツナギ、ヒガンバナ、
トキワハゼ、キランソウ、コオゾ、ヤブカン
ゾウ、ミチヤナギ、ノビル、クサギ、カラシ
ナ、カヤツリグサ、エンジュ、クズ、カセク
サ、ヘビイチゴ、クワ、ツルウメドキ、オ
ニグルミ、カミエビ、クサヨシ、アキニレ、
ススキ、エビヅル、ヤブマオ、アシ、イノモ
トソウ、ヤブヘビイチゴ、ヒルガオ、ノイバ
ラ、ミズキ、オギ、カヅイチゴ、エゴノキ、
スズメノヒエ、ツルボ、ノミノツツリ

婦化植物 41 種

アメリカセンダングサ、ホオキギク、コア
カザ、マメグンバイナズナ、タチイヌノフグ
リ、オランダミミナグサ、オオイヌノフグリ、
ワスレナグサ、コニシキソウ、トウネズミモ
チ、コタネツケバナ、ジュズダマ、チチコグ
サモドキ、ヒメムカシヨモギ、アレチノギク、
オオケタデ、ノボロギク、コセンダングサ、
ムラサキツユクサ、ヌカキビ、ホソアオケイ

トウ、コンフリ、ムシトリナデシコ、フラン
スギク、ショッカサイ、トマト、オオマツヨ
イグサ、セイタカアワダチソウ、オオアワダ
チソウ、アワガエリ、シロツメクサ、アメリ
カアサガオ、ホオズキ、ワルナスビ、カラス
ムギ、ツルマンネングサ、ネズミムギ、メド
ハギ、ヒメヒルガオ、アレチウリ、クワモド
キ、

植栽植物 29種

アジュガ、ベゴニア、ノハラカタカラクサ、
ヤマブキ、サクラ、アサガオ、ポプラ、ムク
ゲ、アジサイ、キク、タマスダレ、タチアオ
イ、ハゲイトウ、ヒマワリ、バラ、トオカエ
デ、コデマリ、マメツゲ、ウバメガシ、クス
ノキ、ケヤキ、クリ、アカマツ、モモ、シラ
カン、ハクニチソウ、ソバ、カキヂシャ、
タチテンモンドウ、

f. 常在度+ 91種

在来種 46種

ヒメワラビ、ツボスミレ、ナンバンハコベ
カラスビシャク、トキンソウ、オオバリュウ
ノヒゲ、コオニタビラコ、ギョウキシバ、イ
イギリ、ミズ、キンミズヒキ、スイバ、オオ
アブラススキ、ヨメナ、ヤブマメ、クサイ、
ニワトコ、チゴザサ、ナキリスゲ、ボントク
タデ、カキドオシ、コマツナギ、チガヤ、ク
サノオウ、センニンソウ、メハジキ、カズノ
コグサ、ノササゲ、セリ、コゴメウツギ、ア
シホソ、チヂミザサ、ヒヨドリバナ、ヤハズ
ソウ、ムラサキシキブ、シロダモ、アオギリ、
ウシノシッペイ、ユキヤナギ、クロマツ、ヤ
ブタバコ、アオガヤツリ、ヒメドコロ、ワレ
モコウ、カラスノゴマ、ムラサキエノコロ

帰化植物 25種

カナダモ、クレソン、ピーマン、オノマン
ネングサ、タマサンゴ、ヒメツルソバ、オラ
ンダイチゴ、プロディア、ペチュニヤ、ハナ
ニラ、ツルムラサキ、オニノゲシ、アイスラ
ンドポピー、ヤエザキオオハンゴンソウ、ニ
ワセキショウ、ハルシャギク、クサマオ、ア
カザ、イヌホオズキ、タカサブロウ、シロノ
センダングサ、オナモミ、ハイアオイ、ゼニ
アオイ、ムシトリナデシコ、

植栽植物 20種

サルビヤ、ビオラ、カナリークサヨシ、ミ
ヤコワスレ、セキショウ、ハカタカラクサ、
カスミソウ、コスモス、ハクチョウゲ、イチ
ジク、ウメ、フキ、ヒメリンゴ、ニラ、サカ
キ、ナンテン、スズラン、カキ、ダイズ、ジ
ャガイモ

(f) 緑被度

川岸の緑被度は34と35調査区間の西田端
橋と、64と65調査区間の和田堀橋を境に三
つに大別することができる。34調査区までは
1 m前後の細い道路があるだけで、その通路
も完全に舗装されているので草などの生える
余地がない。35から64調査区までは川岸に遊
歩道があり、緑地、公園、空地、雑木林など
もあって緑が一番豊富である。65調査区以下
は川岸が一般の道路になって緑被度は一番低
い。

a. 調査区1-2 (美濃山橋-新町橋)

川岸道路の植生はとぼしいが、通路に接し
た庭や生垣があって上流の調査区では緑被度
は高い。水はきれいで川の中にも数種類の水
草が見える。

b. 調査区3-5(新町橋-原寺分橋)

建物が川岸通路に接して建ち庭がない。又、川が学校の校庭を流れる所もあって緑被度は一番低い。5調査区の荻窪中学の塀にそって花壇があってセイヨウジュニヒトエ(アジュガ)が植えてある。

c. 調査区6-9(原寺分橋-駅通橋)

舗装の割れ目や通路の横に多少の草がある。

d. 調査区10-11(駅通橋-山下橋)

殆んど草もない。

e. 調査区12-16(山下橋-中田橋)

6-9と同じ。13調査区の丸山橋付近の川岸通路に玄関口を持った家があって、通路上美しく煉瓦を敷きつめ、花壇を作って美しい草花などが植えてあるのが目立った。

f. 調査区17-21(中田橋-本村橋)

駅に近く事業所が並び、植生は殆どない。

g. 調査区22-24(本村橋-界橋)

6-9と同じ。23調査区の人家の庭にイイギリとサクラの大木があって川の上にまで枝を張りだしている。

h. 調査区25-28(界橋-忍川橋)

環状八号線に近く、植生は少ない。27調査区では桃井第二小学校の横に空地があって、サクラ、ポプラなどが植えてある。

i. 調査区29-34(忍川橋-西田端橋)

川岸道路にそって生垣や多少の草がある。

j. 調査区35-43(西田端橋-尾崎橋)

ここから川岸に遊歩道がある。35調査区の護岸は、切石が積まれ傾斜がゆるく、切石の間に生えた草が斜面にまばらな草原を作っている。36-39調査区は善福寺川公園で、川の兩岸はサクラを主とした高木の植え込みや広い芝生があって、その下にツツジなどの低木

や高い草が茂って緑被度は一番高い。40-43調査区は樹木は少いが、空地が広く草がよく茂っている。

k. 調査区44-48(尾崎橋-大成橋)

左岸は善福寺川緑地、右岸は児童公園があって周囲の緑地は広いが、川岸には樹木もなくさっぱりしている。護岸の石の間にアキニレの苗が生えている。47調査区の右岸のフェンスにヒメヒルガオの大群落がある。

l. 調査区49-52(大成橋-宿山橋)

右岸は川岸まで雑木林や屋敷林があって通路はない。左岸は和田堀公園があって、緑被度は36-39調査区の次に高い。

m. 調査区53-61(宿山橋-本村橋)

遊歩道に沿って空地が多く、荒地群落がある。52、53、56、58、59、調査区にはツツジが列植されている。54調査区の右岸に広い屋敷林があって、ケヤキ、シラカシ等の大木が目立ち、ややまとまった緑地になっている。57、58、調査区は右岸に済美山雑木林、59調査区の右岸には済美公園、60調査区の左岸は済美教育研究所の屋敷林があって緑地が続く。

川岸の遊歩道は本村橋で終る。

n. 調査区62-64(本村橋-和田堀橋)

右岸は一般道路、左岸は川岸の狭い通路であるが、付近の住民が川岸のフェンスの外や内側に花や野菜を栽培し、建物と通路の間には樹木などを植えてあるので、緑被度は上流の通路より高い。

o. 調査区65-70(和田堀橋-合流点)

環状七号線より下流の右岸は通路もなく、川岸まで建物が並び、左岸は広い一般道路となっている。左岸のフェンスとコンクリート護岸のわずかな隙間に点々と草が生えている

だけで、全調査区を通じて緑被度は一番低い。

(ウ) 善福寺川岸緑被度表

区分	被度	摘要
美濃山橋		通路
1	Ⅱ	↓住宅
八幡西橋		
2	Ⅱ	↑住宅
新町橋		
3	+	通路
寺分橋		井荻小
4	+	荻窪中
耕整橋		
5	Ⅱ	
原寺分橋		通路↓
6	I	
宿橋		
7	I	住宅
原橋		
8	I	
井荻橋		
9	I	
駅通橋		事業所等
10	+	
関根橋		
11	+	
山下橋		
12	I	
丸山橋		花壇
13	Ⅱ	
社橋		
14	+	事業所
真中橋		
15	+	
城山橋		
16	Ⅱ	空地
中田橋		
17	+	事業所
鍛冶橋		
18	I	

区分	被度	摘要
18	I	
出山橋		事業所
19	I	
神明橋		
20	+	
置田橋		
21	+	国電
本村橋		
22	Ⅱ	
東吾橋		サクライギリ
23	Ⅱ	
荻野橋		
24	I	
界橋		
25	I	
荻窪上橋		
26	+	
荻窪橋		環八
27	I	桃二小
忍川上橋		
28	+	
忍川橋		
29	Ⅱ	
忍川下橋		住宅
30	I	
春日橋		
31	I	
松見橋		
32	I	
松溪橋		
33	Ⅱ	↑通路
大谷戸橋		
34	Ⅱ	
西田端橋		
35	Ⅲ	遊歩道
神通橋		

区分	被度	摘要
神通橋		
36	V	善福寺川緑地
西園橋		
37	V	
西田橋		
38	V	
せきれい橋		
39	V	サクラ並木
屋倉橋		
40	Ⅳ	
児童橋		
41	Ⅳ	
天王橋		空地
42	Ⅳ	
相生橋		
43	Ⅳ	
尾崎橋		
44	Ⅲ	
成田上橋		善福寺川緑地
45	Ⅲ	
成田下橋		
46	Ⅲ	
成園橋		
47	Ⅲ	
白山前橋		
48	Ⅲ	
大成橋		
49	Ⅳ	和田雑木公園
御供米橋		
50	Ⅳ	
八幡橋		
51	Ⅳ	
宮下橋		
52	Ⅳ	グラ屋敷林
宿山橋		
53	Ⅲ	
大宮橋		
54	Ⅲ	
宮木橋		

区分	被度	摘要
宮木橋		屋敷林
55	Ⅲ	
大松橋		済美山雑木林
56	Ⅲ	
二枚橋		
57	Ⅲ	
済美橋		
58	Ⅲ	
武蔵野橋		公園
59	Ⅲ	
熊野橋		
60	Ⅲ	
紅葉橋		↑遊歩道
61	Ⅲ	
本村橋		
62	Ⅱ	通路
堀ノ内橋		道路
63	Ⅱ	
定塚橋		
64	Ⅱ	環七
和田堀橋		
65	+	
霊峰橋		左右岸一般路
66	+	な路し
光明橋		
67	I	
朝日橋		
68	I	
駒ヶ坂橋		
69	I	
和田広橋		
70	+	
合流点		

エ. 神田川流域植生調査結果

(P.58 ~P.69 に表を掲載)

(ア) 常在度別植生 (総数 242 種)

a. 常在度 V 3 種

オオアレチノギク (帰)、エノコログサ、
セイヨウタンポポ (帰)

b. 常在度 IV 9 種

ヨモギ、メヒシバ、イヌムギ (帰)、ケア
リタソウ (帰)、カタバミ、ノゲシ (帰)、
アキノエノコログサ、オヒシバ、ツユクサ、

c. 常在度 III 13 種

在来種 4 種

カモヅグサ、スギナ、ヒノタイノコズチ、
オオバコ、

帰化植物 9 種

シロツメクサ、ブタクサ、ヒメジョオン、
アレチギンギン、コヒルガオ、アレチノギク、
シロザ、オシロイバナ、ハキダメギク、

d. 常在度 II 17 種

在来種 9 種

イヌビエ、ヘクソカズラ、イヌガラシ、ギ
ンギン、コメヒシバ、ツメクサ、ヤブカラシ、
スズメノカタビラ、ススキ、

帰化植物 7 種

ハルジョオン、イヌビユ、アレチマツヨイ
グサ、セイタカアワダチソウ、コニシキソウ、
オオイスタデ、メマツヨイグサ、

植栽植物 1 種

ツツジ

e. 常在度 I 131 種

在来種 64 種

アキノノゲシ、ミチヤナギ、アキメヒシバ
カナムグラ、ノコンギク、タケニグサ、アシ
ボソ、カゼクサ、メノマンネングサ、ハハコ

グサ、スズメノテッポウ、イスタデ、ウシハ
コベ、トキワハゼ、エビヅル、カラスウリ、
ミズヒキ、アズマネザサ、チヂミザサ、ノブ
ドウ、クズ、クコ、スズメノヒエ、ドクダミ、
タチツボスミレ、ヘビイチゴ、エノキグサ、
クサイ、ヤブマメ、イチゴツナギ、ヒルガオ、
ナズナ、ヤマハギ、チガヤ、ハマスゲ、ニワ
ホコリ、トウバナ、クワ、ノイバラ、イタド
リ、キツタ、ヤマノイモ、ヨメナ、ママコノ
シリヌグイ、カヤツリグサ、ツタ、ヤブマオ、
イノコズチ、カジイチゴ、オギ、スベリヒユ、
シバ、メハジキ、スミレ、カミエビ、シュロ、
アキノハハコグサ、コオゾ、クキギ、アカメ
ガシワ、アブラナ、クヌギ、ポントクタデ、
ミズキ、

帰化植物 40 種

マメグソバイナズナ、イヌキクイモ、ヒメ
ムカシヨモギ、ヌカキビ、ホウキギク、イヌ
ホオズキ、アメリカセンダングサ、ミドリハ
コベ、アカツメクサ、チチコグサモドキ、ゼ
ニバアオイ、ハキダメギク、ジュズダマ、ホ
ソムギ、オオケタデ、ムラサキカタバミ、ヒ
メモロコシ、ヨウシュヤマゴボウ、ノボロギ
ク、オオアワダチソウ、ホソアオケイトウ、
ヤナギハナガサ、コセンダングサ、テリミノ
イヌホオズキ、ニワセキショウ、オオイヌノ
フグリ、フランスギク、ツルマンネングサ、
ムラサキツユクサ、ナガハギンギン、ショカ
ツサイ、ホナガイヌビユ、ダントポロギク、
ヒメオドリコソウ、ザクロソウ、ジャクチリ
ソバ、メドハギ、クサマオ、コアカザ、ヌカ
キビ、

植栽植物 27 種

アサガオ、ダイズ、サクラ、ヒマワリ、ツ

ルムラサキ、ハルシャギク、コスモス、キク、カンナ、サルビヤ、パンジー、ザクロ、タチアオイ、キリノキ、ケイトウ、ヤグルマギク、ホウセンカ、アジサイ、マリゴールド、ジュニア、エゾギク、シバザクラ、バラ、ムラサキクンシラン、ニラ、サトイモ、タマスダレ、

f. 常在度+ 69種

在来種 35種

ヨメナ、ヤブヘビイチゴ、トキンソウ、ノハラアザミ、カセンソウ、カラスノエンドウ、ヌルデ、ムラサキエノコロ、ナルコスゲ、アキニレ、ツルボ、ハリエンジュ、ガガイモ、カワラサイコ、トキワハゼ、ヤブラン、ホタルブクロ、ミョウガ、スイカズラ、クヌギ、チドメグサ、チカラシバ、ヒガンバナ、イヌワラビ、ナワシロイチゴ、イノモトソウ、カラスビシャク、コゴメガヤツリ、オニタピラコ、ムクノキ、ヤハズソウ、アシ、ヤブタバコ、アオジソ、ムラサキシキブ、

帰化植物 18種

アカザ、ヒメヒルガオ、オナモミ、クサマオ、ホオズキ、ハイニシキソウ、オオニシキソウ、アメリカアサガオ、オオツルイタドリ、ミノボロモドキ、ムラサキツクサ、オノマンネングサ、ソバカズラ、マメアサガオ、ノハカタカラクサ、フサフジツツギ、コンフリ、オランダミミナグサ

植栽植物 16種

フウセンカズラ、フヨウ、ユキヤナギ、ユキノシタ、コクチナシ、キンセンカ、キキョウ、リュウノヒゲ、ホトトギス、ビオラ、チダケザシ、ミヤギノハギ、シャスターデージー、スオウ、キンギンナスビ、オダマキ、

(イ) 緑被度

神田川岸はほぼ全域に遊歩道があるが、上流をのぞいて中、下流では川岸近くまで建物が並び、自然植生は善福寺川にくらべて少ない。

秋の調査時には、遊歩道の端にブロックを埋める工事で大半の群落をはがしてしまったので、植生が春よりも更に少なくなった。

a. 調査区1-2(三鷹台駅-三杉橋)

川岸は三鷹市に属する。まだ空地があってややまとまった草原がある。

b. 調査区3-8(三杉橋-無名橋)

1-2調査区に続いて草地が残り自然植生が多い。調査区6-7は久我山駅に近く商店街のため緑被度は特に低い。調査区8は右岸が崖になってその斜面に雑木林が残り、左岸は井ノ頭線の車庫で、その垣にそって高い草が茂り調査区の中で一番緑被度が高い。

c. 調査区9-15(無名橋-東橋)

9、10調査区は富士見丘駅に近く植生は少ない。11-15調査区は都営住宅の中を流れ、遊歩道にそって幅1mのベルト状にツツジの植込みがあり、川岸のフェンスの下には50cm幅に園芸用の露地があって、住宅の人々が草花などを植えている。自然植生はそこに生える雑草だけで、人為的な緑被度が高い。

d. 調査区16-19(東橋-池袋橋)

高井戸駅や環状八号線に近く普通なら草の少ない所のわけだが17、18には線路横の空地があって雑草がよく茂っている。川岸のフェンスにそって草花を植えてあるが、雑草の勢力に押されてあまりよく育っていない。19は距離が短く道路になっていて植生は殆んどない。

e. 調査区20-31(池袋橋-かんな橋)

付近に広いグラウンドや学校があって、その

敷地の生垣や、その下の雑草が緑被度を保っている。20調査区は、遊歩道を広くして、中央に公園のように立派なリボン花壇が作られている。26-30は川岸のフェンスや遊歩道の端にツツジが列植してあるが、陽当たりがよくないためか、樹勢がわるい。

f. 調査区32-46(かな橋-方南橋)

遊歩道は全面が舗装されて草の生える余地がない。フェンスの下の割れ目などに点々と生えたり、住宅の垣の下などに多少の雑草があるにすぎない。32-34は明治大学の垣にそった植栽や雑草がある。45は右岸に小さな雑木林が残っている。

g. 調査区47-55(方南橋-富士見橋)

方南橋で環状七号線をくぐると、右岸は川岸まで学校や事務所の敷地になって通路は全くない。左岸は一般道路で工場などが並んでいて草の生える余地はない。自然植生としては川岸のフェンスの下に貧弱な草やギンゴケを見るだけである。右岸の学校や工場が川岸にそって生垣を作っているので、その植栽が辛うじて最低の緑被度を保っている。49以下は中野区内で、善福寺川との合流点から富士見橋までは杉並区と中野区の境になっている。

(ウ) 神田川岸緑被度表

区分	被度	摘要
三鷹台駅	IV	三鷹空地
1		
神田橋	IV	遊歩道↓
2		
三杉橋	II	
緑橋	III	
4		
宮下橋		

区分	被度	摘要
宮下橋	III	久我山駅 雑木林 車庫
5		
都橋	+	
6		
久我山橋	+	
7		
清水橋	IV	
8		
無名橋		

区分	被度	摘要
無名橋	III	富士見丘駅
9		
月見橋		
10	II	草花栽培 ツツジ植栽
高砂橋		
11	III	草花栽培 ツツジ植栽
あかね橋		
12	III	草花栽培 ツツジ植栽
むつみ橋		
13	III	草花栽培 ツツジ植栽
錦橋		
14	III	草花栽培 ツツジ植栽
柳橋		
15	III	高井戸駅
東橋		
16	+	線路横
つくだ橋		
17	II	花壇
高井戸橋		
18	III	生垣等
正用下橋		
19	+	舗装完備
池袋橋		
20	III	舗装完備
乙女橋		
21	II	雑木林
堂下橋		
22	III	遊歩道
鎌倉橋		
23	III	環七
梢橋		
24	I	雑木林
藤和橋		
25	I	遊歩道
八幡橋		
26	II	環七
睦橋		
27	II	道路
弥生橋		
28	II	

区分	被度	摘要
28	II	ツツジ植栽
向陽橋		
29	II	生垣等
幸福橋		
30	III	生垣等
神田橋		
31	III	舗装完備
かな橋		
32	II	舗装完備
永福橋		
33	II	舗装完備
日向橋		
34	II	舗装完備
永高橋		
35	I	舗装完備
明風橋		
36	I	舗装完備
蔵下橋		
37	I	舗装完備
神泉橋		
38	I	舗装完備
栄泉橋		
39	I	舗装完備
宮前橋		
40	I	舗装完備
中井橋		
41	II	雑木林
番屋橋		
42	I	遊歩道
一本橋		
43	I	環七
和泉橋		
44	I	道路
弁天橋		
45	II	道路
方南第1橋		
46	I	道路
方南橋		
47	+	道路
上水橋		

区分	被度	摘要	区分	被度	摘要		
上水橋	I	道路	角田橋	II	事業所・中野区・生垣		
48			52				
たつみ橋	I	事業所・中野区・生垣	睦橋			II	53
49			54				
向田橋	I		事業所・中野区・生垣	栄橋		I	55
50				和田見橋			
神田橋	+			事業所・中野区・生垣	55	+	区境
51					富士見橋		
角田橋							

(3) 妙正寺川、善福寺川、神田川の水中植生

杉並区公害課調査

ア. 調査方法等

(ア) 調査時期

昭和57年6月15日～7月6日

(イ) 調査区分

調査結果記載欄に表示

(ロ) 調査した植物の名称

オオカナダモ……オ

コカナダモ……コ

ヤナギモ……ヤ

エビモ……エ

クロモ……ク と表示

(ハ) 結果の表示

◎：多い。 △：わずかに存在した。

○：少い。 ×：存在しなかった。

イ. 調査結果

調査区 オ コ ヤ エ ク

(妙正寺川)

杉並区内全域 × × × × ×

(善福寺川)

善福寺池池尻～八幡西橋 × × × × ×

調査区 オ コ ヤ エ ク

八幡西橋～寺分橋 △ × × △ ×

寺分橋～大谷戸橋 ○ × × △ ×

大谷戸橋～関根橋 ◎ × ○ ○ ×

関根橋～真中橋 ◎ × ○ ○ ×

真中橋～神明橋 ◎ × ○ ○ ×

神明橋～荻窪橋 ◎ × ○ △ ×

荻窪橋～春日橋 ◎ × ◎ ○ ×

春日橋～西田端橋 ◎ × ○ ○ ×

西田端橋～矢倉橋 ◎ × ○ △ ×

矢倉橋～尾崎橋 ○ × △ × ×

尾崎橋～大成橋 ○ × △ △ ×

大成橋～大宮橋 ○ × △ △ ×

大宮橋～済美橋 ◎ × ○ ○ ×

済美橋～和田堀橋 ○ × ○ △ ×

和田堀橋～駒ヶ坂橋 △ × △ × ×

駒ヶ坂橋～中野区との境 × × × × ×

(神田川)

三鷹市との境～宮下橋 × × × × ×

宮下橋～久我山橋 × × △ × ×

久我山橋～月見橋 × × ○ × ×

月見橋～錦橋 × × ◎ × ×

錦橋～佃橋 × × ○ △ ×

佃橋～池袋橋 × × ◎ △ ×

池袋橋～乙女橋 △ ○ ◎ △ ×

乙女橋～鎌倉橋 △ ◎ ◎ △ ×

鎌倉橋～八幡橋 ○ ◎ ◎ △ ×

八幡橋～神田橋 ○ ○ ◎ △ ×

神田橋～永福橋 ○ ○ ◎ × ×

永福橋～神泉橋 ○ ○ ◎ △ ×

神泉橋～番屋橋 ○ ◎ ◎ × ×

番屋橋～弁天橋 ○ ○ ○ × ×

弁天橋～方南橋 △ △ ◎ × ×

方南橋～中野区との境 △ △ ◎ × ×

善福寺川植生調査表

No	植 物 名	地点No	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
1	セイヨウタンポポ	帰	2 2	3 2			1	1 1	1 1		1 1
2	ノ ゲ シ	帰	1	1 1	1		1	1		1 1	1 1
3	カ タ バ ミ		1	1 1	1	1	1	1 1		1 1	1
4	ヨ モ ギ		2 2		1 1						
5	メ ヒ シ バ		1	1				1		1	
6	コヒルガオ	帰	1	3 1	1				1 2	1	1 1
7	オ ヒ シ バ			1				1		1	
8	ハルジョオン	帰	1 1	1			1	1	1 1	1	1
9	カモツグサ			3 1				1		3	
10	アレチギシギシ	帰	1	2 3	1			1			
11	オオアレチノギク	帰	1					1		1	
12	ギ シ ギ シ		1 1	2 1	1			1			
13	ヒメジョオン	帰									1
14	ス ギ ナ		3 1	3 1	1	1			1 1	1	1 1
15	ブ タ ク サ	帰		1				1			
16	ヤブカラシ		1	1					1		
17	エノコログサ		1	1	1			1		1	
18	コメヒシバ		1					1	1	1	1
19	ヒナタイノコズチ			1				1		1	
20	イヌムギ	帰									
21	ツユクサ		1	1	1			1		1	1
22	イヌビユ										
23	イヌガラシ		1 1	1 1	1 1			1			1 1
24	スズメノカタビラ		2	1			1				
25	ツ ツ ジ	木 栽									
26	アズマネザサ										
27	オ オ バ コ		1							1	
28	ク コ									1	
29	ホソムギ	帰									
30	イタドリ										
31	ハキダメギク	帰					1	1		1	
32	ナガハギシギシ	帰									
33～54を、P.64～P.69に記載。											
出 現 種 数	総計	294	30	44	16	6	13	29	12	27	21
植 栽 植 物 数	総計	50	0	0	0	1	0	0	0	0	0
帰 化 植 物 数	総計	90	10	15	3	0	4	10	6	7	10
帰 化 率	総合	37%	33	34	19	0	31	35	50	26	48

(善福寺川)

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	出現 頻度	%	常在 度	群度 合計
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋				
1	1	1 1		1	1 1	1 1	1 1	1 1	1	1	63	90	V	95
1 1		1			1 1	2 1	1	1	1		56	80	V	87
1	1	1	1		1	3 1				1	56	80	V	73
		1									45	64	IV	123
1	2	1				2		1 1	1	1 3	48	69	IV	95
1		1 2					1	1 1		1 2	43	61	IV	82
	1	1						1			43	61	IV	78
1	1	1		1	1	1 1			1		45	64	IV	61
						3 1	1				41	59	III	99
					1	1 1					37	53	III	83
		1									39	56	III	69
						1 1					35	50	III	69
				1					1		32	46	III	62
1				1							31	44	III	61
				1							35	50	III	56
		1 1			1					1	35	50	III	55
	1	1									41	59	III	57
		1			1	1				1	32	46	III	47
											32	46	III	47
											32	46	III	82
	2			1		1 1					40	57	III	46
			1 1			1	1	1		1	28	40	III	39
1		1								1	32	46	III	33
1 1											27	39	II	51
											15	21	II	52
											23	33	II	48
	1	1	1	1		1 1		1	1	1 1	26	37	II	44
											24	34	II	44
						1	1				18	26	II	45
						1	1				18	26	II	43
				2		1 2	1			1	26	37	II	41
											21	30	II	41
33～34を、P.64～P.69に記載。														
14	12	26	15	13	13	35	13	16	17	7	調査年月			
0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	昭和57年			
7	4	11	4	5	8	16	7	10	7	2	春：6月 秋：9月			
50	33	42	40	38	62	46	54	63	41	29	調査：小島 進			

地点No.21以降は54～57ページに記載。

善福寺川植生調査表

№	植 物 名	地点№	21	22	23	24	25	26	27	28	29
		摘 要	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
1	セイヨウタンポポ	帰	1	1		1 1	1 1	1 1	1	1 1	1
2	ノゲシ	帰	1	2 1	1 1	1 1	1	1			1 1
3	カタバミ		1	1 2	1 1	1	1 1		1 1	1	1 2
4	ヨモギ			1 2		1				1 1	1 1
5	メヒシバ		1	1			1		1		
6	コヒルガオ	帰	1	1 2			1 1				1 1
7	オヒシバ		1	3		2	1	1	1		1
8	ハルジョオン	帰		1 3	1	1 2	1		1		1 1
9	カモヅグサ			3 1		1					
10	アレチギンギシ	帰		1							
11	オオアレチノギク	帰				1					1
12	ギンギシ			1 1						1	
13	ヒメジョオン	帰									1
14	スギナ		1								
15	ブタクサ	帰		1 1				1			
16	ヤブカラシ			1	1 1		1 1				1
17	エノコログサ			1 1		1					
18	コメヒシバ			3	1	1	1	1		1	2
19	ヒナタイノコズチ			1					(1)		
20	イヌムギ	帰									
21	ツユクサ			1	1 1	1 1	1		1		1
22	イヌビユ			1		1					
23	イヌガラシ			1		1			1		1
24	スズメノカタビラ		1	1		1		1			1
25	ツツジ	木 栽									
26	アズマネザサ			1							1 1
27	オオバコ						1				1
28	クコ			1							
29	ホソムギ	帰									1
30	イタドリ										
31	ハキダメギク	帰		1 2	1		1		1 (2)		
32	ナガハギンギシ	帰									
33～54を、P.64～P.69に記載。											
出 現 種 数	総計	294	7	51	24	30	23	9	21	12	38
植 栽 植 物 数	総計	50	0	2	3	0	0	0	4	0	5
帰 化 植 物 数	総計	90	2	14	9	8	10	4	5	4	13
帰 化 率	総合	37%	29	29	43	27	43	44	29	33	39

(善福寺川)

30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
	1 1	1	1	2 2	1 1	1	3 1	1 1	1 1	1 1	3 2	1 4	1 3	1 1	2 3
	1 1	1 1	1 2	1	3 3	4 3	1 2	2 1	2 1	4 1	1 1	2 1	3 3	1 1	1 1
	2 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1	1	2	1 3	2 2	1 1	1	1 2	1 1	1
	1	1 1	2 3	2 3	2 3	4 3	2 3	3 2	3 3	5 4	5 4	5 4	5 5	4 4	3 5
		1 1	1	1	2	1	5	4	1			1	2	3	1
	1	1 1	1		2 1	1	1	3	2 1		3	2 1	3	2 3	3
		1	1	1	1	2	1	3	3	1		1	1	3	1
	1	2 1		1	1	1	4	2	3		1		3		1
		2	3	2	2	5	5	5	2	4	4	5	2	2	3 1
			2 1	1 1	3 2	2 3	2	3 3	3 2	3 3	5 2	2 4	5 4	2 1	1 1
		1 1	1	3	3 1				5 1		3 1	1	1 1	2	3
	1		1 1	3 1	3 2	3 2	3 2	5 3	1	3 1	3	3 1	4 1	1 2	1
			3 1	1 1		1	5 1	1 1	3 1	2	2			2	3
	2	2			2	1			3 1	1 2	4	5		1	1
			1	1	1 1	2 1	3		1 1	3		1 1	1		1
		1	1 1	1 1	2	1 2	3	2 3	3	3 1	3 3	1 1	3 2	2 1	
		1	1	(1)	1	2	2			3				1	1
	1	1	1	2	3		4								
	1				1	1 1	2 2	2	2 1	1 1	1	1	1 1	1	2
			3	1	2 1	3		4 1	2	1		5	5	3 1	2 1
1	1	1 1			1 1		1		1 1		1		1 1	1 1	1 1
					1 2	2			2			1	1	3	2
			1	1 1	1	1	1 1	1 1	1	1	1	1	1		1 1
		1			2	3	5 1		1	1			1		
					(2) (2)	(5)	(5)	(5)		(3) (3)	(2)	(3) (2)	(2) (2)	(2)	
	1	1	1		1		1		1	1		1	3 2		
	1 1	1				1 3	5 5	5 4	4						
			1 1		2 2	1 1			3 3	3 2	3 3	3 1	3 1	2 1	3 1
												2	5	2	
						5 4	2 2	3	1				1		
	1		2	1 2						1		1			
														1	
33～54をP.64～P.69に記載。															
13	28	43	50	38	76	53	69	44	56	41	32	53	58	41	44
4	0	2	0	2	5	3	6	3	2	1	1	1	2	1	0
4	10	15	25	14	25	19	18	15	23	14	11	23	26	16	23
44	36	37	50	39	35	38	29	37	43	35	35	44	46	40	52

善福寺川植生調査表

No.	植 物 名	地点No.	46	47	48	49	50	51	52	53	54	
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	
1	セイヨウタンポポ	帰	1 1	1	1 1	1 1	2 1	1	1 1	1 2	1 2	
2	ノ ゲ シ	帰	1 3	2 2	2	3	1	2	2	1 2	2 1	
3	カ タ バ ミ		2 2	2	2 2	1 1	1 1	1	2 3	2	1	
4	ヨ モ ギ		5 3	2 2	3 3	1 2	3 2	1	4 3	2 2	2 2	
5	メ ヒ シ バ		1		4	4	4	4		2	5	
6	コヒルガオ	帰	3	5	2 2	3 2	1	1	1 2			
7	オ ヒ シ バ		1	2	2	4	3	1	1	3	3	
8	ハルジョオン	帰	2		3	1	2	1	1		2	
9	カモジグサ		4	3	4 1	1	2 1	2	2	2	2 1	
10	アレチギンギン	帰	1	1	2 2	2 1	2	1	1 1	1		
11	オオアレチノギク	帰	3 2	3	2 1	2	1			3	1 1	
12	ギ シ ギ シ		2	1	2	2	1	1		1 1		
13	ヒメジョオン	帰	3	3	1	2	1	2 2			1	
14	ス ギ ナ				3 3	2 1		3 1	3 2	2	1	
15	ブ タ ク サ	帰	2	1	1	1	1	1	2 1	1	2 1	
16	ヤブカラシ		1 1	1				1 1	1 1	1 1	1	
17	エノコログサ		2	1								
18	コメヒシバ		1		1	1			3		2	
19	ヒナタイノコズチ		2 1	1	1	1		2		1 1	1	
20	イヌムギ	帰	4	4	3 1	2	1	2			3 2	
21	ツユクサ		2 1	1 1	1 1	1		1	1	1	1	
22	イヌビユ		1	2	1 1	2	1		1	1	2	
23	イヌガラシ		1	1		1	1	1	2	1		
24	スズメノカタビラ		1	5 1		2	3				4	
25	ツ ツ ジ	木 栽	(2)						(5) (4)	(4) (4)		
26	アズマネザサ			3 3		1	3 1				1	
27	オ オ バ コ					3 2	3 1	2 2	2		1 1	
28	ク コ		1 1	1	1 1		1					
29	ホソムギ	帰	2			1		1	3	4	4	
30	イタドリ				4 4	3 1	3 2				1 2	
31	ハキダメギク	帰	2	2	2	3	1	1			1 2	
32	ナガハギンギン	帰	3	3	3	2	2		3	3	1	
33～54を、P.64～P.69に記載。												
出 現 種 数		総計	294	61	57	55	53	44	46	47	39	49
植 栽 植 物 数		総計	50	1	0	0	1	0	0	0	1	3
帰 化 植 物 数		総計	90	25	25	20	20	16	14	21	14	19
帰 化 率		総合	37%	42	44	36	39	36	30	46	37	41

(善福寺川)

55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
1 1	1 2	2 2	2 2	2	1	1	3 1	4 3	3 3	1 1		1 1	1 1	1 1	1
1 1				2 1	2	3 1	1		(1)		1	1	1 1	1 1	1
	2	2 1	3	1			2		1			1	1 1	1	
1 2	2	4 2	3 4	4 4	4 2	3 3	3 3	2 1	2 3	1	1	1 2	1 2		
4	3	2	1	4		1	4	2	5	1		2		1	
	2 3	1 1	3 2	3 3	1 3	1	1		2						
4	2	3	1	2		1	3	1	4				1	1	
	1		1				1		1			1	1		
1	3	1	1	2	1		1			2	2	1 1		1	1
2	1 1		5	5	4 1	2 3	1 3	4 1					1		
3 2	1	1	1	1 1	1	1	1	1	1 2	1	1	2 3	1	1 2	1
1		1		2	2	3	1	3						1	
1	3	1 1	3	3		1	3 1		2	2	2	1			
	3 2	1		1 3		3 1						2			
2 1	1	1 4	1	1 1	2		3 3	2	3 3					1	
			1 2	1 3	1 1	2 3				1		1 1			
	1		1				2							1	
			1 1	2	2	1	3	1	1 3			1 1		1	
4	1	4	3	3 1	5	3	3	3 1	1 1	1	1	2		2 1	1
1		1	2	1 1				1	2	1		1			
1	2	1										1			
	1														
3		2					1 1	1	1 4	1					
	(4) (2)		(4) (2)	(4) (3)											
	1	2	4 4	4 4	5 4	4 3	1	3 3	3						
		1 1					1	1							
	2 2	2 1	2 2	1 1			1 1	1			1	1 2			
4	4	3		3	1	1		3		1					
	3 2	1			2 1	4 3		2 2	2 2	1			1		
			3										1 1		
3	2	2	2	2	3		1	3		1		1	1	1	1
33 ~ 64 を、P.64 ~ P.69 に記載。															
37	38	56	39	40	31	30	45	41	42	21	12	25	14	28	7
0	1	1	5	1	0	0	0	6	5	0	0	0	0	0	0
17	13	19	13	14	13	11	16	0	15	9	6	11	6	10	5
46	35	35	36	36	42	37	36	33	41	43	50	44	43	36	71

神田川植生調査表

No	植 物 名	地点No	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
1	オオアレチノギク	帰	1 1	1 2	2	1	3		1	5 1	3
2	エノコログサ		3	3	2 3	2	3	1	1	3 1	1 1
3	セイヨウタンポポ	帰	1 1	2 1	1 1	1 1	1		1	3 1	1 1
4	ヨ モ ギ		1 1		2 2	1	3 2	1		3 3	4
5	メ ヒ シ バ		2	4	3	3	2		1	3	1
6	イヌムギ	帰	3	1			5			2 1	4 1
7	ケアリタソウ	帰	1 1	3		1	1		1	1 2	2
8	カタバミ		3 1		1	1	1			1 1	1
9	ノ ゲ シ	帰	1	1 1	1 1	1	1			1	
10	アキノエノコログサ			1 4	1		1	1	1	1 1	1
11	オヒシバ		1	1 1			1	1 2		1	
12	ツユクサ		1	1 1	1	1 1	1	1	1	2 1	1
13	シロツメクサ	帰	2	4 2	1 1	1	3 2			4 1	3
14	カモジグサ		1 1	1	1		5			4	2
15	ブタクサ	帰	1 1	1	2		2 1			1 1	1
16	スギナ		1 1		1 1	2	1			4 2	1 1
17	ヒメジョオン	帰	2 1	1	1	1	3 1		1	4 1	3
18	アレチノギシギシ	帰	2 1	1		1	3 1				2
19	コヒルガオ	帰	1				2 1			2 1	1
20	アレチノギク	帰			2		1	1 1		2	
21	シロザ	帰	1	3 1	1 2	1	1 1	1 1		2 2	1 1
22	オシロイバナ	帰 栽		(1)		(2)	1				
23	ヒナタイノコズチ		1 1	4 2	1 1		1 1		1 1		1
24	オオバコ		4 2	3 2	1		1 1			3 1	1
25	ハキダメギク	帰		3	1		1			3 1	1
26	ツツジ	木 栽				(4) (4)				(2)	
27	ハルジョオン	帰	1 1	5		1 1	1 1			3 1	1
28	イヌビエ		1	1 2	3	1		1		1	1
29	イヌビユ	帰	1	1	1					1	
30	アレチマツヨイグサ	帰			1						
31	ヘクソカズラ					1	1				
32	セイタカアワダチソウ	帰							1		1 1
33～42を、P.64～P.69に記載。											
出現種数	総計	242	48	54	46	40	47	12	17	64	40
植栽植物数	総計	34	0	3	0	6	0	0	0	1	2
帰化植物数	総計	79	21	22	18	13	21	3	7	27	18
帰化率	総合	38%	44	43	39	35	45	25	41	43	47

(神田川)

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	出現頻度	%	常在度	群度合計
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋				
4	3		1	4	3			1	1 1	1	46	84	V	94
2	3		1	2	1		2	2	1	2	48	87	V	87
1 1	1 1	3	1 1		3		1	4		2	45	82	V	74
3 2				1 1	2		1	1	1	5 2	40	73	IV	76
3	1 1		1	1			2	2			37	67	IV	69
2	1	1		2			3	5 1	1 1	1 1	35	64	IV	66
1	1			1	1		1	1 1		1	35	64	IV	46
1	1	1	1	1	2		1 1				34	62	IV	43
				2	1		1 1	2		1	39	71	IV	42
1	3			1	1			1		1 1	36	65	IV	41
2			1		1		1	1	1		35	64	IV	39
	2	1		1			1 1			2 1	34	62	IV	38
4 1	3		4	1		2		4		2	26	47	III	67
3				3				3		5 1	29	53	III	60
							3	4 1		5	24	44	III	54
			1		1		1	3		2	28	51	III	53
3			3	2	1			2		3	30	55	III	52
2 1					1		1	4		1 1	32	58	III	50
2				1 1				2		3 2	25	45	III	41
				1							31	56	III	41
1 1	1	1	1		1			1	1		32	58	III	40
		(3)	(3)	(1)	1					1 (1)	22	40	III	38
	1	1					1 2	1		2	26	47	III	37
1		1			1	1	1	1	1 1	3	23	42	III	37
1			1 1	1	1			1			24	44	III	36
	(5) (5)	(5) (5)	(5) (5)	(5) (5)	(5) (5)	(5) (5)					17	31	II	73
	1		1				2				20	36	II	27
1		1	1							1	20	36	II	24
							1				20	36	II	23
								2		2 1	17	31	II	23
				1	1			1		4 1	18	33	II	22
							3 1	5 3		2	11	20	II	20
33 ~ 42 を、P.64 ~ P.69 に記載。														
28	25	22	35	44	31	3	38	47	11	54	調査年月 昭和57年 春：6月 秋：9月 調査：小島 進			
0	2	3	5	10	2	1	8	11	1	8				
13	13	16	3	12	13	1	12	12	3	17				
46	57	32	43	35	45	50	40	33	30	37				

地点No. 21以降は60〜63ページに記載。

神田川植生調査表

No	植 物 名	地点No	21	22	23	24	25	26	27	28	29
		摘 要	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋	春 秋
1	オオアレチノギク	帰	3	4	2	3	4	1	2 2	3	
2	エノコログサ			1 1	1 1	2 1	2	3	1 1	1	
3	セイヨウタンポポ	帰	2	2 1	3 1	2	3 1	1	1 1	1 1	1 1
4	ヨモギ		4	3 1	3 2			1		1	1 1
5	メヒシバ			2	2	1	3		1	1	
6	イヌムギ	帰	2	4	1	3	4		2 1		1
7	ケアリタソウ	帰	1	2					1		
8	カタバミ			1		1	1 1	2 2	1 1	1	1
9	ノゲシ	帰	1	1	1	1	1	1	(1)		1
10	アキノエノコログサ			1	1	2	1	3	1		
11	オヒシバ			1	1 2	1	1			1	
12	ツユクサ		1	1			1				1
13	シロツメクサ	帰	4	5 1	5 1	4	4	1	1	1	
14	カモシグサ		4	4	3	3	1	1	2		
15	ブタクサ	帰	3	4 1	2 4		5				
16	スギナ		1			1					
17	ヒメジョオン	帰		3	5	1	3				1
18	アレチギシギシ	帰	3	3 1	1 1	3	3		2 1		
19	コヒルガオ	帰	1	1	1 1		1	1 3			
20	アレチノギク	帰		4	3	1	1	1	1	1	
21	シロザ	帰	1	1 1		2				1 1	
22	オシロイバナ	帰 栽		(4)	1	1	(2)	(4) (1)	1 (2)	(2)	
23	ヒナタイノコズチ			1 1					1	1	1
24	オオバコ		1	5 2	1 1	1					1
25	ハキダメギク	帰		1 4			1	2	1		
26	ツツジ	木 栽		(2)				(5) (3)	(5) (3)	(2)	(5) (2)
27	ハルジョオン	帰	1	1	2	1		1		1	1
28	イヌビエ				1		1				
29	イヌビユ	帰					1			1	1
30	アレチマツヨイグサ	帰	3	1		3	1		1		
31	ヘクソカズラ								1	1	
32	セイタカアワダチソウ	帰	3 1	1	1	1					
32～42を、P.64～P.69に記載。											
出 現 種 数	総計	242	31	55	33	28	34	26	31	34	22
植 栽 植 物 数	総計	34	3	7	2	2	3	2	3	1	2
帰 化 植 物 数	総計	79	19	21	17	15	17	14	12	11	7
帰 化 率	総合	38%	68	44	55	58	55	58	43	33	35

(神田川)

30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
1	2 1	1 1	1 3	1 1	1	2	1 1	1	2	2	1	1			2 1
2 1	1 2	2 1	1 3	1 2	1	1 1	1 1	1	2 1	2 2	1 3	1	1	1 1	1
1 1	1	2 1	1	2 1	2 1	3	1	2		1	1	3 1	3 1	2	1 1
	1 1	2 2	1 1	2	2 1	1 1	2	2 1	2 1	2	1 3	3 1	2 1	1 1	1 1
3	1	3	1	2	1	1	1				3	1	2	1	1
1		1 1		2 1	1	1	1 1		1 1	3		1		2	
3 1	1	1 1	1	1 1	2	3			1		1	1	1	1	1 1
3 1	1	2 1		1	2	1			1		1 1	2 1	1	1 1	1
2	1 1	1 1	1 1	1	1 1	1	1		1	1 1		1	1		1
2 1	2 1	1	1 1	1	1	1			1	1		1		1	1 1
1	1	1	1	1	1	1		1 1	1		1	1	1 2	1	
2 1	2 1	1 1	1	1 1	1	1		1	1 1	1 1	1	1		1 1	1 1
				1	1	1									2
1	1	1				2	1	2	2			1	1		
1		1		1			1	1 1	3		1	1 1		2	2
1	2 1	1	1 1	1	2	1					1			1	1
1	1	2		1 1	1			2	1	1 1	1	1			1 1
1	3 1	1	1	2 1	2 1	1			1		1	3		2 1	
1	1	1 1	1				1			2	2	1	1	1	2
3 1		1	1	1 1	1					1 1	2 1		1	1	1 1
	(1)	1		(2)									1(1)		(2)
2 1	1 1	2	1		1	2			1	1			1	1	2
					1										2
2 1	2 1	1 1	1	1		1									1
(5)(3)	(5)(2)														
	1													1	
2		1			1						1		1		1
3 2		1	1	1 1	1				2				1 1	1	
	1 1		1	1	1		1	1	1	1	1				
2 1		2	1	1	1	1	1		1	1					1
1	1 1														
33～42を、P.64～P.69に記載。															
46	62	52	29	36	33	31	20	17	31	23	29	22	23	33	49
1	1	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	0	2	0
21	26	28	13	16	15	12	9	8	15	9	16	9	12	17	16
47	43	54	45	47	45	40	45	47	50	39	55	43	52	55	33

神田川植生調査表

No	植 物 名	地点No	46	47	48	49	50	51	52	53	54
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
1	オオアレチノギク	帰	1	1		1 1	1 1	1	1 1	1	2 3
2	エノコログサ		3 2			3 1	1 1	2 1	1 1		1 2
3	セイヨウタンポポ	帰	1 1	1		1 1			1 1		1 1
4	ヨ モ ギ		3 3			1 1					1
5	メ ヒ シ バ		3	1 1		2	1				2
6	イヌムギ	帰				1			1		1 1
7	ケアリタソウ	帰			1			1 1			1 1
8	カタバミ					1 1		1			
9	ノゲシ	帰	1	1		1 1	1 1	1	1	1	1
10	アキノエノコログサ		1	1 1				1	1		1
11	オヒシバ					1		1 1	1		1
12	ツユクサ		1	1 1		1					
13	シロツメクサ	帰									
14	カモヅグサ		2 1	1				1	1		2
15	ブタクサ	帰				1					
16	スギナ		1 1								
17	ヒメジョオン	帰									1
18	アレチギシギシ	帰				1	1	1	1 1		1 1
19	コヒルガオ	帰	1								
20	アレチノギク	帰	2	1			1	1	1	1	1
21	シロザ	帰	1				1				1
22	オシロイバナ	帰 栽				1					1
23	ヒナタイノコズチ					1	1				
24	オオバコ		1		1	1 1					
25	ハキダメギク	帰	2 2				1	1 1			
26	ツツジ	木 栽									(5)
27	ハルジョオン	帰	1 1								1
28	イヌビエ					1					
29	イヌビユ	帰	1			1		1			
30	アレチマツヨイグサ	帰									
31	ヘクソカズラ										
32	セイダカアワダチソウ	帰		1							
32～42を、P.64～P.69に記載。											
出 現 種 数	総計	242	22	9	12	31	15	14	13	6	30
植 栽 植 物 数	総計	34	6	0	2	1	0	0	1	1	1
帰 化 植 物 数	総計	79	11	4	2	13	6	7	8	5	14
帰 化 率	総合	38%	69	44	20	43	40	50	67	100	48

善福寺川植生調査表

No	植 物 名	地点No	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
33	オシロイバナ	帰 栽		1					1		
34	オオイヌタデ	帰				1					
35	イヌビエ									1	
36	イヌクイモ	帰		3 2							
37	アキノエノコログサ										
38	ホナガイヌビユ	帰									
39	ムラサキカタバミ	帰									1
40	カナムグラ										
41	ナワシロイチゴ	木									
42	ドクダミ			1			1		1	1 1	1 1
43	ヘクソカズラ		1	1							
44	ヨウシュヤマゴボウ	帰		1	1						
45	メマツヨイグサ	帰									
46	アレチマツヨイグサ	帰									
47	ナ ズ ナ		1	1 2				1 1		1	1 1
48	ウシハコベ			1							
49	イヌタデ				1						
50	オニタビラコ										2 1
51	ヒメモロコシ	帰									
52	ミドリハコベ	帰									
53	シロザ	帰			1			1 1			
54	ケアリタソウ	帰									

以下略。植物名のみ本文中に記載。

神田川植生調査表

No	植 物 名	地点No	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
33	イヌガラシ		2 1	1 1		1					1
34	ギシギシ		1	1	1		1			1	
35	コメヒシバ		1	1	1					1	
36	ツメクサ										
37	ヤブカラシ						2			1 1	1
38	スズメノカタビラ			3		1					
39	ユニシキソウ	帰	1								
40	オオイヌタデ	帰	1	1 1						2	
41	メマツヨイグサ	帰			1		2			2	3 1
42	ス ス キ		1 1		1	1	1				

以下略。植物名のみ本文中に記載。

(善福寺川)

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	地点No.21以降は次ページに記載	出現頻度	%	常在度	群度合計	
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋						
1			(2)		1	2 1		1					26	37	II	40
1													27	39	II	38
	1					2		1	1				25	36	II	38
													15	21	II	37
													19	27	II	30
						1		1					14	20	II	28
			1				1						22	31	II	25
	1												14	20	II	25
													17	24	II	25
		1 1				2							20	29	II	27
													18	26	II	21
		1						1					19	27	II	21
													14	20	II	20
													14	20	II	21
1				1		1				1		1	18	26	II	20
													19	27	II	20
													18	26	II	20
		2		1	1	1	1						16	23	II	18
													16	23	II	18
													14	20	II	14
		1		1									25	36	II	34
						1							16	23	II	21

以下略。植物名のみ本文中に記載。

(神田川)

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	地点No.21以降は次ページに記載	出現頻度	%	常在度	群度合計	
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋						
1			1	1			1	1					18	33	II	19
1 1				1				1					18	33	II	19
			1		1								19	35	II	19
	1	2		1	2								14	25	II	19
1		1	1	1		1				1			18	32	II	19
	1		1		1			1				3	13	24	II	18
	2												16	29	II	17
				1								1	14	25	II	16
				1									11	20	II	16
								1	1 1			3 2	11	20	II	13

以下略。植物名のみ本文中に記載。

善福寺川植生調査表

No	植 物 名	地点No	21	22	23	24	25	26	27	28	29
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
33	オシロイバナ	婦 栽		1 2	(1)		1 1	1	1	(2)	1(2)
34	オオイヌタデ	婦		1			1				
35	イヌビエ										
36	イヌキクイモ	婦									
37	アキノエノコログサ										1 1
38	ホナガイヌビユ	婦									
39	ムラサキカタバミ	婦		1 1	1	1 1	1 1		1		1
40	カナムグラ			1							
41	ナワシロイチゴ	木									
42	ドクダミ			1 1							1
43	ヘクソカズラ			1	1	1 1					
44	ヨウシュヤマゴボウ	婦		1							
45	メマツヨイグサ	婦									
46	アレチマツヨイグサ	婦									
47	ナズナ			1		1					
48	ウシハコベ			1							
49	イヌタデ			1							
50	オニタビラコ			1		1 1				1	
51	ヒメモロコシ	婦									
52	ミドリハコベ	婦									
53	シロザ	婦						1	1 1		
54	ケアリタソウ	婦									
以下略。植物名のみ本文中に記載。											

神田川植生調査表

No	植 物 名	地点No	21	22	23	24	25	26	27	28	29
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
33	イヌガラシ			1 1	1 1						
34	ギシギシ					2				1	
35	コメヒシバ			1			1		1	1	1
36	ツメクサ						1		1		
37	ヤブカラシ					1	1				1 1
38	スズメノカタビラ				1		1				2
39	コニシキソウ	婦			1		1	1		1	
40	オオイヌタデ	婦	1	1	1				1		
41	メマツヨイグサ	婦		2			2				
42	ススキ		1								
以下略。植物名のみ本文中に記載。											

(善福寺川)

30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
(2)(2)	1		1 1		(2)1		1						1		
			2		1	4	1		1 1		1	1	4		
		1	1		1		3	3	1	1			2		
					1	5 1	5 2		1			3			
			1 1	3	1	2	1		3	2		2	3		
			1	1	1	2	3	4		3		3	4		
1	1	1	1		2		1		1						
						1	3						1 1		
				1					1	1 1			1 1	3 3	1
1 1	1 1	2		1 1	1					2 2	2 2				
			1				2 1		1				1		1
						1	2 1	1 1		2 1		1	1 1		
	1		2		3 1	1 1			2						
		1	1 1	2	1				1	2	1	2	3 1	1	2 1
	2	2		1	2	1			3 1	1 2	2	5		1	1
				1	1	1	1 1		1	1	1	2 1	2	1	
				1		2	1	1			1				1 1
	1 1	1 1		1										1	
			1 1		1	2 1	1	2	2 2			1	1 1		
		1	1		1	1	1		1				1	1	1
					1 1				1			2 1	1	1	
			1 1						1						

以下略。植物名のみ本文中に記載。

(神田川)

30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
	1 1	1	1			1									1
		1		1		1 1	1	1					1		
1	1					1						1			
	3	1											1		
		1 1		1							1	1		1	1
1	1 1														
1	1 1	1		1		1								1	
2	1	1			1						1 1				
								1	1		1				
				1			1		2						

以下略。植物名のみ本文中に記載。

善福寺川植生調査表

No.	植 物 名	地点No.	46	47	48	49	50	51	52	53	54
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
33	オシロイバナ	婦 栽			3 3						
34	オオイヌタデ	婦	1	2 1	1 1	1	1 1	3 1	2 1	1 1	
35	イヌビエ		1	1	1 2		1	1	1	4	
36	イヌキクイモ	婦									
37	アキノエノコログサ				2			3 3	2 1		
38	ホナガイヌビユ	婦	1	3				1 2	2		
39	ムラサキカタバミ	婦	1				1	2	2		
40	カナムグラ		2				1	1 1	1		
41	ナワシロイチゴ	木	1 2	1 1	3 1	1	2 1				2 1
42	ドクダミ										1
43	ヘクソカズラ		1	1				1 1	1		
44	ヨウシュヤマゴボウ	婦						1	1	1	1
45	メマツヨイグサ	婦	1	4	3						2 1
46	アレチマツヨイグサ				1						
47	ナ ズ ナ				3 3						
48	ウシハコベ		1 1	2	1			1			
49	イヌタデ		1		1	2	1	1 1		1	
50	オニタビラコ		1		1 1						
51	ヒメモロコシ	婦	1	3 3	1	1 1	1		1	1 1	
52	ミドリハコベ	婦			1	1	1		1		
53	シ ロ ザ	婦	1 1	1	1		1		2		1
54	ケアリタソウ	婦							1 1		3
以下略。植物名のみ本文中に記載。											

神田川植生調査表

No.	植 物 名	地点No.	46	47	48	49	50	51	52	53	54
		摘 要	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋	春秋
33	イヌガラシ		1 1				1				
34	ギシギシ			1 1							1
35	コメヒシバ				1	1	1				
36	ツユクサ										
37	ヤブカラシ					1					
38	スズメノカタビラ		1								
39	コニシキソウ	婦			1	1		1			1
40	オオイヌタデ	婦									
41	メマツヨイグサ	婦									1
42	ス ス キ										1 1
以下略。植物名のみ本文中に記載。											

5. 野 鳥

日本鳥学会会員 竹下 信雄

(1) 調査年月

杉並区内を流れる妙正寺川、善福寺川、および神田川に生息する鳥類の生息状況を昭和57年8月と58年1月に調査した。また、玉川上水について58年1月に調査した。

(2) 調査方法

夏期に流域環境について予備調査を行った。冬期の調査は3日間かけて4河川的全沿岸を踏査し、河川内および河川上空で認めた鳥類を記録し、確認には双眼鏡(7×56

mm)を用いた。調査日はいずれも晴れており、調査時刻は10時から17時までの間であったが、冬期には善福寺川上流でカモ類の移動を18時まで観察した。総観察時間は867分、観察距離は22kmであった。

(3) 調査結果

冬期の調査で観察された鳥類は3目13科20種、総個体数は510羽であった。(表1-4) この中には、日本鳥学会(1974)が野生鳥類と認めないハト目ハト科のドバトを含めた。ドバトを除くと、3目13科19種450羽となる。また、神田川の和泉橋(和泉4丁目)付近で、飼育されていたものが逃げ出したと思われる、尾の長い緑色の中型インコ2羽が上空を通過したが、これは野生とは認

められないので除外してある。

これらの鳥類のうち、本来の生息環境の一部として河川を利用する種は、ガンカモ目ガンカモ科のカルガモ、コガモ、およびマガモスズメ目セキレイ科のキセキレイ、ハクセキレイ、およびセグロセキレイの6種に過ぎない。これらが総個体数に占める割合は、ガンカモ科3種28.2%、セキレイ科3種7.6%、合計35.8%であった。

ほかの14種は、本来の生息環境ではない河

表1. 善福寺川の冬の鳥(昭和58年1月24・25日)

鳥名	採食	飲水	休息	上空通過	計
カルガモ			93		93
マガモ			1		1
コガモ	1		49		50
キジバト	3	1		2	6
ドバト			6	44	50
キセキレイ	4				4
ハクセキレイ	12				12
セグロセキレイ	1				1
ヒヨドリ				20	20
ジョウビタキ				1	1
ツグミ		1		1	2
シジュウカラ				1	1
メジロ				5	5
ホオジロ				1	1
スズメ	49			18	67
ムクドリ		2		17	19
計 16種	70	4	149	110	333

川を一時的に利用、または上空を通過したものである。このうち、川の水を飲んでいるところを観察されたのは、ハト目ハト科のキジバトとドバト、スズメ目ヒヨドリ科のヒヨドリ、同ヒタキ科のツグミ、同ハタオリドリ科のスズメ、同ムクドリ科のムクドリの6種16羽で、飲水していた個体数が、総個体数に占める割合は3.1%であった。採食しているところを観察されたのは14種のうち、6種91羽で、総個体数に占める割合は17.8%であった。しかし、玉川上水で採食していた5種14羽はすべて沿岸の樹木の枝上で採食していたし、善福寺川で採食していたスズメ49羽はすべて護岸壁に生えた草などで採食しており、水縁で採食していたのは、善福寺川のキジバト3羽と神田川のスズメ20羽の合わせて2種23羽で、これらが総個体数に占める割合は、4.5%に過ぎない。

上空を通過した鳥は12種 208羽で、総個体数に占める割合は、40.8%であった。

次に種ごとに、冬期の調査結果を中心に生息状況を述べる。

ア. カルガモ (*Anas poecilorhyncha* ガンカモ科)

善福寺川においてのみ記録された。上流から、関根橋—山下橋15羽、松見橋—松溪橋2羽(コガモ13羽と混群)、松溪橋—大谷戸橋33羽(マガモ1羽、コガモ27羽と混群)、大谷

表2. 妙正寺川の冬の鳥(昭和58年1月26日)

鳥名	採食	飲水	休息	上空通過	計
キジバト				1	1
ハクセキレイ	2				2
計 2種	2	0	0	1	3

表3. 神田川の冬の鳥(昭和58年1月25日)

鳥名	採食	飲水	休息	上空通過	計
キジバト				5	5
ドバト		1	5	3	9
キセキレイ	1				1
ハクセキレイ	17				17
セグロセキレイ	2				2
ヒヨドリ		1		6	7
ツグミ				2	2
シジュウカラ				2	2
カワラヒワ				5	5
スズメ	25	7		31	63
ムクドリ		3		4	7
計 11種	45	12	5	58	120

表4. 玉川上水の冬の鳥(昭和58年1月26日)

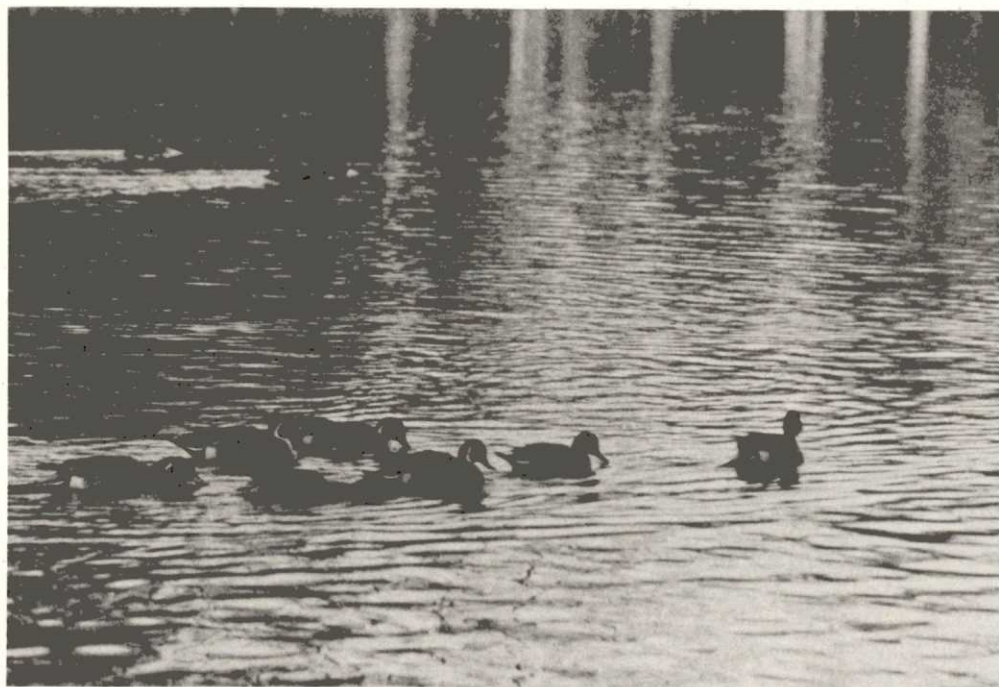
鳥名	採食	飲水	休息	上空通過	計
キジバト	2			2	4
ドバト				1	1
ヒヨドリ	2		1水浴	34	37
モズ	1				1
シジュウカラ	8				8
アオジ	1				1
カワラヒワ				1	1
オナガ				1	1
計 8種	14	0	1	39	54

戸橋—西田端橋 2羽（コガモ10羽と混群）、西田端橋—神通橋 3羽、神通橋—西田橋 2羽、西田橋—屋倉橋36羽、計93羽が観察された。昭和57年5月に、忍川橋のたもとで14羽のひなを連れたカルガモが報道された（読売新聞報道）が、営巣場所は不明である。日本全国の水辺の草むらに隠れた地上に営巣することが多いが、水辺からときには数kmも離れた林の中で営巣し、ひながかえってから水辺に移動することもある（仁部、1941）。また、ひな連れで河川を泳いで移動した可能性もある。善福寺上池でも、この年2回、ひながかえった（6羽と4羽）が、ともにこの池で成長した。水草および水辺植物の葉、茎、根、

種子をおもに食べ、また人の与えるパンくずなども喜んで食べる。今回の調査でも、松見橋の下で、カルガモ2羽とコガモ12羽の混群に餌を与える老人を目撃した。

イ. マガモ（*Anas platyrhynchos*、ガンカモ目ガンカモ科）

善福寺川の松溪橋で雌1羽が記録された。カルガモ33羽、コガモ27羽の混群の中にいた。日本では、本州の高地の水辺でごく少数が繁殖し、東京では冬鳥である。食物は、カルガモと同じことがいえる。



6. 善福寺上池、オナガガモ（手前）とカルガモ

ウ. コガモ (*Anas crecca* ガンカモ目
ガンカモ科)

善福寺川においてのみ記録された。上流から、松見橋—松溪橋13羽(このうち1羽は水底にはえているカナダモをしきりについばんでいた。カルガモ2羽と混群)、松溪橋—大谷戸橋27羽(カルガモ33羽、マガモ1羽と混群)、大谷戸橋—西田端橋10羽(カルガモ2羽と混群)、計50羽であった。本州の高地でごく少数が繁殖し、東京では冬鳥である。食物はカルガモと同様である。

エ. キジバト (*Streptopelia orientalis*
ハト目ハト科)

ハクセキレイとともに、4河川すべてで観察された。樹上性の鳥だが、地上で食物をあさることが多い。記録された16羽のうち、川縁において採食していたもの3羽、飲水していたもの1羽、上空を通過したものの10羽、玉川上水の流れの上にかぶさった枝上で採食していたもの2羽であった。都内で普通に繁殖しており、周年見られる。

オ. ドバト (*Columba livia* ハト目ハ
ト科)

前述のとおり日本鳥学会では野生種として認めていないが、都会では普通に繁殖しており、多数が生息しているので、調査対象に含めた。記録された60羽のうち48羽は上空を通過したもので、神田川では1羽が川の水を飲んでた。ほかの9羽は、橋の下を通る水道管などの上に止まって休息しており、また護岸上部に開いている直径15~30cmの排水口の中に飛びこむ例も見られた。57年6月23日の

調査では、善福寺川駒ヶ坂橋のたもとの直径20cmほどの穴に、1羽が飛び込むと、やや大型の別の1羽が飛び出すところが観察された。穴の入り口付近は、ふんで白く汚れており、中で営巣していたかもしれない。ドバトの原種カワラバトは、海岸の断崖の岩棚などに営巣し、都会のドバトはビルのひさしの上など、似た環境でひなを育てており、垂直に近い角度で5m以上も切り立っているコンクリート壁の穴は、平常、水が流れないのであれば、格好の営巣場所となるであろう。

カ. キセキレイ (*Motacilla cinerea*
スズメ目セキレイ科)

日本の河川で広く繁殖しており、区内でも、1940年までは周年見られたが、現在ではおもに冬鳥。近年、夏に善福寺川で若鳥が見られることがある。今回の調査では5羽記録され、そのうち4羽までが善福寺川にいた。いずれも単独で行動し、川縁を歩きながら採食し、しばしば数10m飛んで移動した。

キ. ハクセキレイ (*Motacilla alba*
スズメ目セキレイ科)

昭和40年代までは、茨城県以北と九州以西で繁殖し東京では冬鳥とされていたが、48年以降、都内でも少数の繁殖例が知られるようになり、52年以降毎夏、善福寺川で若鳥が観察されている。巣立ち後もしばらくは営巣場所付近にとどまる鳥なので、巣は発見されていないが、この川で繁殖しているものと推定される。57年6月23日には、神田川と善福寺川の合流点で夏羽の雄1羽が認められたが、繁殖については不明である。冬期の調査では32羽が記録され、いずれも川縁で採食してい

た。いずれも単独で行動しており、たまたま近くに出会うと、一方が他を追い払う行動に出た。これは、採食の場を固定したなわばりとしているのではなく、互いに上流、下流を移動している可能性がある。昼間は単独で行動しながら、夜間には橋桁などに集まって集団で寝ることが多いが、今回の調査では集団就時の証拠は発見されなかった。冬期観察されたセキレイ3種のうち個体数は最も多く、セキレイの80.0%を占めた。

ク. セグロセキレイ (*Motacilla grandis* スズメ目セキレイ科)

全国各地の河川で繁殖しているが、東京での繁殖地は西部に限られ、区内では冬鳥である。今回の調査では冬期に3羽が認められた。前記2種のセキレイと同様、いずれも単独で水縁を歩きながら採食していた。

ケ. ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis* スズメ目ヒヨドリ科)

森林性の鳥であるが、都内の住宅地や街路樹でも普通に繁殖し、周年見られる。冬期の調査で74羽が観察されたが、そのうち1羽が神田川の水縁で水を飲んでいたら、ほとんどが上空を通過したものである。玉川上水では、水浴していたもの1羽、沿岸の樹木の枝上で採食行動をとっていたものが2羽見られた。

コ. モズ (*Lanius cristatus* スズメ目モズ科)

冬期に玉川上水で採食行動中のもの1羽が記録された。区内でも繁殖しているが、越冬

のために渡来するものもある。

サ. ジョウビタキ (*Phenicurus aureoreus* スズメ目ヒタキ科)

大陸から渡ってくる冬鳥である。冬期の調査で、善福寺川八幡西橋近くの沿岸の手すりにとまっていた雄1羽が観察された。

シ. ツグミ (*Turdus raumanni* スズメ目ヒタキ科)

大陸から渡ってくる冬鳥のひとつである。冬期の調査で4羽を認めたが、3羽は上空通過、1羽は善福寺川の水縁で水を飲んでいて

ス. シジュウカラ (*Parus major* スズメ目シジュウカラ科)

森林性の鳥であるが、区内で普通に繁殖し周年見られる。冬期の調査で11羽観察されたが、そのうち8羽は玉川上水沿岸の樹木の枝上で採食行動をとっていた。ほかの3羽は上空通過の記録である。

セ. メジロ (*Zosterops japonica* スズメ目メジロ科)

森林性の鳥で、区内でも繁殖していると推定され、周年見られる。地上におりことはまれであり、河川を利用する可能性は、飲水と水浴だけである。冬期の調査で上空を通過するものが5羽記録された。

ソ. ホオジロ (*Emberiza cioides* スズメ目ホオジロ科)

平地や山地の疎林や林縁で繁殖するが、区内では冬期にまれに見られるのみ。冬期の調

付表1. (昭和58年1月26日)

三鷹市井ノ頭池の野生カモ類

鳥名	数
マガモ	5
カルガモ	110
コガモ	29
オナガガモ	157
キンクロハジロ	1
雑種(マガモメカルガモ)	1
計 5種 雑種1	303



7. 藻を採食しているコガモ

付表2. (昭和58年1月26日)

善福寺池の野生カモ類

鳥名	上池	下池	計
カルガモ	127		127
コガモ	3	9	12
オナガガモ	6		6
計 3種	136	9	145

查では、善福寺川尾崎橋付近の上空を通過する1羽が記録された。

タ. アオジ (*Emberiza spodocephala*)

スズメ目ホオジロ科)

本州では亜高山帯で繁殖するが、区内では冬鳥である。よく茂ったヤブの中にいることが多く、冬期の調査で、玉川上水のやぶの中で採食行動をとる1羽が記録された。

チ. カワラヒワ (*Carduelis sinica* スズメ目アトリ科)

区内でも繁殖しており周年見られる。多摩川などの大きな河原の草地では大群を見ることがあるが、今回の調査では冬期玉川上水で

上空を通過する1羽が観察されただけである。

ツ. スズメ (*Passer montarus* スズメ目ハタオリドリ科)

区内でも多数繁殖し、周年見られる。冬期の調査で130羽が記録された。そのうち49羽37.7%は上空を通過したもの、54羽41.5%は護岸のコンクリートのすき間からはえている草にとりついて種子などを食べていたもの、20羽7.7%は水縁において採食していたもの、7羽5.4%は水縁において水を飲んでいたのである。本来は特に水辺に多い鳥ではないが、カモ類、セキレイ類に次いでこれら河川を最も利用している鳥であった。

テ. ムクドリ (*Sturnus cineraceus* スズメ目ムクドリ科)

耕地から森林まで広く生息し、区内でも普通に繁殖し周年見られる。冬期の調査で26羽記録されたが、21羽80.8%は上空を通過したもので、ほかの5羽19.2%は水縁において水を飲んでた。

ト. オナガ (*Cyanopica cyana* スズメ目カラス科)

都内で普通に繁殖し、周年見られる。森林性の鳥で、地上におりることも多いが、開けた所は好まない。冬期の調査で、上空を通過した1羽だけが記録された。

(4) 考察

ア. カモ類の生息について

カモ類は善福寺川においてのみ記録された。神田川と妙正寺川は川幅が狭くて人が近づきやすい、水量が少なく水も汚れているなどの理由で、生息しないのであろう。善福寺川では、人が投げ与える餌に頼るほか、水草と藻を食べているものと思われる。善福寺川の流出する善福寺池と神田川の流出する井の頭池には多くのカモ類が昼間休息し、日没後30分ぐらいたつと次々に飛び立って外部に食物を求めるが、冬期の調査で付随的に善福寺池で行なった夕方のカモ類の行動調査では、二つある池のうち開水面の広い上池で休んでいたカルガモは、日没(17時01分)後、約20分たってから次々に飛びたったが、すべて下池のアシ原におり、分散して採食しており、川へ下る個体はなかった。(付表1、2)。

玉川上水は余りに水量が少なく、食物とな

る水草もなく、また沿岸の植物が水面上を完全におおっていて、カモ類の生息には適さない。神田川、妙正寺川、玉川上水は、昼間生息しないだけでなく、夜間の飛来もないと思われる。

イ. セキレイ類の生息について

セキレイ類については、妙正寺川と神田川の狭さと汚なさは、カモ類と違って生息の妨げにはなっていないらしい。より短い神田川で3種20羽観察され、より長い善福寺川ではそれより少ない17羽が観察された。ほとんど汚水の流入しない善福寺川にくらべて、神田川には家庭排水が若干排出されているようであり、それに含まれるゴミによって、セキレイ類が食べる各種の昆虫類などの発生が多いのかも知れない。玉川上水では、水量の少なさと、それに伴い水棲昆虫のほとんどいないこと、暗い水面を好まないことが、生息を妨げているらしい。

ウ. 繁殖について

ガンカモ科のカルガモは善福寺川で、セキレイ科のハクセキレイは善福寺川、妙正寺川、神田川で繁殖の可能性がある。ハト科のドバトもこれら3河川の排水口の中などで繁殖している可能性がある。また、玉川上水の沿岸の樹上には、ハト科のキジバト、ヒヨドリ科のヒヨドリ、モズ科のモズとアカモズ、ヒタキ科のウグイス、シジュウカラ科のシジュウカラ、メジロ科のメジロ、ホオジロ科のホオジロ、アトリ科のカワラヒワ、ムクドリ科のムクドリ、カラス科のオナガとハシボソガラスが営巣している可能性がある。

エ. 記録されなかった種について

夏期に、河川で発生する昆虫を求めて、ツ

バメが飛ぶ可能性が高い。また、シギ・チドリ類が春と秋の渡りの途中に通過する可能性があるが、多くは夜間、川沿いに飛行するだけであろう。広い川原には、ハンボンガラスとハシブトガラスがいることが多いが、今回の調査では1羽も観察されなかった。人に対する警戒心が強いので、川幅が狭くおりにくいのであろう。また、残飯などの投棄がないこともカラス類にとって魅力がないのであろう。

善福寺川流域には、沿岸の湿地が広がっていたと思われる場所がある。現在はコンクリートの護岸によって必要最低限の川幅だけを残し、他は埋め立てられているが、かつては、アシが生えて、各種の水生植物が茂り、大雨時の自然の遊水池となっていたはずである。そこでは、カイツブリ科のカイツブリ、サギ科のヨシゴイ、クイナ科のヒクイナとバン、タマシギ科のタマシギ、ヒタキ科のオオヨシキリが繁殖していたに違いない。このような環境が今は全くないので、これらの鳥は河川では見られない。

付 記

河川的设计および管理について若干の意見を述べる。

- ① 早急には実現が難しいが、沿岸の湿地を回復したい。
- ② 護岸の法面は現在、コンクリートまたはコンクリートブロック積みである。コンクリートで固めた法面には草も生えず、鳥の生息環境としては価値がない。一方、ブロック積みの所は草が生え、スズメが採食するところが多かった。さらに多くの草が生えるような

構造に改造すれば、より価値が増すであろう。

③ 護岸の法面と底面が接する所は、いくつかの形式が見られたが、鳥にとっては、突出部がなく、法面と底面がほぼ直角に連なり、底面一杯に水が流れているものが好ましいようだ。このような構造のところには、自然に小さな砂州が発達し、多くの鳥の採食や飲水の場となっていた。

④ 左右両岸には、手すりまたは金網が設置されていた。護岸上面の幅に余裕がある所では、幅約50cm舗装をはぎ、雑草やつる草を茂らせた。多くの鳥の格好の採食や休息の場となるであろう。つる草が護岸から水面まで茂ったら美しい景観になる。

⑤ しゅんせつは、水生植物の付着を損なわないように配慮して実施して欲しい。また、ゴミの清掃を定期的に行うべきである。

⑥ 橋の幅は、それにつながる道路の幅よりも広くしたい。緑地帯を設けたり、ベンチをおいて憩いの場とすることもできる。神田川では、不十分ながら月見橋と柳橋にその例がみられた。

⑦ 玉川上水には淡緑色の有刺鉄線が張ってある。三鷹市の部分は褐色の手すりであり、好ましい。早急に改善したい。

⑧ 水量の増加をはかるべきである。水量がいちばん多く、水もきれいだったのは善福寺川であったが、水の多くは善福寺池からの流出ではなく、宿橋たもとの湧水によるもののように思われた。流量が増加すれば、水もきれいになり、魚も増え、魚食性の鳥、たとえば、カワセミ科のカワセミなどが生息することも可能になる。

6. 付着藻類と動植物プランクトン

(1) 調査結果の概要

河床の石礫に付着した藻類と流水中に浮遊している動植物プランクトンについて、その種類、量、優占種などの調査結果を中心に述べる。

ア. 付着藻類

おもな出現生物は、ピロウドラソウ、ユレモ（以上藍藻類）、イカダモ、キヌミドロ（以上緑藻類）、マガリケイソウ、クサビケイソウ、フネケイソウ、ハリケイソウ（以上珪藻類）であった。

河川ごとに出現した種類数は、妙正寺川13種、善福寺川22種、神田川16種であった。

優占種をみると、妙正寺川では、かなり汚濁した都市河川で多くみられるハリケイソウであり、善福寺川では、強腐水性水域から β 中腐水性水域までの汚濁した水域にみられるフネケイソウであり、神田川では、 α 中腐水性水域から貧腐水性水域まで広く分布するマガリケイソウである。

付着藻類の調査結果からは、3河川とも、 α 中腐水性水域 ~ β 中腐水性水域と推定された。

イ. 動植物プランクトン

本調査で採取されたプランクトンは、流下藻類のような河床付着微生物の剥離物と、善福寺池のような止水域に生息していたものが流出したものである。

おもな出現生物は、植物プランクトンでは付着微生物で見られたものが主であり、そのほかにチャヅツケイソウ、オオパンケイソウなどが見られるだけである。動物プランクトンでは、コナヒゲムシの1種が3河川ともに優占的にみられ、他には、ミドリムシ、カラヒゲムシ、ウロコカマリ、ゾウリムシ、ツリガネムシ、ワムシなどがみられた。

なお優占的に出現したコナヒゲムシは、かなりきたない水域とされる α 中腐水性水域でよく見られる種である。

(2) 調査方法など

ア. 調査日時

昭和57年10月21日

イ. 調査機関

環境管理センター（株）に委託した。

ウ. 調査方法

（ア）付着藻類

河床より表面のなめらかな石礫を選定し、5×5 cmのゴム板製のコドラートを当て、コドラートの周辺の付着物をブラシでバット内に洗い落とし、これを定性用のサンプルとする。次に、コドラート内の付着物を同様に洗い落とし、定量用のサンプルとする。これらを5%ホルマリン液で固定し、持ち帰る。

定量は、定量用サンプルを用い、沈澱管で沈澱量を測定する。その一定量を水で調整し、

顕微鏡下で種別に細胞数の計数を行なう。

種の同定には、定性用サンプルを用いる。緑藻、藍藻類についてはそのまま鏡検する。珪藻類については、酸処理後、プレウラックで封入したプレパラートを作成し、これを鏡検して種を固定する。

(イ) 動植物プランクトン

上水試験法に準ずる方法で河川水を各5ℓずつ採水し、ホルマリンを1%加えて固定しサンプルとする。さらに、動物プランクトン生体観察用のサンプルとしてホルマリン固定しない試験水を採用する。

持ち帰ったサンプルは、24時間静置濃縮し、付着藻類と同様に種の固定、細胞数の計数を行なう。

動物プランクトンは、生体観察も行なう。

エ. 調査地点

付着藻類については、妙正寺川1地点、善福寺川4地点、神田川3地点、善福寺上池と下池の流路1地点の合計9地点で調査した。

動植物プランクトンは、妙正寺川の松下橋、善福寺川の尾崎橋、神田川の鎌倉橋の3地点で調査した。

(ア) 妙正寺川

松下橋付近(下井草1・3丁目)

(後載の一覧表では、M-1と表示)

(イ) 善福寺川

井荻橋付近(西荻北3・5丁目)

(後載の一覧表では、Z-4と表示)

春日橋下流(荻窪2丁目)

(後載の一覧表では、Z-6と表示)

尾崎橋下流(成田東2・成田西2丁目)

(後載の一覧表では、Z-7と表示)

和田堀橋下流(和田2・方南2丁目)

(後載の一覧表では、Z-9と表示)

(ウ) 神田川

井の頭線車庫脇(久我山2丁目)

(後載の一覧表では、K-1と表示)

鎌倉浜下流(浜田山1・下高井戸4丁目)

(後載の一覧表では、K-3と表示)

方南第1橋付近(和泉4丁目)

(後載の一覧表では、K-5と表示)

(エ) その他の地点

善福寺上池と下池の流路(善福寺2丁目)

(後載の一覧表では、Z-1と表示)

(3) 調査結果

ア. 調査データ

P. 80 ~ P. 84に記載

イ. 調査結果から推定された水質階級

biotic index (汚濁耐忍性の種類数をAとし、非耐忍性種をBとするとき、 $2A + B$ をもって biotic index とする。)によって、水質階級を判定した結果を、調査データとともに記載した。ただし、この指数は底生生物の調査結果に適用するのが通例であり、また河床の状況等によって変動するものである。

付着藻類の細胞数。(5×5 cm×1検体)

昭和57年10月21日

分類	生物名	河川名 採集地点	耐忍性	妙正寺川					善福寺川			神田川		
				M-1	Z-1	Z-4	Z-6	Z-7	Z-9	K-1	K-3	K-5		
Blue	green Algae (藍藻類)													
	<i>Homoeothrix janthina</i>	ピロウドランソウ	A											1267
	<i>Oscillatoria</i> sp.	ユレモの1種		123	29		64							
Green	Algae (緑藻類)													
	<i>Actinastrum hantzschii</i>	アクテイナストルム	B		51									
	<i>Ankistrodesmus falcoatus</i>	イトクズモ	B		1			3			6			
	<i>Scenedesmus dimorphus</i>	イカダモ	B	82										
	<i>Scenedesmus quadricauda</i>	—	B		5									
	<i>Scenedesmus</i> sp.	イカダモの1種	B	399	3		26		29					
	<i>Stigeoclonium</i> sp.	キヌミドロの1種	B			70		8		51	150		38	
	<i>Pediastrum duplex</i>	フタヅノクンシヨウモ	B		3									
Diatoms	(珪藻類)													
	<i>Achnanthes lanceolata</i>	マガリケイソウ	A					3						
	<i>Achnanthes minutissima</i>	—	B		1		26	17	6	986	33		330	
	<i>Achnanthes</i> sp.	マガリケイソウの1種		31										
	<i>Amphora ovalis</i>	ニセクチビルケイソウ	B		1									
	<i>Asterionella formosa</i>	ホシガタケイソウ	B									4		
	<i>Cocconeis placentula</i>	コバンケイソウ	B		1					6				
	<i>Cyclotella comta</i>	コマルケイソウ	B		8			9						
	<i>Cymbella turgidula</i>	クチビルケイソウ	A		1									
	<i>Eunotia</i> sp.	クシガタケイソウの1種	A		1									
	<i>Fragilaria construens</i>	オビケイソウ	A		1									
	<i>Fragilaria crotonensis</i>	—	A		18									
	<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビケイソウ	B	143		525	6	147	14	205	164		46	
	<i>Gomphonema tetrastigmata</i>	—	B		3									
	<i>Melosira granulata</i>	チャヅッケイソウ	A	51	680							3		
	<i>Melosira varians</i>	—	B					19						
	<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイソウ	B	20			38	35	1		9			
	<i>Navicula exigua</i>	—	B						1					
	<i>Navicula lanceolata</i>	—	B		3									

植物プランクトンの細胞数。(1ℓ中)

昭和57年10月19日

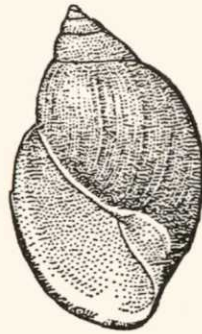
分類	河川名		妙正寺川	善福寺川	神田川
	生物名	採集地点	M-1	Z-7	K-3
Blue - green Algae (藍藻類)					
	Chroococcus sp.	クロオコックスの1種		850	
	Microcystis aeruginosa	ミクロキステイス(アオコ)	12800		
	Oscillatoria sp.	ユレモの1種	8530		
Green Algae (緑藻類)					
	Actinastrum hantzschii	アクテナスツルム			10240
	Ankistrodesmus falcoatus	イトクズモ	14510		15360
	Coelastrum sp.	ケラスツルムの1種	3410		430
	Dictyosphaerium pulchellum	デイクテイオスフェリウム			430
	Pediastrum duplex	フタヅノクンシヨウモ			1280
	Scenedesmus acminatus	イカダモ	3410		5120
	Scenedesmus dimorphus	-	6830		
	Scenedesmus longispina	-	3410		
	Scenedesmus quadricauda	-	6830		6830
	Scenedesmus sp.	イカダモの1種	50770	6830	30290
	Stigeoclonium sp.	キヌミドロの1種			850
Diatoms (珪藻類)					
	Achnanthes lanceolata	マガリケイソウ	430		
	Achnanthes minutissima	-	850	1280	
	Asterionella formosa	ホシガタケイソウ	24320		90880
	Cyclotella comta	コマルケイソウ	1280	13650	8960
	Diatoma hiemale	ヨコスジケイソウ		430	
	Eunotia pectinalis	クシガタケイソウ			850
	Eunotia sp.	クシガタケイソウの1種	5970	430	
	Fragilaria construens	オビケイソウ		2130	
	Fragilaria crotonensis	-	8530	430	2990
	Fragilaria vaucheriae	-		850	
	Gomphonema parvulum	クサビケイソウ	10670	29440	3410



ヒメタニシ 30mm



カワニナ 15mm



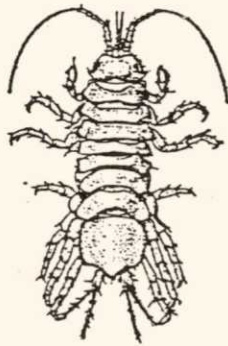
サカマキガイ 10mm



ドブシジミ 5mm



ヒラマキミズマイマイ 8mm



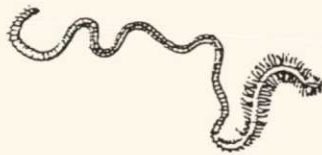
ミズムシ 10mm



ホシチョウバエ 7mm



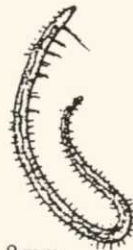
イトミミズ 6mm



エラミミズ 8mm



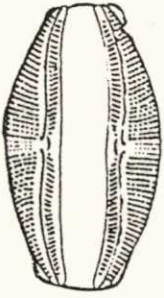
ユリミミズ 7mm



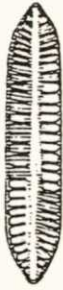
ミズミミズ 2mm



セスジュスリカ 11mm



ニセクチビルケイソウ
20 μ



オオパンケイソウ
25 μ



ハネケイソウ
50 μ



クサビケイソウ 15 μ



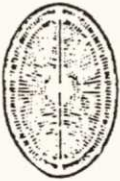
フネケイソウ 10 μ



ヨコスジケイソウ 5 μ



コマルケイソウ 15 μ



コパンケイソウ 11 μ



ナガケイソウ 100 μ



オビケイソウ 5 μ



マガリクサビケイソウ
12 μ



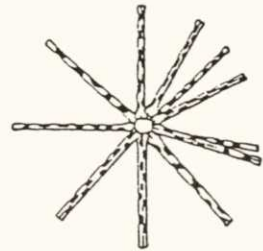
マガリケイソウ 5 μ



ハリケイソウ 50 μ



チャツツケイソウ 8 μ



ホンガタケイソウ 40 μ



ユレモ 3 μ



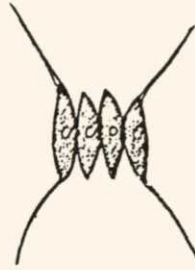
ミドリムシ 50 μ



フタヅノクンシヨウモ 21 μ



ナベカムリ 90 μ



イカダモ 11 μ



ウズオビムシ 30 μ



コナヒゲムシ 17 μ



ツボカムリ 80 μ



クロオコックス 5 μ



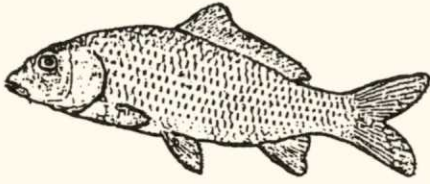
カラヒゲムシ 5 μ



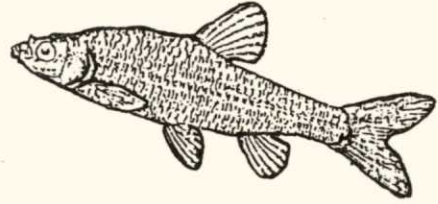
ツリガネムシ 100 μ



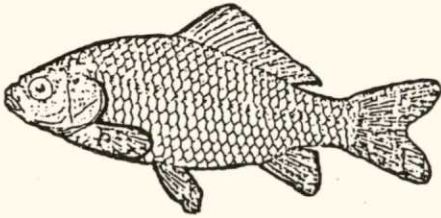
デイクテイオスフェリウム 3 μ



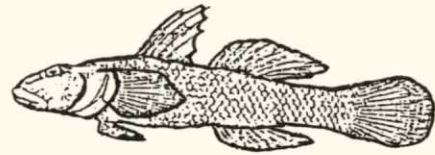
コイ



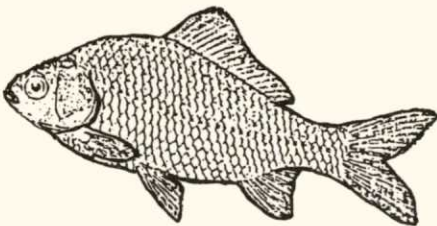
モツゴ



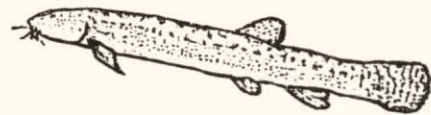
ギンブナ



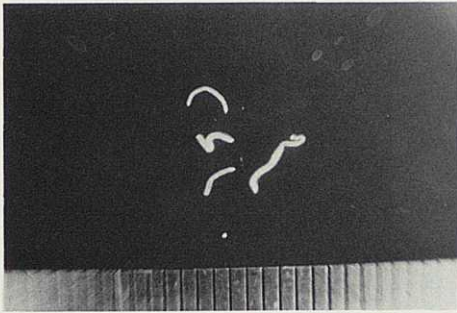
ヨシノボリ



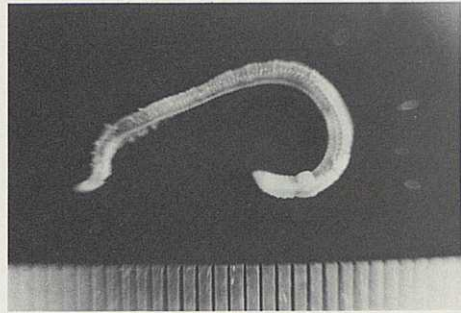
キンブナ



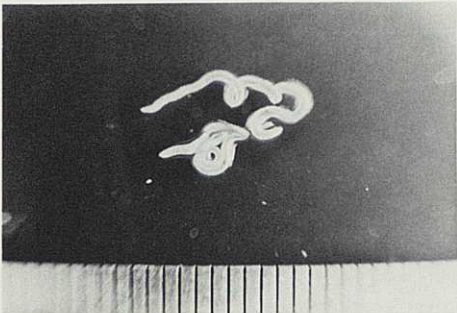
ドジョウ



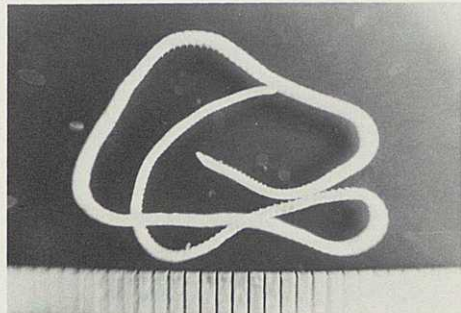
8 *Nais* sp. ミズミミズの1種



9 *Branchiura sowerbyi* エラミミズ



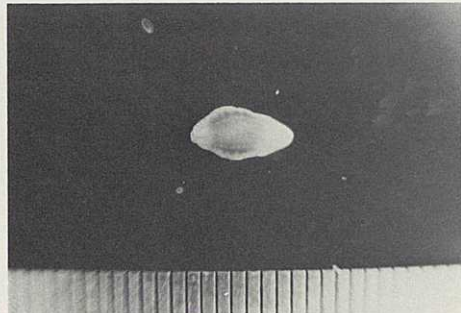
10 *Tubifex* sp. イトミミズの1種



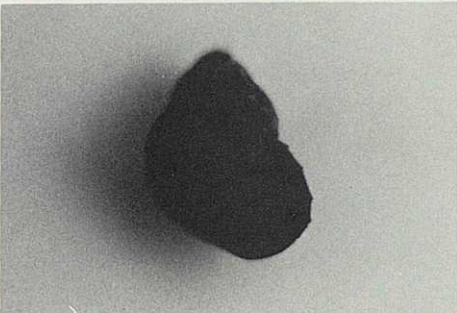
11 *Haplotaxis* sp. ナガミミズの1種



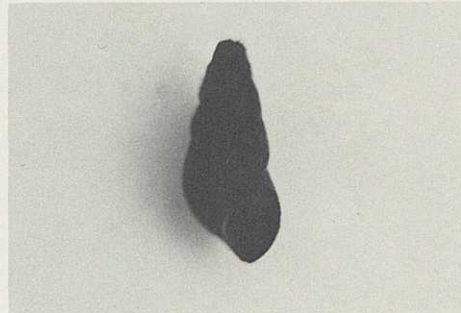
12 *Erpobdella lineata* シマイシビル



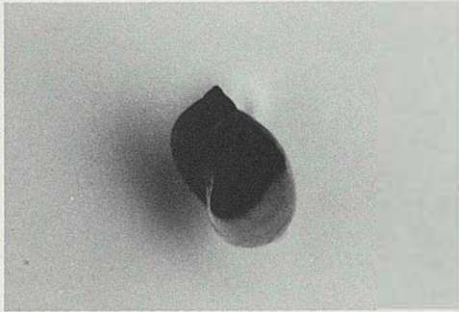
13 *Glossiphonia weberi lata* ノバヒロビル



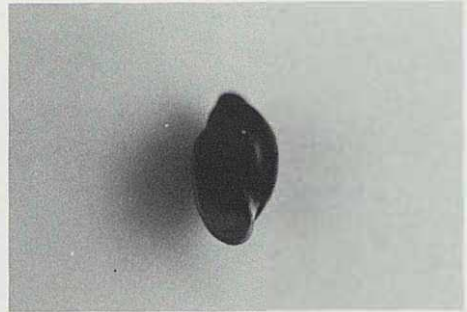
14 *Sinotaia quadrata histrica* ヒメタニシ



15 *Semisulcospira libertina* カワニナ



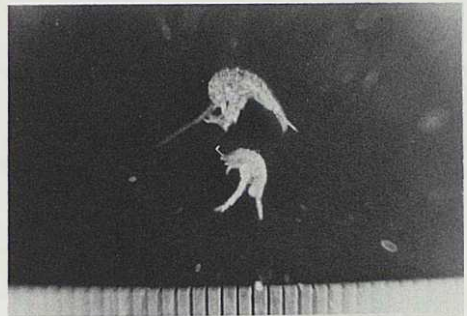
16 *Radix auricularia japonicus* モノアラガイ



17 *Physa acuta* サカマキガイ



18 *Corbicula leana* マンジミ



19 *Asellus hilgendorffii* ミズムシ



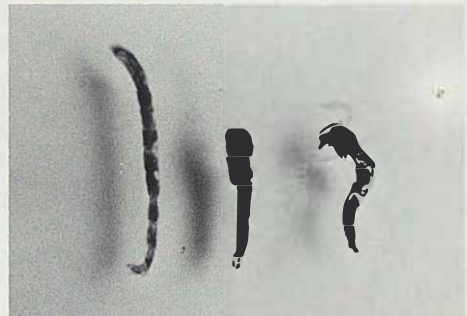
20 *Baetis* sp. コカゲロウの1種



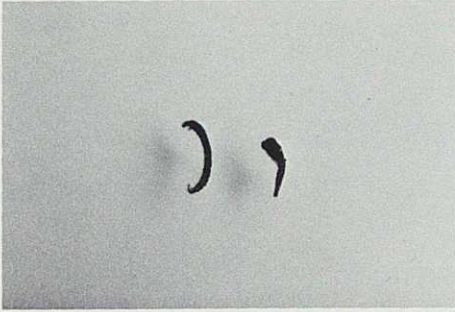
21 *Hydropsychodes brevilineata* コガタシマトビケラ



22 *Psychoda alternata* ホシチョウバエ



23 *Chironomus yoshimatsui* セスジユスリカ



24 *Pentaneura* sp. ヒメナガユスリカの1種



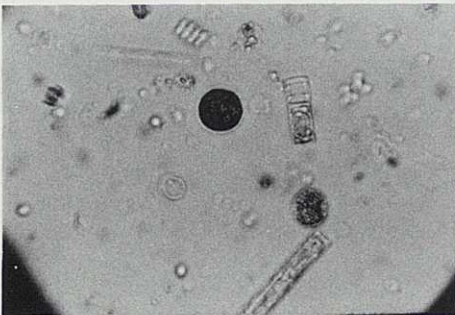
25 *Peridinium* sp. ウズオビムシの1種



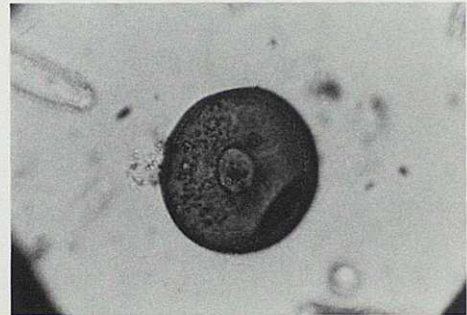
26 *Euglena gracilis* ミドリムシ



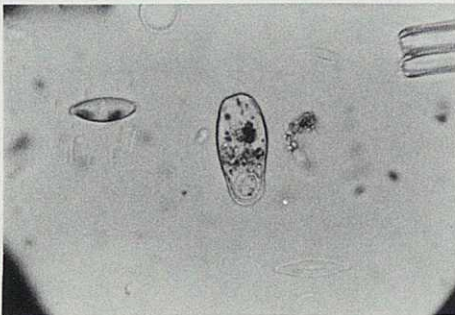
27 *Trachelomonas* sp. カラヒゲムシの1種



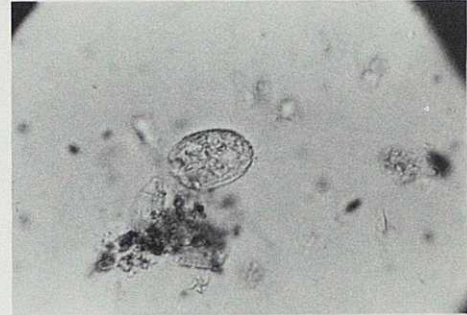
28 *Chlamydomonas* sp. コナヒゲムシの1種



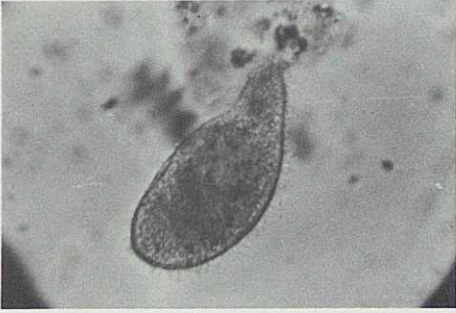
29 *Arcella vulgaris* ナベカムリ



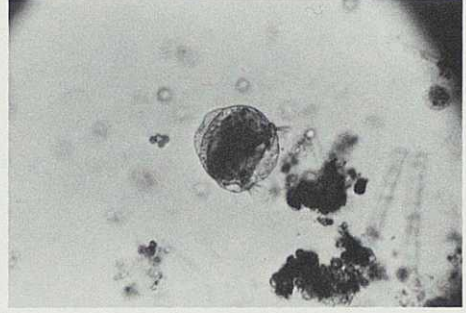
30 *Trinema lineare* ウロコカムリ



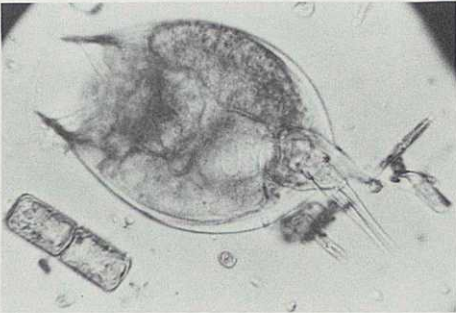
31 *Colpoda* sp. オカメゾウリムシの1種



32 *Amphileptus claparedei* アンフイレプス



33 *Vorticella* sp. ツリガネムシの1種



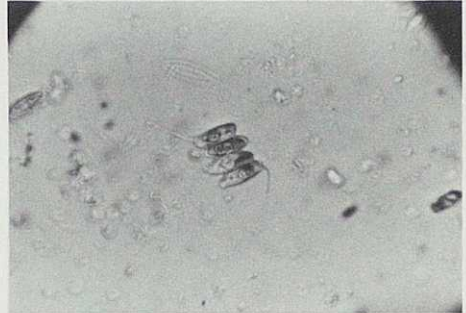
34 *Euchlanis dilatata* ハオリワムシ



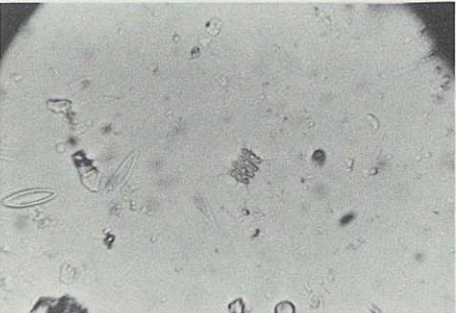
35 *Phabdolaimus* sp. センチュウの1種



36 *Oscillatoria* sp. ユレモの1種



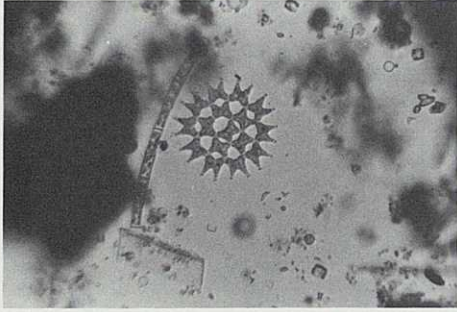
37 *Scenedesmus quadricauda* イカダモ



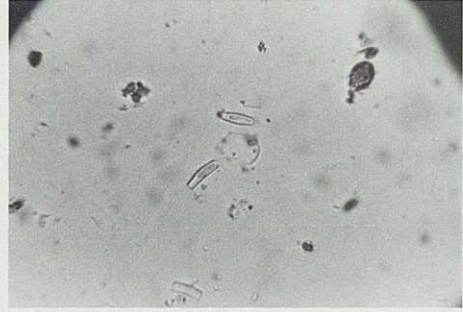
38 *Scenedesmus* sp. イカダモの1種



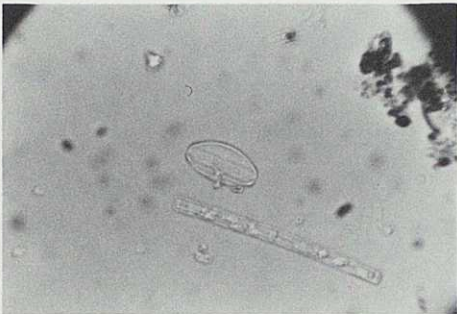
39 *Stigeoclonium* sp. キヌミドロの1種



40 *Pediatrum duplex* フタヅノクンシヨウモ



41 *Achnanthes minutissima* マガリケイソウ



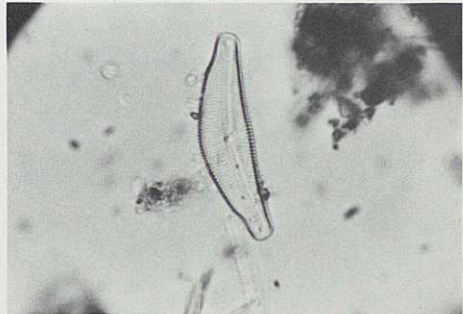
42 *Amphora ovalis* ニセクチビルケイソウ



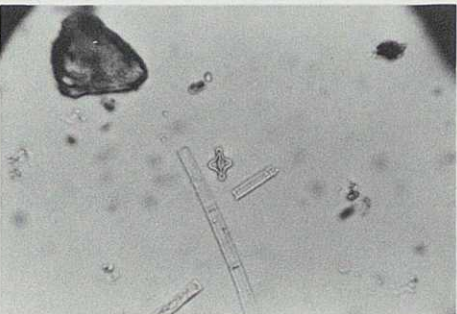
43 *Cocconeis placentula* コバンケイソウ



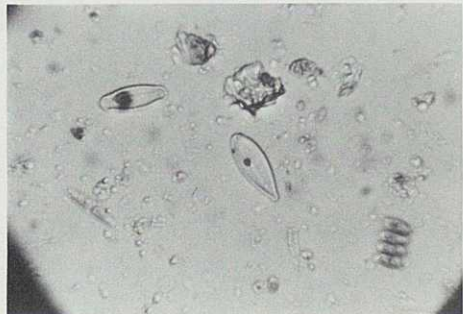
44 *Cyclotella comta* コマルケイソウ



45 *Cymbella turgidula* クチビルケイソウ



46 *Fragilaria construens* オビケイソウ



47 *Gomphonema parvulum* クサビケイソウ



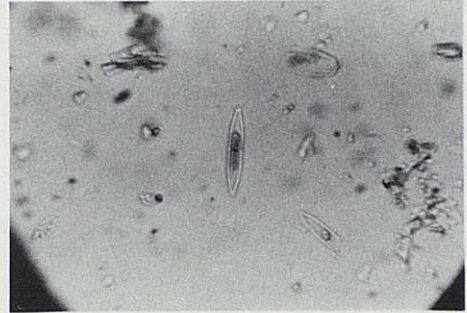
48 *Melosira granulata* チャヅツケイソウ



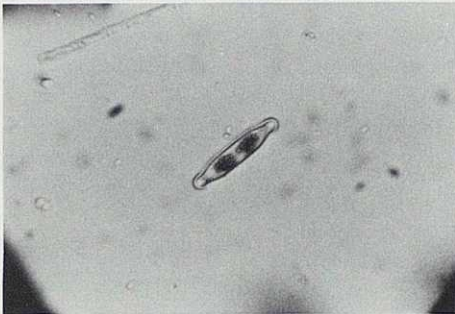
49 *Melosira granulata* チャヅツケイソウ



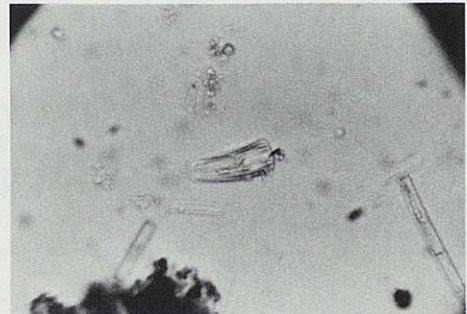
50 *Navicula pupula* フネケイソウ



51 *Nitzschia palea* ハリケイソウ



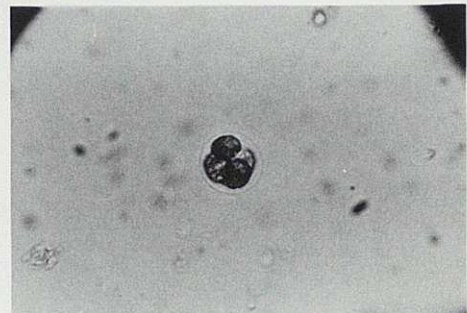
52 *Phinnularia braunii* ハネケイソウ



53 *Phoicosphenia curvata* マガリクサビケイソウ



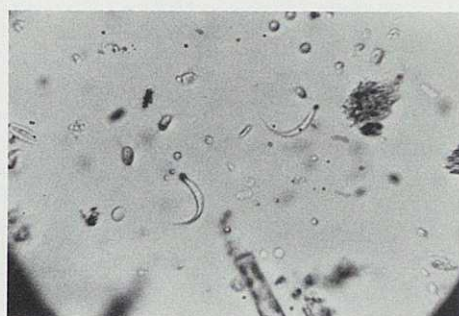
54 *Synedra acus* ナガケイソウ



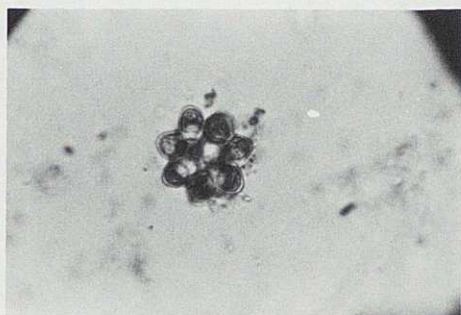
55 *Chroococcus* sp. クロオコックスの1種



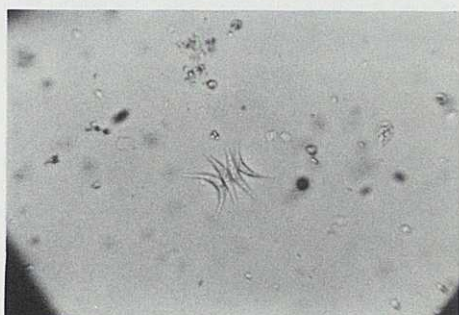
56 *Actinastrum hantzschii* アクティナスツルム



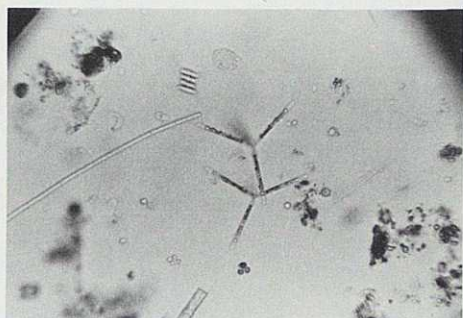
57 *Ankistrodesmus falcatus* イトクズモ



58 *Coelastrum* sp. ケラスツルムの1種



59 *Scenedesmus acminatus* イカダモ



60 *Asterionella formosa* ホシガタケイソウ



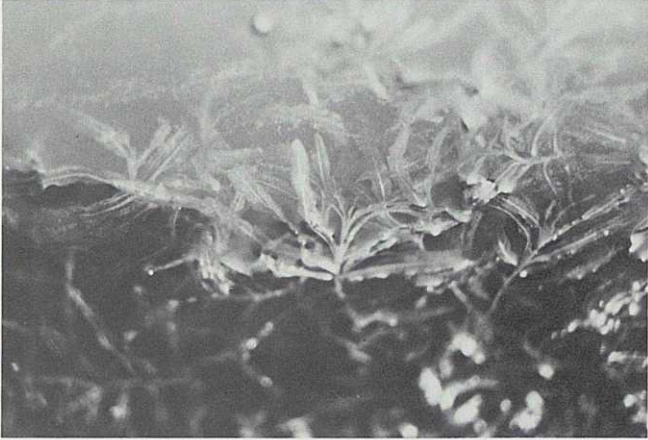
61 *Navicula viridula* フネケイソウ



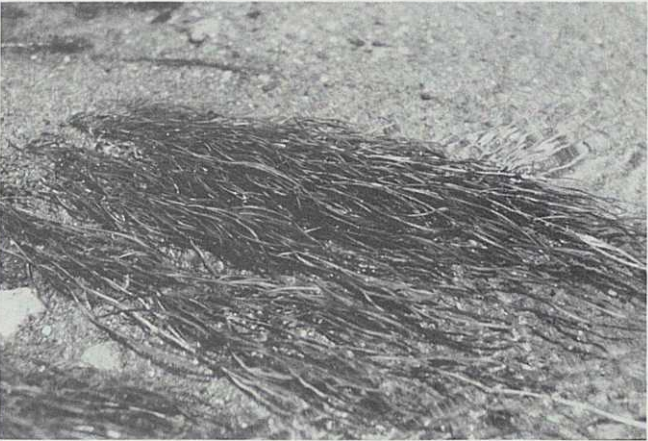
62 *Nitzschia acicularis* ハリケイソウ



63 *Surirella angusta* オオパンケイソウ



64 エビモ



65 ヤナギモ



66 オオカナダモ



69 善福寺川宮下橋下流魚巢ブロック



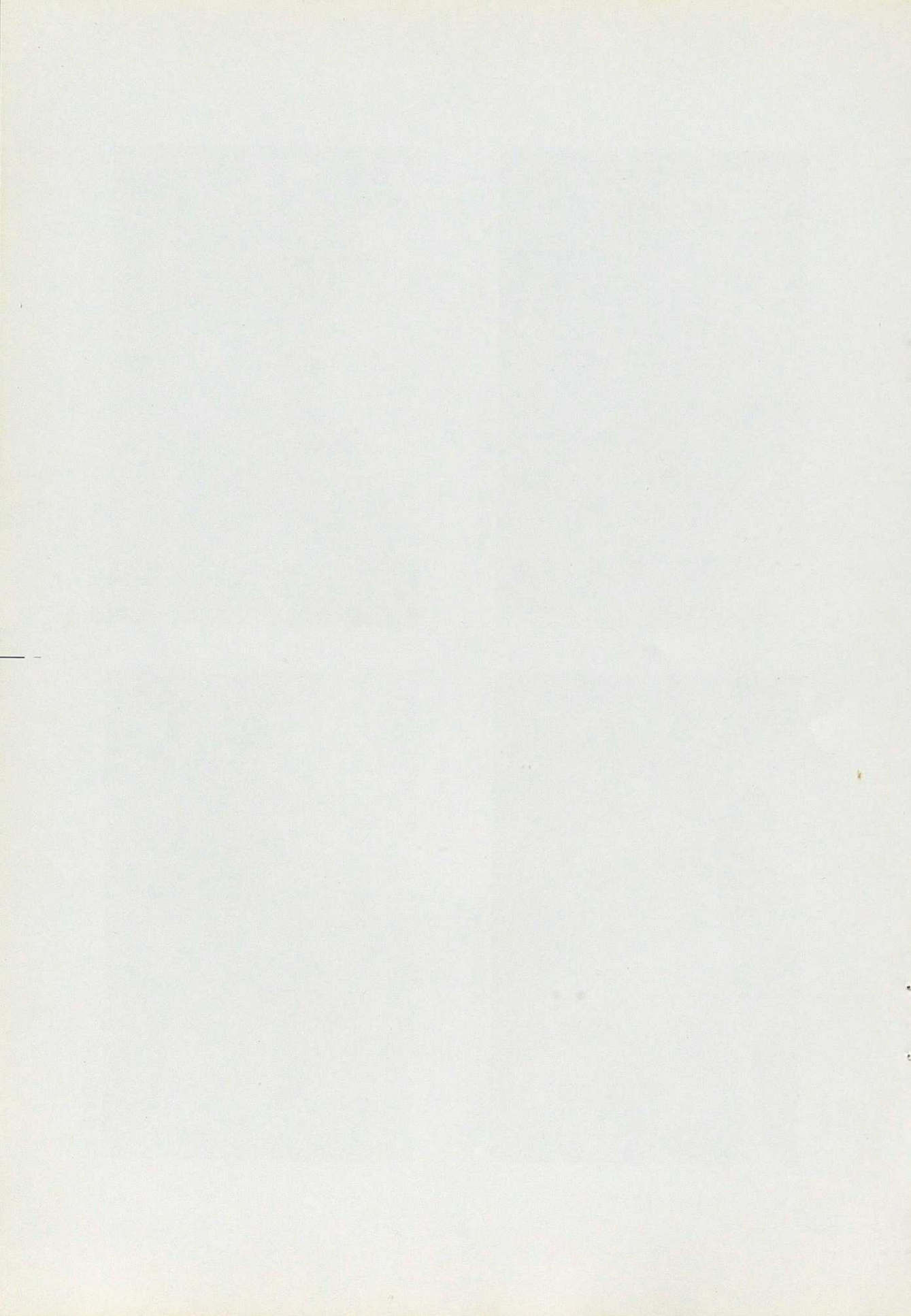
67 善福寺川鍛冶橋下流魚類調査

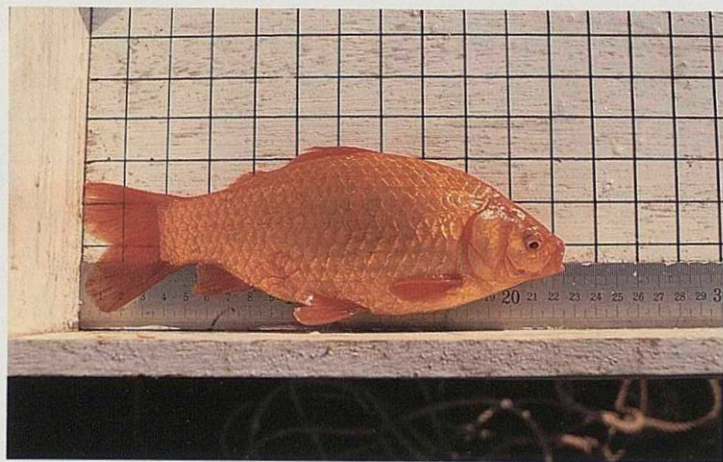


70 神田川乙女橋付近



68 善福寺川交通公園横





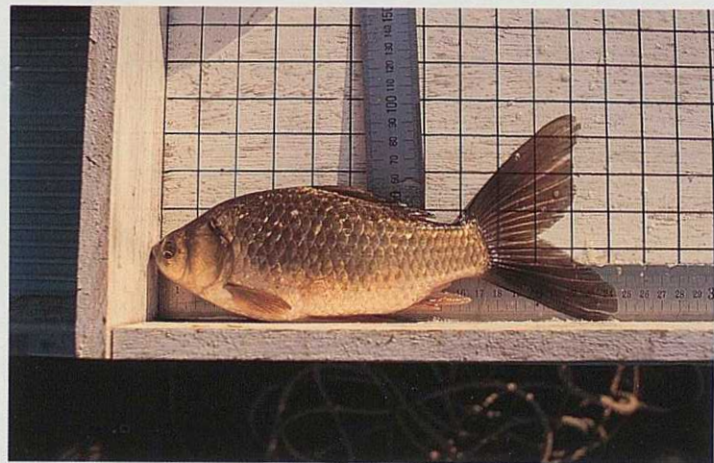
73 *Carassius* sp. ヒブナ 体重 190g 全長 23.5 cm



71 *Cyprinus carpio* コイ 体重 3700g 全長 59.0 cm



74 *Cambarus clarkii* アメリカザリガニ



72 *Carassius* sp. フナの1種(ヒレ長. 鉄魚?)
体重 24.5g 全長 59.0 cm



77 ハクセキレイ



75 キジバト



78 カタクリ



76 オオカナダモを採食中のコガモ♂(右)、♀(左)



79 チカラシバ



80 ネジバナ



81 ゲンノショウコ



82 ニワゼキショウ

写 真 索 引

- | | |
|---|--|
| <p>1 善福寺川鍛冶橋下流魚類調査風景(P.10)</p> <p>2 善福寺上池 (P. 35)</p> <p>3 久我山雑木林、カタクリ (P. 37)</p> <p>4 善福寺川尾崎橋付近 (P. 39)</p> <p>5 桃井第二小学校横、シラハタザクラ(P.41)</p> <p>6 善福寺上池、オナガガモ(手前)とカルガモ (P. 72)</p> <p>7 藻を採食しているコガモ (P. 75)</p> <p>8 <i>Nais</i> sp. ミズミミズの1種</p> <p>9 <i>Branchiura sowerbyi</i> エラミミズ</p> <p>10 <i>Tubifex</i> sp. イトミミズの1種</p> <p>11 <i>Haplotaxis</i> sp. ナガミミズの1種</p> <p>12 <i>Erpobdella lineata</i> シマイシビル</p> <p>13 <i>Glossiphonia weberi lata</i> ハバヒロビル</p> <p>14 <i>Sinotaia quadrata histrica</i> ヒメタニシ</p> <p>15 <i>Semisulcospira libertina</i> カワニナ</p> <p>16 <i>Radix auricularia japonicus</i> モノアラガイ</p> <p>17 <i>Physa acuta</i> サカマキガイ</p> <p>18 <i>Corbicula leana</i> マシジミ</p> <p>19 <i>Asellus hilgendorffii</i> ミズムシ</p> <p>20 <i>Baetis</i> sp. コカゲロウの1種</p> <p>21 <i>Hydropsychodes brevilineata</i> コガタシマトビケラ</p> <p>22 <i>Psychoda alternata</i> ホンチョウバエ</p> <p>23 <i>Chironomus yoshimatsui</i> セスジユスリカ</p> <p>24 <i>Pentaneura</i> sp. ヒメナガユスリカの1種</p> <p>25 <i>Peridinium</i> sp. ウズオビムシの1種</p> <p>26 <i>Euglena gracilis</i> ミドリムシ</p> <p>27 <i>Trachelomonas</i> sp. カラヒゲムシの1種</p> | <p>28 <i>Chlamydomonas</i> sp. コナヒゲムシの1種</p> <p>29 <i>Arcella vulgaris</i> ナベカムリ</p> <p>30 <i>Trinema lineare</i> ウロコカムリ</p> <p>31 <i>Colpoda</i> sp. オカメゾウリムシの1種</p> <p>32 <i>Amphileptus claparedei</i> アンファイルプス</p> <p>33 <i>Vorticella</i> sp. ツリガネムシの1種</p> <p>34 <i>Euchlanis dilatata</i> ハオリワムシ</p> <p>35 <i>Phabdolaimus</i> sp. センチュウの1種</p> <p>36 <i>Oscillatoria</i> sp. コレモの1種</p> <p>37 <i>Scenedesmus quadricauda</i> イカダモ</p> <p>38 <i>Scenedesmus</i> sp. イカダモの1種</p> <p>39 <i>Stigeoclonium</i> sp. キヌミドロの1種</p> <p>40 <i>Pediastrum duplex</i> フタヅノクンシヨウモ</p> <p>41 <i>Achnanthes minutissima</i> マガリケイソウ</p> <p>42 <i>Amphora ovalis</i> ニセクチビルケイソウ</p> <p>43 <i>Cocconeis placentula</i> コバンケイソウ</p> <p>44 <i>Cyclotella comta</i> コマルケイソウ</p> <p>45 <i>Cymbella turgidula</i> クチビルケイソウ</p> <p>46 <i>Fragilaria construens</i> オビケイソウ</p> <p>47 <i>Gomphonema parvulum</i> クサビケイソウ</p> <p>48 <i>Melosira granulata</i> チャヅツケイソウ</p> <p>49 <i>Melosira granulata</i> チャヅツケイソウ</p> <p>50 <i>Navicula pupula</i> フネケイソウ</p> <p>51 <i>Nitzschia palea</i> ハリケイソウ</p> <p>52 <i>Phinnularia braunii</i> ハネケイソウ</p> <p>53 <i>Phoicosphenia curvata</i> マガリクサビケイソウ</p> <p>54 <i>Synedra acus</i> ナガケイソウ</p> |
|---|--|

- 55 *Chroococcus* sp. クロオコックスの1種
- 56 *Actinastrum hantzschii* アクティナスツルム
- 57 *Ankistrodesmus falcatus* イトクズモ
- 58 *Coelastrum* sp. ケラスツルムの1種
- 59 *Scenedesmus acminatus* イカダモ
- 60 *Asterionella formosa* ホシガタケイソウ
- 61 *Navicula viridula* フネケイソウ
- 62 *Nitzschia acicularis* ハリケイソウ
- 63 *Surirella angusta* オオパンケイソウ
- 64 エビモ
- 65 ヤナギモ
- 66 オオカナダモ
- 67 善福寺川鍛冶橋下流魚類調査
- 68 善福寺川交通公園横
- 69 善福寺川宮下橋下流魚巢ブロック
- 70 神田川乙女橋付近
- 71 *Cyprinus carpio* コイ 体重 3700g
全長 59.0 cm
- 72 *Carassius* sp. フナの1種(ヒレ長、
鉄魚?) 体重 200g 全長 24.5 cm
- 73 *Carassius* sp. ヒブナ 体重 190g
全長 23.5 cm
- 74 *Cambarus clarkii* アメリカザリガニ
- 75 キジバト
- 76 オオカナダモを採食中のコガモ♂(右)、
♀(左)
- 77 ハクセキレイ
- 78 カタクリ
- 79 チカラシバ
- 80 ネジバナ
- 81 ゲンノシヨウコ
- 82 ニワゼキショウ

杉並区河川の生物
(河川生物調査報告書)

昭和58年3月発行

編集 杉並区環境部公害課
東京都杉並区阿佐ヶ谷南1-15-1
電話(312)2111 代表

印刷 中村印刷株式会社

